

刑法第二百九條ニ斟酌セルモノニシテ、而シテ我舊律ノ拒毆
官司差人、罪人拒捕ノ法ニ當タルモノナリ、

〔第一〇八六號〕 官命抗拒ノ罪ニ、二アリ、一ハ官吏ヲシテ、其
行ハントスル所ヲ行ハシメサルモノニシテ、一ハ官吏ヲシ
テ、其行ハサラントスル所ヲ行ハシムルモノナリ、此第一ノ
罪ノ成立センニハ、左ノ條件ノ具備センコトヲ要ス、一ニ曰ク、
官吏其職務ヲ以テ、法令ヲ執行スルコト、二ニ曰ク、犯人暴行脅
迫ヲ行フコト、三ニ曰ク、該官吏ニ抗拒シテ、其執行セントスル
所ヲ妨害スルコト是レナリ、第二ノ罪モ、亦之ニ同シ、其第一ハ、
官吏職務ヲ以テ、其事件ヲ行ハサラントスルコトヲ要シ、其第
二ハ、犯人、暴行脅迫ヲ用フルコトヲ要シ、其第三ハ、該官吏ニ抗
拒シテ、其執行セサラント欲スル所ヲ執行セシメタルコトヲ

要ス、此條件具備シテ、其罪成ルキハ、四月以上四年以下ノ重
禁錮ニ處シ、五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、然レモ法
文ニ於テ、第一ノ罪ト、第二ノ罪トニハ、異ナル所アリ、第一ニ
ハ、其官吏ニ抗拒シタル者トアリテ、第二ニハ、事件ヲ行ハシ
メタル者トアリ、第一ハ、抗拒スレハ、假令ヒ其官吏ハ、終ニ其
法令ヲ執行スルモ、其罪成リ、而シテ第二ハ、行ハシメントセシ
ノミニテハ、其罪未タ成ラス、第一ハ、職務ヲ妨害スレハ、即チ
罪ト爲リ、第二ハ、之ヲ妨害スルモ、其目的ヲ達セサレハ、罪ト
爲ラス、一ハ、目的ヲ遂ケテ、而シテ後ニ罰セラレ、一ハ目的ヲ達
セスト雖モ、罰セラル、是レ其事ニ爲不爲ノ別アルヲ以テナ
リ、(二三九條)

〔第一〇八七號〕 第一、官吏、其職務ヲ以テ、法令ヲ執行スル時

ニ係ルコトヲ要ス、此官吏トハ、如何ナル官吏ナイフヤ、曰ク、立法行政司法ヲ分タス、大小ノ官吏ナイフ、加之武官モ、亦此官吏中ニ在ルヘキナリ、佛國刑法第二百九條ニハ、官吏ノ名目ヲ示スト雖モ、之ヲ要スルニ、警察取締ノ官吏ノミニ限ル、然レモ我刑法ハ、然ラス、警察取締ノ官吏ニハ勿論、其他ノ官吏ト雖モ、之ニ抗拒スレハ、則チ罪アリ、然レモ實際ニ於テハ、警察取締ノ官吏ニ對スルニアラサレハ、抗拒ノ罪ヲ犯スコトナカルヘキノミ、佛國ニテモ、古昔ハ、廣ク官吏ニ對スル抗拒ノ罪ヲ罰スルノ法ナリシガモ、暴行脅迫ヲ以テ、其職務ヲ行フヲ妨害スルハ、警察取締ノ官吏ニ係ルキノ外、實際是レナカルヘキヲ以テ、今ノ法文ニハ、其官吏ノ目ヲ掲ケ、而シテ其目中ニハ、警察取締ノ官吏ノミヲ示シタルナリ、又佛國刑法ニテ

ハ、巡查憲兵等モ、皆法文中ニ在レモ、我刑法ニテハ、巡查憲兵等ハ、官吏中ニ入ルヤ否ヤ、分明ナラサルカ如シト雖モ、巡查憲兵モ、亦官吏中ニ入ルヘキナリ、舊律罵詈官吏條例中ニ、邏卒ヲ罵ルノ條アリテ、而シテ邏卒ハ、即チ巡查ノ舊稱ナリ、又警察廳管轄ノ巡查ニ就テハ、七年二月五日第十五號布告、府縣管轄ノ巡查ニ就テハ、八年十月二十四日第百八十二號達ニ、之ヲ准官吏ト爲シ、又憲兵卒ハ、巡查ト同ク、司法警察ノ事ヲ行フカ故ニ、亦是レ准官吏ナルヘキナリ、(十五年五月十三日二三號布告)

〔第一〇八八號〕 凡ソ官吏ノ職務ヲ行フノ正否ニ拘ハラズ、苟モ之ニ抵抗スレハ、則チ罪ト爲ルヘキヤ、曰ク、此問題ハ、佛國ニ於テモ、久シク人ノ論議スル所ニシテ、未タ明瞭ナルコト

ヲ得サルナリ、最初佛文原稿第六十七條ニ曰ク、法律規則ノ適用ニ就キ、又ハ行政司法ノ判決ノ執行ニ就キ、正ク取扱フ官吏ニ、重大ナル暴行又ハ脅迫ヲ以テ、抵抗シタル犯人ハ、六月以上四年以下ノ重禁錮、十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スト、又其註解ニ曰ク、尙ホ本條ニ關シテ、主タル注意ヲ爲スヘキモノアリ、即チ本條ニ論スル犯罪ハ、暴行若クハ脅迫ヲ受ケタル官吏、其職務ヲ以テ取扱ヒシ時ニ係ルノ外、眞ニ之ヲ犯スモノニアラサルト是レナリ、故ニ本條ハ、其官吏カ法律規則ヲ執行スル爲メ必要ナル權限、若クハ名義ヲ有シ、且ツ其執行セント欲スル處置ニ付テ、法律上ニ要スル法式、期限、其他ノ條款ヲ、遵守セルトチ想像セシモノナリ、外國ノ法律モ、亦此點ニ付テハ、明文アルニアラス、殊ニ佛國ニ在テハ、

裁判所ニ於テ、人民官權ニ抗拒スル者ハ、常ニ罪人タルヲ免レサルモノナリト判決シ、又人民ハ、必ス先ツ官權ニ服従スヘシ、然ル後、之ニ對シテ請求訴訟ヲ爲スハ、格別ナリト判決シタルト、往々是レアリ、本條ハ、更ニ公平且ツ寛大ナルモニシテ、官權自ラ法律規則ニ循ヘル時ノ外、人民ノ官權ニ服従スヘキトチ要セサルナリト、又曰ク、此件ニ付テ、頗ル困難ナル場合ヲ生スルトアルヘシ、蓋シ執行ヲ任セラレタル官吏、自ラ法律規則ニ違フニアラスシテ、其執行スヘキ處置ヲ命シタル官權ニ於テ、法律規則ニ違フトナキヲ保セス、例ヘハ、州長ヨリ行政上ノ處置ヲ命令シタル時、其處置、州長ノ權限内ニ入ラサルトアリ、若クハ其處置ハ、或ル場合ノ外、爲スヘカラサルカ、又ハ或ル條款ヲ以テスルノ外、爲スヘカラサル

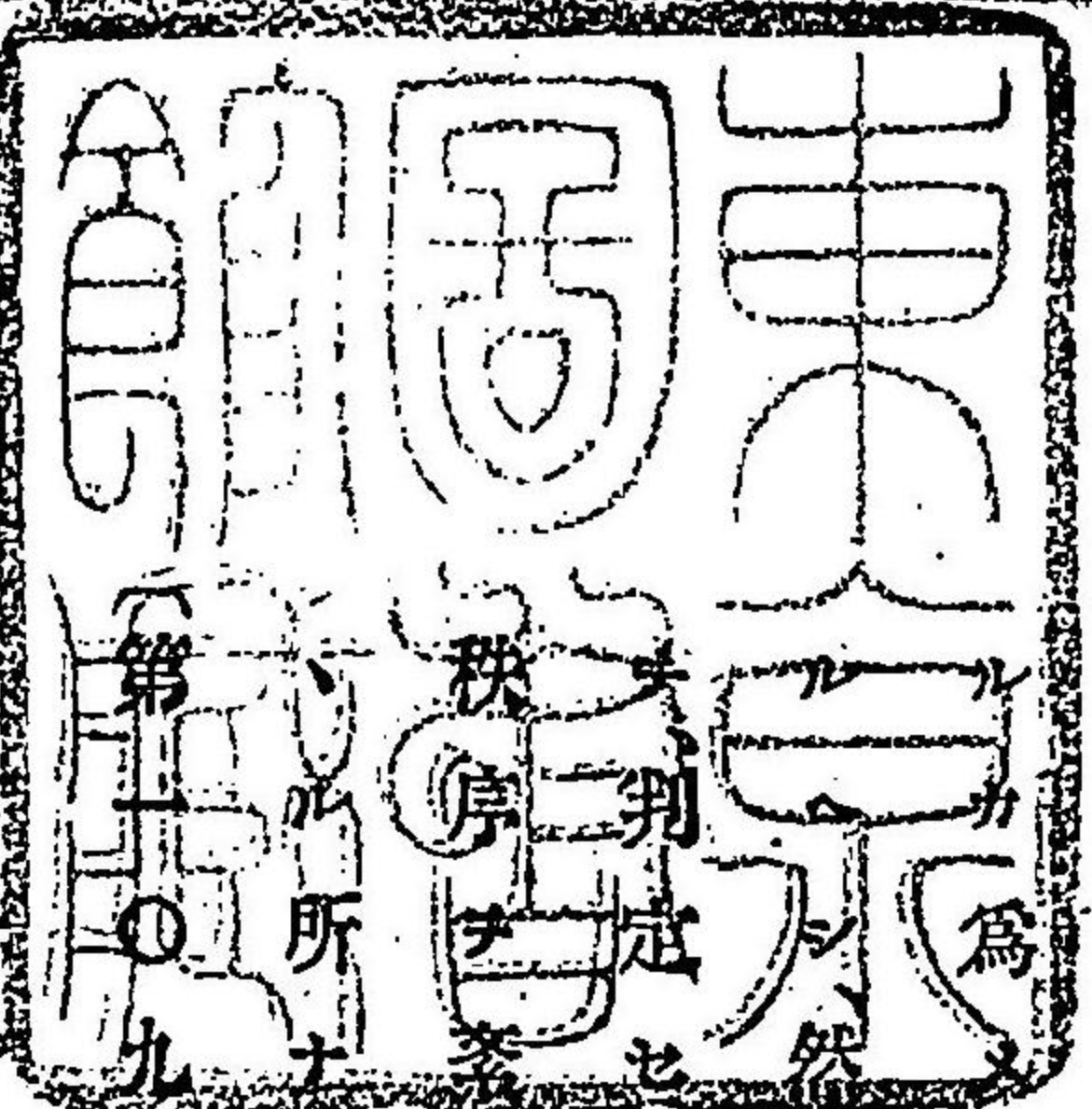
モノニシテ、而シテ其場合ニ係ラス、又ハ其條款ニ循ハサルイ
アルヘシ、是レ其處置ヲ受クル人民ノ口實トシテ、抗拒スル
トアルヘキモノナリ、然レモ此處置ヲ執行セント欲スル官
吏ハ、其職務ヲ有シテ、其法式條款ヲ遵守セルモノト看做セ
ハ、此場合ニ於テハ、人民ノ暴行脅迫ヲ以テ、之ニ抗拒シタル
者ハ、其罪ヲ免レヘカラサルナリ、何トナレハ其違法ハ、執行
官吏ヨリ出テタルトニアラスシテ、其官吏ハ、上長官ノ處置
不規則ナルモ、之ヲ議スルノ權利ナキヲ以テ、又自ラ其執行
ヲ拒ムノ權利ヲ有セサレハナリ、故ニ此場合ニ於テハ、人民
ハ抗拒スルトナク、服從セサルヘカラス、但シ後ニ該官權ニ
對シテ、請求訴訟ヲ爲スハ格別ナリトス、

〔第一〇八九號〕 以上ハ立案者ノ注解ナリ、尙ホ茲ニ佛國刑

法ニ參照シテ之ヲ論ゼン、佛國ニ於テハ、議論ニ派ニ分レ、裁
判例モ、未タ一定セサルナリ、ホースタンエリノ著書刑法原
論ニ就キ、佛國ノ裁判例ヲ掲ケ、併セテ其所論ヲ示サン、第一
例、使吏、備警兵二名ノ立會ヲ得テ、民事禁錮ノ裁判言渡ヲ執
行セシカ爲メ、被告人ノ家宅内ニ進入セシニ、本人此執行ニ
抗拒シタルカ故ヲ以テ、抗命ノ罪アリトシテ、公訴起レリ、輕
罪裁判所ニ於テハ、使吏ハ治安判事ノ立會ヲ得サレハ、訴訟
法第七百八十一條第五ニ於テ、其家宅ニ入テ、人民ヲ逮捕ス
ルトナシテ、ルカ故ニ、之ニ抗拒シタル所爲ハ、決シテ罪ト
爲ルトナシト判決シタリ、然ルニ大審院ニ於テハ、此判決ヲ
破毀シ曰ク、此法式ヲ闕キタルハ、本人ノ爲メニ、其身體ニ
對スル執行ヲ取消サシメ、損害賠償ヲ要求スル訴權ヲ生ス

ルノミコシテ、法式ヲ闕キタルヤ否ヤヲ判定スルハ、管轄裁判官ノ任ニ在ルコトナレハ、之レカ爲メ、使吏ニ對シテ、暴行ヲ爲スヲ許スヘキニアラス、第二百九條ニ依ルニ、裁判所ノ令狀ヲ携帶シ、其執行ヲ爲スノミコシテ、此公務人ニ對シテ、暴行ヲ以テ抗拒スレハ、即チ抗命ノ罪アリ、而シテ該條ハ、罪ノ成立ヲシテ、公務人ノ履行スヘキ法式ノ不規則ナルト否トニ關係セシムルコトナシ、人民ハ、法律ニ服從シ、又法律ニ從テ爲ス處分ニ服從スル義務ヲ拒絕セシカ爲メ、暴行ヲ以テ、自ラ其法式ニ違フト違ハサルトテ、裁判スルノ權利ヲ有スヘキニアラス、(千八百二十年四月十四日判決)第二例ハ現行犯ニアラサル場合ニ於テ、警部ノ發シタル逮捕ノ命令ヲ執行スル者ニ對シ、抗拒シタル件ニシテ、大審院ハ前例ト同ク、左ノ

わ



ノ如ク判決セリ、曰ク、如何ナル場合ニ於テモ、處分ノ不法ヲ暴行ヲ以テ、之ニ抵抗スルコトヲ、人民ニ許スコトナカラサレハ、人民ヲシテ、暴行ヲ以テ、官ノ處分ノ當否ヲシムルニ至ルヘシ、若シ如此クナラシムルハ、公ケノ秩序ヲ紊ルヘシ、是レ如何ナル法律ニ於テモ、決シテ許サズ、(千八百二十一年一月五日判決)

然レモ此二件ニ於テハ、執行官ハ、裁判言渡又ハ命令ニ依リ、事ヲ行ヒタル者ナレハ、該判決ニ於テ、抗命ノ罪アリトモ、至テハ、未ダ其可ナルヲ見サルナリ、大審院ニ於テハ、官吏ノ

處分ハ、總テ適正ノモノナリト推測シ、而シテ此推測ヲ以テ、官吏ノ處分ノ缺漏瑕瑾ヲ揜蔽スルカ故ニ、其處分ニ對シテ抵抗スレハ、則チ抗命ノ罪アリトセリ、千八百二十六年七月十五日判決ニ曰ク、公力者法律ノ委任ヲ受ケ、其資格ヲ以テ、職務ヲ行フキハ、之レノミヲ以テ、公力者ニ對シテ暴行ヲ爲スヲ禁スルコ足レリトス、若シ然ラサルニ於テハ、擅恣暴戻ヲ以テ、正當行權ト爲シ、終ニ一切ノ秩序ヲ紊亂シ、法律ヲ蔑如スルニ至ルト、千八百二十四年九月三日判決ニ曰ク、法律ヲ維持スル公力者及ヒ其長官ハ、法律ヲ遵奉シテ事ヲ行フ者ナリト、法律ニ於テ推測ス、該官吏、法律ニ違背シ、其權利ヲ妄用スルキハ、其責ニ任スルハ勿論ナリト雖モ、此責任タル、國民ニ對シテ、之ニ服従スルノ義務ヲ、免レシムルモノニアラ

ス、又如何ナル場合ニ於テモ、反對ノ證據ナキニ於テハ、其處分ヲ正當管轄官吏ノ行ヒタルモノト看做スカ故ニ、國民ハ、此處分ニ對シ、暴行ヲ以テ、抵抗スルコトヲ得スト、之ト其旨趣ヲ同クスル判決、尙ホ多シ、之ヲ約言スレハ、命令ハ、不法ナルモ、權威ハ、妄用スルモ、國民ハ、必ス之ニ服従スヘシ、國民ハ法律上正當ナリト推測スル處分ニ對シ、決シテ異議ヲ唱フルコトヲ得ス、但其執行後ニ於テ、訴ヲ爲スノ權アルノミトスルナリ、

〔第一〇九一號〕 然レモ控訴院中ニハ、大審院ノ判決ヲ不當ナリトシテ、之ニ循ハサル所アリ、千八百二十三年三月五日アシヤン控訴院ハ、多衆ノ騷擾スルヲ解散セシメンカ爲メ、某長官ノ兵ヲ卒ヒシキ、其兵ニ對シ、多衆ノ者、暴行ヲ爲スト雖

モ、其兵タル、行政官ノ請求ニ由リ、發遣シタル者ニアラサレ
 ハ、該暴行ハ、抗命ノ罪ニアラスト判決セリ、又千八百二十四
 年六月十日リヨン控訴院ハ、民事禁錮ノ言渡ヲ執行セシカ
 爲メ、使吏ハ、二名ノ備警兵ト共ニ、負債者ノ家宅ニ出張スル
 モ、治安判事ノ立會ナケレハ、負債者ハ、之ニ抗拒スルノ權ア
 リト判決セリ、又千八百二十六年十二月十一日リモージュ控
 訴院ハ、備警兵ハ、違警罪ノ被告人ヲ逮捕シ、獄舎ニ引致スル
 チ得サル者ナレハ、其被告人ハ、如此キ壓制ノ處分ニ對シ、抗
 拒スルノ權アリト明言セリ、又夜中備警兵ノ人家ニ侵入シ
 タルニ抗拒シタルハ、正當ノ事ナリト判決シタリ、(千八百二
 十六年二月二十三日ツールズ控訴院千八百二十六年十
 一月二十一日コールム控訴院判決)其他之ニ類スル判決尙ホ

多シ、

〔第一〇九二號〕公力者、越權ノ場合ニ於テ、之ニ抵抗スルノ
 權ハ、大審院ニテハ、社會ノ秩序ヲ紊亂スルモノナリトスト
 雖モ、此權ハ古昔ヨリ人ノ認定セル所ノモノニシテ、羅馬ニ
 在テ、フアリナシヌスハ、人民ハ裁判所ノ命令ニ服従スルヲ以テ
 原則ト爲シ、而シテ又變則ヲ揭ケテ、裁判官又ハ其管下ノ吏員、
 弄權ノ場合ハ、格別ナリトセリ、又シロチヌス曰ク、凡シ力ヲ以
 テ抵抗スルモ、他ノ權利ヲ害セサレハ、不正ノ所爲ナリトス
 ヘカラス、其目的、他ノ不正ノ攻撃ヲ排斥スルニ在レハ、反テ
 是レ正當ノ所爲ナリ、公力者、其權利ニ反シテ事ヲ行ヒ、其處
 分擅横ナレハ、公力者ハ、其資格ヲ失ヒ、一人民ニ過キス、一人
 民ノ暴行ハ、力ヲ以テ抗拒スルヲ得ト、シニス曰ク、拘禁セ

トスル者ニ對シ、抗拒スルヲ得ル場合アリ、今其著大ナルモノヲ示サン、逮捕者、其資格ヲ有セサル場合、又其資格ヲ有スルモ、其職務ヲ行フノ記章ナキ場合、又其資格ヲ有セサル裁判官ノ令狀ヲ携帯スル場合、又其權限ヲ越エ、若シハ法式ニ從ハサル場合ノ如キ是レナリ、此等ノ場合ニ於テハ、之ニ抗拒スルハ、抗命ニアラスシテ、正當防禦ナリ、故ニ不正ノ逮捕ヲ受ケントスル者ハ、之ニ抗拒スルコトヲ得ルノミナラス、其防衛ヲ助ケシメンカ爲メ、故舊隣佑ノ救護ヲ求ムルコトヲ得ト、而シテ此原則ハ、憲法議院ニテ、之ヲ採用シ、千七百九十三年五月二十四日ノ憲法第十一條ニ、之ヲ明示シ、而シテ近世諸國ノ法律ニモ、之ヲ採用セシモノ往々是レアリ、

〔第一〇九三號〕 今ヤ眞ノ原則ヲ論定セントス、而シテ之ヲ論

定スルニハ、大審院ノ說ハ、之ヲ排斥セサルヘカラス、古法並ニ近世諸國ノ法律ニ採用シテ、數百年間實行シ、法律博士モ唱道セル抗拒ノ權ヲ以テ、大審院ハ、公安ヲ妨害シ、法律ヲ蔑如スルモノナリト爲スト雖モ、果シテ如此キモノナリトハ、信セラレズ、已ニ法律ニ於テ、官吏ノ職權ヲ定メタル以上ハ、官吏、其職權ヲ犯シテ、不法ノ處分ヲ爲スルハ、之ヲ保護セサルモ社會ノ危害ヲ生スヘキニアラス、又法律ヲ執行スル者、蔑如セラル、モ、已ニ其者自ラ職務ヲ蔑如シタルハ、之ニ抗拒スルモ、法律ヲ蔑如シタルニアラス、危害アリト爲スハ、是レ擅横ト行權トヲ混シテ、法律ヲ蔑如スルト爲シ、之ヲ保護スルハ、不法ノ處分モ、合セテ之ヲ保護セントスルナリ、茲ニ此論題ノ旨趣ヲ明瞭ナラシメサルヘカラス、今論スル所ハ、官權

ニ抗拒スル原理ニアラス、官吏ト雖モ、其職權外ニ於テハ、官
 權ノ代理人タル資格ヲ失フカ故ニ、之ニ抗拒シテ妨害ナシ、憲
 法アル政府ニ於テハ、官權ハ即チ法律ヲレハナリ、今茲ニ論
 スヘキハ、法律ハ、官吏、其職權ヲ妄用シ、規則ヲ犯スモ、仍ホ之
 チ保護スヘキヤ否ヤニ在リ、其論定スル所、世間一様ナラサ
 ルモ、公安ニハ、重大ナル關係ナシ、何トナレハ、公安ノ爲メニ
 ハ、官權ヲ妄用スルコトハ、之ヲ保護スヘキ利益ナグレハナリ、公
 安ハ、法律ニ基クモノニシテ、擅横ニ基クモノニアラス、然レ
 此事件ニ就テハ、一概ニ純正ノ規則ヲ設クルハ不可ナリ、
 凡ソ公力者ノ所置不法ナレハ、其如何ヲ論ゼス、總テ之ニ抗
 拒スルコトヲ得ルコトセハ、實ニ危害ヲ生スルニ至ルヘシ、官
 吏其不法ニ涉ルコトヲ知ラサルモ、不法ニ涉リテ處置スレハ、

輒チ常ニ法律ノ保護ヲ與ヘストスルハ、實地能ハサルコトニ
 シテ、而シテ又如此クセハ、必ス危害ヲ生スヘシ、例ヘハ、使吏、書
 類ヲ送達センニ、使吏ハ、其書類ノ正否ヲ斷定スル者ニアラ
 ス、其書類ニ不法ノ所アルモ、使吏ノ過失ニアラス、又國民モ、
 其書類ノ正否ヲ斷定スル者ニアラス、唯裁判所ニ訴ヘテ、之
 チ取消サシムルコトヲ得ルニ、若シ各關係人ニ與フルコト、其
 正否ヲ斷定スルノ權ヲ以テセハ、法律ニテ、官吏ニ委任スル
 所ノ權ヲ剝奪スルナリ、故ニ大審院カ、憂慮スル所ノ事由モ
 是レナキニアラス、又法律官命ヲ執行シテ、不法ナルモ、亦其
 執行ノ確實ナルコトヲ保スル所以ニ違フヘシ、然レモ能動ノ
 抗拒ハ、現在權利ヲ妨害セラル、キニアラサレハ、正當ナラ
 ス、是レ萬已ムコトヲ得サルニ出ル極端ノ方法ナリ、ハルベイ

ラク曰ク、其不正タルコト、確實ナラスシテ、堪忍スルヲ得ルモノアリ、又其不正タルコト、分明ニシテ、堪忍スヘカラサルモノアリ、之ヲ區別スヘシ、此第一項ハ、人民其執行ヲ受クルノ義務アリ、此第二項ハ、其執行ヲ受クルノ義務ナシト、然レモ其困難ナルハ、此區劃ヲ定ムル所ニ在リ、

〔第一〇九四號〕 一般ノ原則ハ、官命ニ從順シ、公力者ノ處分ヲ承受スルコト在リ、此官吏ニ暴行ヲ以テ抵抗スルモ、犯罪タリトス、宥恕ノ原由ヲ證明セサレハ、其罪ヲ免ルヘカラス、大審院ニテ、官吏ノ爲メニ、其執行ヲ正當ナルモノト推測スルハ、當然ノコトナリ、然レモ濫ニ其結果ヲ擴張スルコトヲ得ス、官吏其職務ヲ執行シ、又ハ其書類ヲ携帯スルモ、其處分書類ニ瑕瑾アルモ、之ニ抵抗スレハ、則チ其罪タルコトヲ免レズ、

是レ其書類タリ、其官吏タル、法律上之ニ利益ナル推測ヲ有スルモノナレハナリ、若シ不法ナル所アラハ、人民ハ、別ニ賠償ヲ要求スヘキノミ、官吏ニ不法ナル所アリト雖モ、其所爲ハ、則チ職權内ノモノニシテ、而シテ、他ノ權利ヲ害セハ、其責ニ任スヘキカ故ニ、官吏ノ暴行ヲ爲サ、ル限リハ、之ニ抵抗スル所以ナシ、然レモ官吏職權妄用ノ罪ヲ犯シタルモ、其處分ヲ正當ナリト推測スルコトヲ得ス、例ヘハ現行犯罪ニアラサル場合ニ於テ、令狀ナシシテ、公力者、人ヲ逮捕シ、使吏、財産差押ヲ命スル裁判言渡書ヲ示サスシテ、差押ヲ爲シ、又ハ法律ニ定メタル場合ノ外ニ於テ、家宅搜索ヲ爲スカ爲メ、公力者、夜中ニ人家ニ侵入スル如キ場合はレナリ、此種ノ場合ニ於テハ、官吏ハ、職務ニ依リ、保護ヲ受クルコトヲ得ス、

何トナレハ、其事タル職權外ニ涉リ、又ハ書類ヲ携帶セサレハ、之ヲ以テ、其處分ノ正當ナルヲ證スルヲ得サレハナリ、官吏ノ處分、其職權内ノ事ニアラス、又法律官命ノ執行ニモアラサレハ、是レ則チ一暴行ナリ、此暴行ニ抵抗スルハ、固ヨリ妨ナシ、況ンヤ其犯罪タルキニ於テチヤ、之ニ抵抗スルハ、一正當防衛ナリ、官吏ノ處分ニ係ルト雖モ、暴行ハ即チ暴行ニシテ、而シテ暴行ニ防衛スルニ係ルキハ、官吏ニ對スルキト雖モ、正當防衛ナリ、其人ニ由リ、身分ニ由テ、其事ノ性質ノ變スヘキニアラス、然レモ官吏ノ處分、不正ナレハ、輒チ之ニ抵抗スルニ、力ヲ以テスルヲ得ルトイフニアラス、官吏、處分セントシテ、言語ヲ以テ要求スルノミナレハ、我亦言語ヲ以テ、之ヲ拒絕シ、固執シテ、其處分ヲ受ケサルノミニテ、我ノ權

利ハ、十分ニ之ヲ保護スルヲ得ヘシ、此場合ニハ、所動ノ抗拒ヲ爲スノミニ止マリ、官吏ヨリ力ヲ以テ處分セントスルキニアラサレハ、我力ヲ用ヒ、能動ノ抗拒ヲ爲スヘカラス、又此場合ニ於テモ、抗拒ハ、暴行ヲ防止スルヲ度ト爲シ、過キテ害ヲ加フルヲ得ス、己レノ權利ヲ保存スルニ必要ナラサルモノハ、正當ノ防衛ト爲スヘカラス、然レモ過度ノ所爲アルモ、其所爲ハ抗命ノ罪ニハアラス、但シ他罪ヲ以テ之ヲ論スルハ格別ナリ、

〔第一〇九五號〕 今ヤ一區別ヲ爲シ以テ、此事件ニ關スル諸種ノ利益ヲ調和セントス、此區別タル、直チニ抗命罪ヲ罰スル法理ヨリ生スル結果ナリ、何トナレハ官權ニ對セサレハ、抗命罪ハ、生スヘキモノニアラサレハナリ、而シテ又此區別ハ、

刑法ノ正條中ニモ、含蓄スルモノナリ、第二百九條ニ由リ、抗命罪ヲ罰スルニハ、法律、官廳ノ命令、裁判官渡ヲ執行スルニ當リ、其執行官吏ニ對シテ、之ヲ犯ス、トテ要ス、故ニ抗命罪ハ、二條件ヲ具備ス、第一、官吏ハ、其權限内ニ於テ、職務ヲ行フ者タルヲ、第二、法律ヲ執行シ、又ハ命令ヲ執行スルヲ、此二條件ノ具備スルニモ、アラサレハ、法律ハ、其職務ノ執行ヲ保護セシメ、又之ニ對スル抗拒ヲ以テ、法律ニ對シ、官權ニ對スルモノト看做サス、是レ第二百九條ノ法文ニ、適當スル解釋ナリ、以上ハ、ホーヌタノエリ、ノ所説ヲ略記セルモノニシテ、而シテ、ボアタルノ刑法講義(るそん、ど、どろあ、くりみねる)ニモ、全ク之ト同一ノ説ヲ掲ケタリ、佛國刑法ノ解釋ニ於テハ、蓋シ間然スル所ナカルヘシ、

〔第一〇九六號〕 佛國ニ於テハ、如此クナルヘケレバ、我國ニ於テモ、亦直チニ之ニ從フテ可ナルヘキヤ否ヤ、未タ知ルヘカラス、第一〇八八號ニ掲ケシ如ク、我草案第百六十七條ニハ、正ク取扱フ官吏トアリ、而シテ其註解ニハ、其官吏カ、法律規則ヲ執行スル爲メ、必要ナル權限若クハ名義ヲ有シ、且ツ其執行セント欲スル處、置ニ付テ、法律上ニ要スル法式、期限、其他ノ條款ヲ遵守セルヲ想像セシモノナリトアリ、此原稿ノ旨趣ニテハ、佛國控訴院ノ判決ノ如ク、苟モ官吏ニ不正不法ナル所アルニ於テハ、之ニ抗拒スルモ、罪トセサルニ似タリ、而シテ今ノ法文ハ、之ニ異ナリテ、佛國大審院ノ判決ノ如ク、假令ヒ官吏ニ不正ナル所アルモ、之ニ抗拒スレバ、則チ罪アリトスルモノニ似タリ、何トナレハ、法文ニハ、正ク取扱フノ

語ヲ刪テラレタレハナリ、正クノ語ナキハ、則チ取扱執行ノ正
 否ヲ論セサルモノ、如シ、然レモ余思フニ、此語ヲ刪テレシ
 ハ、正否ヲ論セサルノ意ニハアラサルヘシ、其意ハ則チ原稿
 ト同一ナルヘシ、蓋シ法律命令ヲ執行シテ、正シカラサルキ
 ハ、之ヲ執行トスルニ足ラス、官吏ノ之ヲ執行シテ、其正シキ
 ハ、論ヲ待タサル所ナルヲ以テ、刪テレシナリ、如此キハ、刑法
 中間ニ是レアリ、原稿第二百一十一條(今ノ第七十七條)ニハ、
 官署ヨリ規則正ク(れぢりえるまん)要求ヲ受ケトアリ、又第
 二百十二條(今ノ第七十九條)ニハ、正ク(ぢまん)命セラレト
 アリキ、今規則正ク、又ハ正クノ語ナシト雖モ、要求命令ノ正
 シキハ、論ヲ待タサルヘキナリ、又原稿ニモ、今ノ法文ニモ、正
 シキトイヘル語ナシト雖モ、其正シキモノナルヘキハ、イハ

か

スシテ明ナル所アリ、原稿第八十九條(今ノ第五十七條)
 ニ曰ク、官命ヲ受ケス、又ハ官許ヲ得スシテ、陸海軍ノ用ニ供
 スル銃砲彈藥ヲ製造シタル者云々ト、正シキ官命、正シキ官
 許トイハスト雖モ、其正シカラサル官命官許ニ依テ、之ヲ製
 造セハ、其罪ヲ免ルヘカラサルナリ、官吏ヨリイヘハ、法律規
 則ヲ執行シテ、命令ヲ下タシ、許可ヲ與フルナリ、人民ニ就テ
 イヘハ、法律規則ノ執行ニ依リ、官命官許ヲ受クルナリ、其事
 タル固トニアルニアラズ、然レハ此一方ニ於テ、正シカルヘ
 キモノハ、他ノ一方ニ於テモ、亦正シカルヘキハ、理ノ當然ナ
 ルヘキナリ、之ニ依リ、第三百三十九條ニ所謂ル、執行モ、其正シ
 キモノナルヲ知ルヘキナリ、

〔第一〇九七號〕 故ニ執行ノ正シキモノニ抗拒スレハ、罪ア

リ、而シテ其正シカラサルモノニ抗拒スレハ、罪ヲシトス、而シテ其正否ハ、執行官吏ノ職權内ニ係ルト否トニ從ヒ、之ヲ分ツヘシ、或曰ク、立案者ノ註ニ曰ク、本條ハ、其官吏カ、法律規則ヲ執行スル爲メニ必要ナル權限、若クハ名義ヲ有シ、且ツ其執行セシムト欲スル處置ニ付テ、法律上ニ要スル法式、期限、其他ノ條款ヲ遵守セルトテ想像セシモノナリ、又曰ク、本條ハ、更ニ公平且ツ寛大ナルモノニシテ、官權自ラ法律規則ニ循ヘル時ノ外、人民ノ官權ニ服従スヘキトテ要セサルナリト、此註解ニ依レハ、職權ノ内外ヲ以テ、正否ヲ分ツノミナラス、職權内ニ在テモ、尙ホ皆其細目ノ規則ニ適セザレバ、正シキモノナリトスルヲ得サルニ似タリ、如何、曰ク、然ラサルヘシ、註解ニ曰ク、執行ヲ任セラレタル官吏、自ラ法律規則ニ違フ

コアラスシテ、其執行スヘキ處置ヲ命シタル官權ニ於テ、法律規則ニ違フコナキヲ保セス、此場合ニ於テ、執行官吏ハ、上長官ノ處置不規則ナルモ、之ヲ讞スルノ權利ナキヲ以テ、又自ラ其執行ヲ拒ムノ權利ナシ、故ニ此場合ニ於テハ、人民ハ、抗拒スルコナク、服従セサルヘカラス、執行官吏カ、上長官ノ命ヲ拒ムヘカラサルト、人民カ、執行官吏ノ命ヲ拒ムヘカラスルト、其理一ナリ、執行官吏ハ、所謂本屬長官ノ命令ニ從ヒ、其職務ヲ以テ爲シタル者ニシテ、其執行ヲ爲スノ權アリ、執行官吏ニ、其權利アルニ於テハ、人民モ亦之ニ順從スルノ義務アルコト知ルヘシ、故ニ其官吏ノ職務内ノ事ニ係ルキハ、僅ニ法式等ニ違フ所アルモ、人民ハ、之ニ抗拒スルコト得ス、之ニ抗拒スレハ、則チ其罪ヲ免ルヘカラス、又此罪ハ、獨人民

ノ犯ス所ニアラス、官吏モ亦犯スヲアルヘシ、即チ其本屬長官ノ法律ニ依リ、命令ヲ下タスニ當リ、暴行脅迫ヲ以テ、之ニ抗拒スル場合はレナリ、此場合ニ於テモ、其命令ハ、長官ノ職務内ノモノタルト否トニ從ヒ、之ヲ受クル者ノ罪ノ有無ヲ斷定スヘシ、又何レノ場合ニ於テモ、執行官吏カ暴行ヲ以テスルキニアラサレハ、暴行ヲ以テ之ニ抗拒スルヲ得ス、彼我チ強ユルニ、言語ヲ以テセハ、我亦彼ニ抗拒スルコ、言語ヲ以テセシヨミ、又官吏ノ職務内ニ於テスルキハ、僅ニ不法ノ所アルモ、之ニ抗拒スレハ、罪タルヲ免レスト雖モ、抗拒者ニ於テ、其官吏タルヲ認メサル場合ハ、罪トスルヲ得ス、故ニ執行官吏モ、亦謹マサルヘカラサルナリ、

〔第一〇九八號〕 尙ホ茲ニ一言スヘキモノアリ、弄權ト越權

トノ別是レナリ、弄權ハ、法律ノ罰スル所ニシテ、而シテ越權ハ、法律ノ罰セサル所ナリ、所謂ル弄權ハ、官吏瀆職ノ罪ニシテ、第二百七十三條以下ノ區別ニ從ヒ罰スヘシ、之ヲ佛語ニハビ、*ドール*トイテ、佛國刑法モ、亦其第八十四條以下をあるトイヒ、我治罪法ニ於テモ、佛國治罪法ニ於テモ、上訴ノ一原由トセルノミニシテ、刑法ニテ之ヲ罰スルヲナシ、此越權ノ處分ハ、固トヨリ不法不正ノモノナレトモ、之ニ對シテハ、抗拒スルヲ得ス、之ニ反シテ、弄權ハ、刑法ノ罰スル所ナレハ、之ニ對シテ、抗拒スルヲ得ルハ、勿論、其現行犯罪ノ場合ニ於テハ、警察官巡查等ハ、之ヲ逮捕スルノ義務アリ、人民ハ之ヲ逮捕スルノ權利アリ、又官吏ノ抗拒シタル場合ニ於

テハ、其暴行ヲ爲スト否トナ分テ、或ハ第三百三十九條ニ從テ處分シ、或ハ第二百七十三條ニ從テ處分スヘシ、

〔第一〇九九號〕官命抗拒ノ罪ヲ構成スル、第二ノ要件ハ、犯人暴行脅迫ヲ行フテ是レナリ、然レモ所謂ル暴行脅迫トハ、如何ナル所爲ヲイフヤ、法律ニ其解ナシ、暴行ハ、粗暴ノ行爲ノ謂ニシテ、其意甚タ廣シト雖モ、今用フル所ハ、如此キ意ニハアラサルヘシ、暴行ハ、原稿ニハ、うゐたらんすトイヒ、うゐたらんすハ、勢力ヲ以テ、迫テ人ノ身體ヲ侵スコトナリ、(英語ニわいせられんすトイフ、英和字典ニ、強逼、強行、暴虐等ノ語ヲ以テ譯セリ、參考スヘシ)脅迫ハ、ひなすトイヒ、亦勢威ヲ以テ、迫テ人ノ精神ヲ侵スコトナリ、一ハ身ニ迫リ、一ハ心ニ迫ルト雖モ、共ニ其自由ヲ制縛スルノ所爲ナリ、故ニ迫テ其身心ヲ侵スコアラ

サレハ、暴行ハ、即チ暴行ナリト雖モ、うゐたらんすニハアラス、故ニ又犯罪ヲ構成スルノ暴行トハイフヘカラス、夫ノ官文書ヲ毀棄シ、又ハ官吏ヲ侮辱スルカ如キモ、暴行タルヘシト雖モ、此所爲ハ、第四百四十一條第二百三條等ノ罰スル所ニシテ、第三百三十九條抗命ノ罪ニハアラサルナリ、殺傷、毆打、監禁、脅迫ノ所爲ノ如キ、直チニ身體ニ對スルモノ、抗命罪構成ノ要件タルヘキハ勿論、直チニ身體ニ對セサルモ、放火、決水、船舶ノ覆没、家屋物件ノ毀壞等、財産ニ對スル所爲ニシテ、官吏ノ身心ヲ縛制スヘキモノハ、亦皆抗命罪ヲ構成スルノ條件タルヘキナリ、第四百四十二條、第四百四十七條、第二百八十二條、第三百九條、第三百十四條、第三百四十六條、第三百七十八條等ニモ、暴行脅迫ノ文字アリ、併セ考フヘシ、

〔第一一〇〇號〕 第三ノ要件ハ、當該官吏ニ抗拒シテ、其執行セントスル所ヲ妨害スルコト是レナリ、犯人カ、其目的ヲ達スルト、達セサルトニハ拘ハラヌ、故ニ官吏遂ニ其執行ヲ爲スコトヲ得サルキハ勿論、其執行ヲ爲スト雖モ、犯人之ニ抗拒シテ、妨害スルキハ、即チ罪アリ、其罪ト爲ル所ハ、抗拒ニ在リ、官吏チシテ、其執行ヲ遂ケシメサルト否トニハ、關スルコトナシ、例ヘハ、逮捕官吏、逮捕ヲ行ハントスルニ當リ、暴行脅迫ヲ以テ、之ニ抗拒スレハ、其己レノ爲メニスルト、人ノ爲メニスルトチ分タヌ、又終ニ其逮捕セラレ、トセラレサレトチ論セヌ、輒チ抗命ノ罪タルチ免レサルナリ、

〔第一一〇一號〕 第二ノ官命抗拒ノ罪モ、亦第一ノ罪ノ如ク、官吏、其職務ヲ以テ、其事件ヲ行ハサラントスルコトヲ要シ、犯

人、暴行脅迫ヲ用フルコトヲ要シ、又該官吏ニ抗拒シテ、其執行セサレント欲スル所チ、執行セシメタルコトヲ要ス、第一ノ罪ハ、官吏ノ職務ヲ行フチ妨害スルモノナルカ故ニ、官吏ノ職務ヲ行フ時ニアラサレハ、此罪ヲ犯ストヲ得ヌ、第二ノ罪ハ、官吏ノ爲サ、ラントスル所チ、爲サシムルモノナレハ、官吏ノ職務ヲ行フ時ト、之チ行ハサル時トチ分タヌ、官吏ニ其欲セサル所チ、行ハシムレハ、輒チ罪アリ、故ニ官吏ノ私宅ニ在テ、燕居スル時ニ當リ、之ニ其欲セサル所チ行ハシムルモ、亦其罪アリトス、況ンヤ官衙ニ在テ、其職務ヲ行フ時ニ於テチヤ、然レモ其行ハシムル所ハ、必ス該官吏ノ職務内ノ事ニ限ルヘシ、其職務外ノ事ナレハ、之チ行ハシムルモ、官命抗拒ノ罪トハ爲ルコトナシ、官吏ノ職務外ノ事ナレハ、其職務ヲ行フ

チ妨害シタルモノトイフヘガラサルカ故ニ、官命抗拒ノ罪トハ、爲ルコトナカルヘシ、其罪ト爲ルハ、官吏ノ職務ヲ行フ時ニハアラスト雖モ、其職務内ノ事ニ係リテ、其欲セサル所ヲ行ハシムルヲ以テノ故ナリ、

〔第一一〇二號〕或曰ク、法文ニ云ク、其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者ト爲ス可カラサル事件トハ、職務外ノ事件ナラスヤ、職務内ノ事件ニシテハ、其爲ス可カラサルモノアルヘキコアラス、又事件ヲ行ハシメタル者トアレハ、暴行脅迫ヲ以テスルモ、官吏未ダ其事件ヲ行ハサルニ於テハ、罪ト成ラサルヘシ、然レハ罪ノ成否ハ、一ニ官吏ノ心如何ニ在ルモノ、如シ、又官吏ノ之ヲ爲サ、ルキハ、暴行脅迫ノ所爲ハ、未遂犯罪ヲ以テ論スヘキヤ、將タ侮辱等ノ所爲ヲ

以テ論スヘキヤ如何、余曰ク、官吏ノ爲ス可カラサル事件トハ、官吏ノ爲スコトヲ欲セサル事件トイフ、世間或ハ可カラサルノ文字ヲ解シテ、俗言ニ所謂ル爲すまじき事件トイフカ如ク、思フ者アレトモ、爲スマジキ事件ニハアラス、之ヲ解シテ爲スマジキ事件トスルカ故ニ、職務外ノ事件トイヘルカ如クニ誤解スルナリ、佛文原稿ニハ、ぬ、う、い、せ、れ、い、を、い、あ、こ、ん、ぶ、り、い、る、ト、ア、リ、成、ス、コ、ト、ヲ、欲、セ、サ、ル、ノ、意、ナ、リ、而、シ、可、ハ、字、書、ニ、肯、也、許、可、也、ト、ア、リ、故、ニ、可、カ、ラ、ス、ト、イ、ヘ、ハ、肯、セ、ス、許、サ、ル、ノ、意、ト、爲、ル、ナ、リ、但、シ、諸、法、律、中、可、ノ、字、アル、所、許、多、ア、リ、ト雖モ、必シモ其本義ニ從テ解スヘキコアラス、邦語ノ爲すまじき意ニ取リ、廣ク解スヘキモノモ、亦甚タ多シ、拘泥スルコトヲ得ス、又原稿ノあ、こ、ん、ぶ、り、い、る、ハ、成、シ、遂、ク、ル、ノ、謂、ナ、リ、而

ノ法文ニハ、爲ス可カラストアリ、原語ト異ナリ、原語ハ、成ス
 ノ意ニシテ、法文ニハ爲ストアリ、成ト爲ト、邦言ニテハ何レ
 モなすトイヘト、其意ハ同シカラス、成ハ成就ノ義アリテ、爲
 ニハ作爲ノ義アリ、成ハ、遂クル所ヨリイヒ、爲ハ、手ヲ下タシ
 爲スノ謂ニシテ、其遂クルト遂ケサルトニハ、關スルコトナシ、
 是レ混スヘカラス、故ニ官吏手ヲ下タシ爲スコトヲ欲セス、許
 サ、ルニ、強ヒテ手ヲ下タシメタルキハ、其事件ノ成否ヲ
 問ハス、皆罪トシ論スヘキナリ、但シ其事件ハ、官吏ノ職務内
 ノモノニ限リテ、其職務外ノモノハイフニアラス、其職務外
 ノ事件ハ、假令ヒ官吏ノ爲サント欲スルモ、其資格ヲ以テ
 ハ、爲スヲ得ヘカラサル所ナリ、

〔第一一〇三號〕 官吏ノ職務外ニ於テ、其爲スヲ得サル事件

ヲ、之ニ爲サシメタル者ハ、如何、曰ク、前ニモ一言セシカ如ク、
 職務外ノ事件ハ、官吏ノ資格ヲ以テ爲スヲ得サルモノニシ
 テ、而シテ其資格名分モ、其職制内ニ於テ、事務ヲ爲スルキニアラ
 サレハ、存セサルナリ、其職制外ニ於テハ、官吏モ官吏タルニ
 アラス、一人民ノミ、故ニ此場合ニ於テハ、人民ヲシテ、其爲ス
 コトヲ欲セサル事件ヲ、強ヒテ之ニ爲サシメタルヲ以テ論ス
 ヘシ、然レトモ人民ニ對シテハ、別ニ此罪ナシ、但其所爲ニ依リ、
 或ハ脅迫罪ヲ以テ罰シ、或ハ身體財産等ニ對スル罪ノ教唆
 者ヲ以テ、罰スヘキノミ、而シテ又此場合ニ於テハ、抗拒スヘカ
 ラサル強制ニ遇ヒタルキノ外ハ、其事件ヲ爲シタル者モ、亦
 既遂未遂ノ別ニ從ヒ、各其罪ヲ問ハルヘシ、

〔第一一〇四號〕 或曰ク、暴行脅迫ノ點ニ就キ、一疑問アリ、云

ク、官吏抗拒スヘカラスル強制ニ遇ヒ、其意ニアラサル事件
 ナ行ヒタルキハ、其責ニ任セスト雖モ、若シ其暴行脅迫タル、
 抗拒スヘカラスルモノニアラサルキハ、其責ヲ辭スルコトヲ
 得ス、故ニ本項ノ罪ハ、其暴行脅迫ノ抗拒スヘカラスル場合
 ニ限り、成立スヘキヤ否ヤト、曰ク、此疑問ヲ決センコトハ、此罪
 ハ、官吏ナシテ、其爲ス可カラサル事件ナ行ハシメタルキ、始
 メテ成立スルヤ、將タ官吏ナシテ、之ヲ行ハシメンカ爲メ、暴
 行脅迫ヲ爲セハ、則チ成立スルヤ、之ヲ考定スヘシ、法文ニ云
 ク、事件ナ行ハシメタル者ト、此法文ニ依レハ、行ハシメタル
 後ニアラサレハ、其罪成立セス、唯之ヲ行ハシムルノ目的ヲ
 以テ、暴行脅迫ヲ爲セハ、則チ罪アリトイフコトニアラス、故ニ
 官吏、抗拒スヘカラスル強制ニ遇ヒ、其爲ス可カラサルコトヲ

行ヒタル場合ニアラサレハ、本項ニ依リ、暴行人ヲ罰スルコ
 トヲ得サルナリ、而シテ若シ其官吏ノ行ヒタル事件、犯罪タルキ
 ハ、其激峻者トシテ、之ヲ罰スヘシ、此場合ニ於テハ、暴行脅迫
 ナシテ、官吏ノ爲ス可カラサル事件ナ行ハシメタルニアラ
 スシテ、官吏ヲ激峻シテ、罪ヲ犯サシメタル者ナレハナリ、但
 シ第一項ノ抗命罪ニ比照スレハ、第二項ノ罪ハ、其權衡ヲ得
 サルモノナリ、第一項ニ於テハ、官吏ナシテ、其職務ヲ行フコ
 トヲ得サレシムルト否トヲ問ハス、暴行脅迫ヲ以テ、之ニ抗拒ス
 レハ、則チ罪アリトシ、而シテ第二項ハ、暴行脅迫ヲ以テスルモ、
 之ヲ行ハシメタル後ニアラサレハ、罪トシ罰セサレハナリ、
 是レ恐クハ其當ヲ失シタルコトナルヘシト、此說是ナリ、然レ
 モ其抗拒スヘカラスシテ、已ムコトヲ得サルキニ限ルトイヘ

ルハ、非ナルヘシ、此第一項第二項、其他暴行脅迫ノ文字アル
 處多シト雖モ、其暴行脅迫タル、必シモ被害者ヲシテ、得テ抗
 拒スヘカラザラシムルモノニ限ルコアラズ、故ニ此二項ノ
 場合ニ於テモ、官吏ハ、或ハ抗拒スルヲ得ヘシト雖モ、之レ
 カ爲メニ妨害セラレ、又ハ其欲セサル事件ヲ行ハシメラレ
 タルキハ、即チ暴行者ヲ罰スヘシ、而シテ其事件ヲ遂クルヲナ
 キモ、其之ニ着手セシメタル者ハ、則チ是レ之ヲ行ハシメタ
 ル者ナリ、

〔第一一〇五號〕 或又曰ク、茲ニ尙ホ一疑問アリ、本項ノ罪ヲ
 犯シ、官吏、本項ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ニ該ルヘキ罪ヲ、犯
 シタルキハ如何、暴行人ハ、尙ホ本項ニ依テ處斷セラレヘキ
 ヤ、甲説ヲ引キ曰ク、本項ハ、暴行脅迫ヲ以テ、官吏ノ爲スヘカ

よ

ラサル事件ヲ行ハシメ、而シテ其事件ノ罪ト爲ラサル場合ニ
 當ルモノナリ、若シ其事件ノ罪ト爲ルキハ、則チ暴行人モ亦
 其罪ヲ以テ論シ、本項ニ依テ論スヘカラスト、又乙説ヲ引キ
 曰ク、本項ニハ、單ニ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシ
 メタル者トアルノミナレハ、其事件ノ罪タルト否トチ問フ
 ヘカラスト、然レニ其行ヒタル罪、本項ノ刑ヨリ重キ刑ニ該ル
 キニ於テ、尙ホ本項ニ依リ、暴行人ヲ罰スルハ、理ニ當ラズ、此
 場合ニ於テハ、數罪俱發ノ例ニ依リ、一ノ重キニ從テ處斷ス
 ヘシト、或之ヲ論シ曰ク、甲説ニテ、本項ノ事件ヲ罪ト爲ラサ
 ルモノニ限ルト爲スハ、實ニ其當チ失スルモノナリ、所謂ル
 爲ス可カラサル事件トハ、豈ニ如此ク狹キモノナランヤ、其
 語意廣クシテ、罪ト爲ルト爲ラサルトチ別タサルナリ、又假

ニ此説ニ從ハ、官吏ヲシテ、罪ト爲ラサル事件ヲ行ハシメタル者ハ、本項ニ依リ之ヲ罰シ、而シテ本項ノ刑ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯サシメタル者ハ、本項ノ刑ヲ免レテ、唯其輕キ刑ヲ受クルニ止マルカ如キ、不都合ヲ生スルニ至レハ、此説コハ依リ難シ、又乙説ハ、實際上公平ナルヘケレト、是レ唯立法上ノ論ニシテ、解釋上ノ論ニアラス、何トナレハ一個ノ元素ヲ分テ、二罪ヲ組成セシムヘカラサレハナリ、思フニ本項ノ罪ハ、暴行脅迫ヲ爲シテ、官吏ヲシテ、其爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタルヲ要シ、又官吏ノ犯シタル罪ノ共犯人トシテ、罰スルニハ、暴行脅迫ヲ以テ、官吏ヲシテ、罪ヲ犯サシメタルヲ要ス、故ニ官吏ノ共犯人トシテ、暴行人ヲ罰スルニハ、本項ニ依テ、之ヲ罰スルヲ得ス、又本項ニ

依テ、之ヲ罰スルニハ、官吏ノ共犯人トシテ、論スヘカラサルナリ、故ニ乙説ニモ亦從フヘカラス、然ラハ如何シテ可ナラシカ、曰ク、本項ハ、其當ヲ得タルモノニアラサレト、今日ニ在テハ、官吏ヲシテ行ハシメタル罪、本項ノ罪ヨリ重キト雖モ、暴行人ハ、仍ホ本項ニ依テ、之ヲ處斷スヘキナリ、但シ乙説ノ如ク、常ニ本項ニ依リ、之ヲ處斷スルハ、其當ヲ得タルトニアラサレハ、本項ハ、改正アラノヲ希フナリト、

〔第一一〇六號〕 余ハ、甲説ヲ是ナリトス、官吏ノ爲ス可カラサル事件ハ、前已ニ論セシカ如ク、其職務内ノモノニシテ、官吏ノ爲スヲ欲セサル事件ナイフ、而シテ其職務外ノ事件ニ就テハ、官吏モ官吏タルニアラス、例ヘハ裁判官ニシテ、租稅ヲ徵收シ、兵隊ヲ募集スルノ類ニシテ、租稅徵收、兵隊募集ニ就

テハ、裁判官ハ、其資格ヲ以テスヘキニアラサレハ、其裁判官タルノ名義ヲ有スルコトナシ、此資格名義ヲ有セサレハ、裁判官タルコトアラズ、官吏タルコトアラサルナリ、又強盜竊盜謀殺故殺ノ類モ、裁判官タリ、行政官タルヲ問ハズ、其職務内ニ在テ、官吏タル資格ヲ以テ、爲スヘキコトコアラサルハ、論ヲ待タズ、故ニ是等ノ場合ニ於テ、暴行脅迫ヲ以テ、官吏タル者ニ、之ヲ行ハシムルモ、決シテ第三百三十九條ヲ以テ、論スヘキニアラス、是レ尋常ノ教唆者ナリ、又官吏瀆職ノ罪ハ、其職務執行中ニ係ル犯罪ナレトモ、其罪ハ、第三百三十九條ノ罪ヨリ輕シ、(二七三條以下二九一條迄)故ニ本論ニ關係ナキニ似タリ、然レモ、第三百九十七條、監守者、官印ヲ盜用スル罪、第二百五條、官吏其管掌ノ文書ヲ偽造スル罪ノ如キハ、第三百三十九條ノ罪ヨリ

モ重シ、是等ノ場合ニ於テハ、暴行脅迫ヲ以テ、官吏ニ盜僞用造ヲ爲サシメタルモ、其暴行人ハ、盜用僞造ノ教唆者ヲ以テ、論スヘキ者ノ如シ、然レモ盜用僞造ニ就キ、官吏ヲ罰スルノ重キハ、其身分ニ因リ加等スルナリ、而シテ正犯ノ身分ニ因リ、刑ヲ加重スルモ、他ノ共犯人ニ及ホスコトナシ、(一〇六條)又官吏瀆職ノ罪ノ如ク、其官吏タル身分ヲ以テ、犯罪構成ノ元素ト爲シ、而シテ其罪、第三百三十九條ノ罪ヨリ重キモノ、決シテ是レナシトモイフヘカラス、假令ヒ如此キ罪アリトスルモ、其罪ハ、身分ナキ人ニ就テハ、成立セサルモノナレハ、人民タル身分ノ暴行人ヲ處スルニハ、其教唆者ヲ以テスヘカラスナルナリ、加重ノ情狀スラ、身分ニ係ルモノハ、他ノ身分ナキ者ニハ及ブコトナシ、况ンヤ身分ヲ以テ、犯罪構成ノ元素ト爲ス

場合ニ於テ、其身分ナキ者ニ、此身分ヲ及ホシ、其教唆者ト爲
 ストナ得シヤ、(第八八一號參看)故ニ余ハ甲說ノ如ク、第三百
 十九條ノ罪ハ、其事件ノ罪ト爲ラサル場合ニ限ルモノニシ
 テ、暴行人ハ、常ニ本條ニ依テ、論セラル、トナシトス、而シテ其罪ト爲ラサル
 場合ニ限ルモノタルトハ、尙ホ其第一項ニ比照シテモ知ル
 ヘキナリ、即チ第一項ハ、官吏ヲシテ、其職務内ノ事件ヲ行ハ
 サラシムルモノナリ、故ニ其第二項モ、亦自ラ其職務内ノ事
 件ヲ行ハシムルモノタルヘシ、行ハシムルト、行ハシメサル
 トノ差アルノミニシテ、其職務内ノ事件タルニ至テハ、皆同
 シ、然ラサレハ、其事件ノ罪ト爲ラサルト知ルヘク、又或ハ職
 務内ノ事件ニシテ、瀆職ノ罪ト爲ルトアルヘキモ、亦是レ前

ニ論セシカ如ク、其罪ハ官吏タル身分アル者ニ限リテ、他ニ
 及フトナケレハ、此ニ之ヲ論スルヲ要セサルナリ、
 [第一一〇七號] 抗命ノ罪ヲ犯シ、因テ官吏ヲ毆傷シタル者
 ハ、毆打創傷ノ各本條ニ照シ、一等ヲ加ヘ、重キニ從テ處斷ス、
 故ニ例ヘハ尋常人ヲ毆打創傷シテ、死ニ致シタル者ハ、重懲
 役ニ處スト雖モ、抗命ノ罪ヲ犯スコ因テ、官吏ヲ毆創シタル
 者ハ、重懲役ニ一等ヲ加ヘ、有期徒刑ト爲シ、抗命ノ罪ト比照
 シ、重キニ從ヒ、有期徒刑ニ處ス、然レモ毆打創傷シテ、二十日
 以上ノ疾病休業ニ至ラシメタル者ノ如キハ、僅ニ一年以上
 三年以下ノ重禁錮ニ該ルノミ、之ニ一等ヲ加フルモ、一年三
 月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ過キス、如此キ場合ニ於テ
 ハ、抗命ノ罪重キヲ以テ、第三百三十九條ニ從ヒ、四月以上四年

以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルノ類、是レナリ、然レモ抗命ノ罪ニハ、常ニ附加ノ罰金アリテ、而シテ打創傷ノ罪ニハ、罰金ナシ、而シテ其禁錮ハ、却テ抗命ノ禁錮ヨリ重キトアリ、第三百條廢疾ニ致シタル場合はレナリ、毆打創傷シテ、人ヲ廢疾ニ致シタル者ハ、二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス、之ニ一等ヲ加フルハ、二年六月以上、六年三月以下ノ重禁錮ニ該ル、此場合ニ於テハ、輒ク其輕重ヲ定メ難シ、故ニ如此キキハ、第百條ニ據リ、其所犯情狀最重キモノヲ以テ、重シト爲シ、之ヲ比照シテ、處斷スヘキナリ、

〔第一一〇八號〕重罪輕罪ヲ犯スニ、便利ナル爲メ、又ハ既ニ犯シテ、其罪ヲ免ル、爲メ、官吏ニ抗拒シテ、之ヲ毆傷シタル者ハ如何、或曰ク、第百四十條ニ、毆打創傷ノ各本條ニ照シ、一

等ヲ加フトアレハ、一等ヲ加ヘタル刑ト、第百三十九條ノ刑トヲ比照シ、一ノ重キニ從テ處斷スルノミコシテ、第三百三條ノ加等ハ、別ニ之ヲ爲サ、ルヘキニ似タリ、然レモ罪ヲ犯スニ便利ナルカ爲メ、又ハ既ニ犯シテ其罪ヲ免ル、カ爲メ、人ヲ毆傷シタル者ハ、官吏ニ對スルコアラサルキト雖モ、仍ホ一等ヲ加フルハ、官吏ニ對スルキハ、更ニ重キヲ加ヘサルコトヲ得ス、故ニ第百四十條ニ所謂ル、毆打創傷ノ各本條ニ照シ、一等ヲ加フルノ語中ニハ、第三百三條ヲモ、包含セシメサルヘカラス、而シテ之ヲ包含セシムルカ故ニ、第三百三條ニ依リ、一等ヲ加ヘ、尙ホ第百四十條ニ依リ、一等ヲ加ヘ、通シテ二等ヲ加ヘテ、處斷スヘシト、

〔第一一〇九號〕此說、理アルニ似タリ、然レモ余思フニ恐ク

ハ如此クナルコトハアラサルヘシ、第四百四十條ハ、草案コトハアラサリシモノナリ、是レ舊律ノ拒毆官司差人ノ條ニ基キシモノナルヘシ、其條ニ曰ク、凡官司、人ヲ所屬ニ差遣シ、錢糧ヲ追徴シ、公事ニ勾攝スルコト、抗拒シテ服セサル者ハ、杖六十、毆ツ者ハ、杖八十、内損以上ハ、各凡闘傷ニ、二等ヲ加ヘ、罪、流三等ニ止ル、死ニ至ル者ハ、斬ト、尙ホ毆本屬長官ノ律アリテ、凡闘傷ヨリハ、其刑ヲ重クス、第四百四十條ヲ設ケラレタルハ、即チ此意ニ出テシメタルヘシ、然レハ第三百三條ヲ適用シテ、二等ヲ加フルノ意コトハアラサルヘシ、又其法文ニ注意シ、且ツ他ノ諸條ニ比照シテ、之ヲ考ヘハ、加ニ加チ重ヌルノ意ニアラサルヲ知ルヘキナリ、毆打創傷ノ各本條ニ照シ、重キニ從テ處斷スルハ、第四百四十條ノミナラス、第六十八條、第二百

四十五條、第二百八十條ヨリ、第八十二條、第三百二十四條、第三百二十五條、第三百三十五條、第三百五十一條等、皆然リ、此諸場合ニ於テモ、亦第三百三條ニ從ヒ、罪ヲ犯スヲ容易ナラシムルヲ以テ論シ、一等ヲ加フヘキカ、決シテ然ルコトハアラサルヘシ、然レハ唯第四百四十條ノミノ處ニ於テ、第三百三條ヲ適用スヘキ理ナカルヘキナリ、又第三百三條ハ、特ニ毆打創傷ニ意アリテ、而シテ之ヲ爲スモノナイフ、他罪ヲ犯スニ因テ、創傷スルニ至ルモノナイフニアラス、第四百四十條ノ場合ハ、即チ暴行脅迫ヲ爲シテ、其結果終ニ創傷ヲ生スルニ至ルモノナリ、毆打創傷ニ意アリテ、而シテ毆打創傷スルコトアラズ、是レ第三百三條ト異ナル所以ナリ、又第三百三條ニ、重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メトアリ、此語ニ注意スヘシ、第百

四十條ノ罪ハ、前ニ論セシカ如ク、三個ノ條件ヲ具備セサルハ、成立スルコトナシ、(第一〇八六號第一一〇〇號)此條件ヲ具備スル輕罪ヲ犯スニ、便利ナル爲メ、毆傷スルコトアラス、該條件中ノ一タル暴行脅迫ヲ行フテ、終ニ毆傷スルニ至ルナリ、毆傷ハ、即チ暴行脅迫中ノ事ナリ、如此キ事由ナルヲ以テ、第三百三條ハ、第四百十條ノ場合、其他前ニ掲ケタル第六十八條以下ノ諸場合ニハ、適用スヘキモノコトアラストス、但シ輕罪ノ全體ヲ犯スニ、便利ナルカ爲メ、毆傷シタル者ハ、第三百三條ニ從ヒ、處斷スヘキハ勿論ナリ、然リト雖モ、一個ノ毆傷ヲ以テ、二個ノ罪ト爲シ、第四百十條ト第三百三條トニ依リ、二等ヲ加フルカ如キコトハ、決シテ是レナカルヘキナリ、

〔第一一一〇號〕 以上論セシ所ハ、公務ヲ妨害スル罪ナリ、今

ヨリ官權ヲ蔑如スル罪ヲ論セン、官權ヲ蔑如スル罪ハ、則チ公務ヲ妨害スルノ小ナルモノニシテ、而シテ公務ヲ妨害スル罪ハ、即チ官權ヲ蔑如スルノ大ナルモノナリ、此官權ヲ蔑如スルノ罪ヲ稱シテ、侮辱官吏ノ罪トイフ、侮辱官吏ノ罪ニ、二アリ、一ハ官吏ノ目前ニ於テスルモノニシテ、而シテ一ハ其目前ニ於テセサルモノナリ、此第一ノ罪ノ成立セシコトハ、左ノ四件ノ具備セシコトヲ要ス、一ニ曰ク、官吏ノ職務ニ對スルコト、二ニ曰ク、官吏ノ目前ニ於テスルコト、三ニ曰ク、形容若クハ言語ヲ以テスルコト、四ニ曰ク、官吏ヲ侮辱スルコト、又第二ノ罪ノ成立セシコトハ、左ノ三件ノ具備セシコトヲ要ス、一ニ曰ク、官吏ノ職務ニ對スルコト、二ニ曰ク、刊行ノ文書圖書、又ハ公然ノ演説ヲ以テスルコト、三ニ曰ク、官吏ヲ侮辱スルコト是レナリ、而シ

第二ノ罪ハ、官吏ノ目前ニ於テスルト否トヲ論セス、其目前ニ於テスルキハ勿論、其目前ニ於テセスト雖モ、以上ノ三件具備スレハ、則チ侮辱官吏ノ罪アリ、此二個ノ罪ヲ犯スルハ、并ニ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ、五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、(一四一條)

〔第一一一一號〕侮辱官吏ノ罪ハ、總テ官吏ノ職務ニ對シテ犯スモノナレトモ、第一ノ罪ト、第二ノ罪トニ於テ、其官吏ニ差別アリ、而シテ其差別ハ、目前ニ於テスルキニ限ルト、目前ニ於テスルキニ限ラサルトニ出ツ、第一ハ目前ニ於テスルキニ限ルヲ以テ、其官吏ハ、在世在職ノ人ニ限ルヘシト雖モ、第二ハ目前ニ於テスルト否トヲ問ハサルヲ以テ、其官吏ハ、在世在職ノ人ノミナラス、退職死去ノ人モ、亦其語中ニ在リ、而シ

官吏ノ稱ハ、其人ノ生死ニ關セサルモノナルコトハ、嘗テ之ヲ論シタレハ、此ニ之ヲ贅セス、(第九七八號)又第一ハ、有形人ノミニ限ルト雖モ、第二ハ有形人ハ勿論、無形人モ亦入ル、有形人トイフコトハ、未タ世間ニ見サルコトナレトモ、今無形人ト區別スルカ爲メ、姑ク此名ヲ用フ、有形人ハ、即チ吾ト類チ同クシテ、此世ニ在ル人ナリ、無形人トハ、國府縣官署會社等ノ類ニシテ、其名アリテ其形ナシ、然リト雖モ吾ト同ク、此世ニ在テ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ、而シテ習慣法律ニ於テ、一個ノ人ト看倣ス者ナイフ、佛語ニ、或ハペルそんぬ、モラハるトイヒ、或ハペルそんぬ、モラハるトイフ者、是レナリ、我民法草案中ニモ、此語ヲ用ヒラレ、之ヲ譯シテ無形人、又ハ法律上ノ人トイハレタリ、法律上ノ人トハ、法律ニテ認メテ人ト爲ス者ナイフ

ナリ、此無形人タル官吏、即チ官署ニ對シテ、文書圖畫演說ヲ以テ、侮辱スルキハ、則チ之ヲ罰スヘシ、然レモ目前ニ於テスル第一ノ罪ハ、官署ニ對シテハ、之ヲ罰スルコトナシ、何トテレハ無形人ハ、耳目ノ官ナキカ故ニ、形容言語ヲ以テ、其目前ニ於テ侮辱スルコト能ハサレハナリ、第二ノ罪ハ、目前ニ於テセサルモ、成立スルモノナルヲ以テ、官署ニ對スルキト雖モ、尙ホ能ク成立スルコトヲ得、又讒謗律ノ時ニ於テ、已ニ司法省ノ伺ニ對シ、太政官ニテハ、官廳ヲ讒謗スルハ、即チ其長官若クハ官吏ヲ讒謗スルナリト指令セラレタリ、(八年七月二十五日伺同九月十三日指令)其長官々吏ヲ讒謗スルトハ、長官々吏ハ、即チ無形人ノ代理タルヲ以テナルヘシ、

〔第一一二號〕 官吏ヲ侮辱スト雖モ、其職務ニ對セサレハ、

侮辱罪ト爲ルコトナシ、而シテ其職務ニ對スレハ、其場所ハ、公署タルト、私家タルト問ハス、又侮辱ノ公然ナルト公然ナラサルトヲ論セス、其罪アリ、故ニ官吏ノ職務ヲ行フ時ト否トチモ分ツコトナシ、私家ニ在テ、其職務ヲ行ハサル時ト雖モ、其職務ニ對シテ、侮辱スレハ、第一ノ罪タルヲ免レス、然レモ其職務ニ對セサルキハ、公署ニ於テ侮辱スルモ、侮辱官吏ノ罪タルコトナシ、況ンヤ私家ニ於テチヤ、官吏タル者モ、通常人民タル身分ハ、固トヨリ之ヲ失フコトナシ、其職務外ニ於テハ、即チ通常ノ人民ナリ、或曰ク、官吏ハ、其職務ヲ行フ時ニ在テハ、公權ノ代人ナリ、此公權ノ代人ニ對シテ、侮辱スルキハ、其事、假令ヒ職務ニ關係セサルモ、其結果必ス公權ヲ蔑如スルニ至ル、公權ヲ蔑如スルハ、即チ是レ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ナ

リ、加之此場合ニ於テハ、必ス直接若クハ間接ニ、其職務ニ關係スルハ論ヲ待タズ、例ヘハ官吏ノ職務ヲ行フ時ニ當リ、之ニ對シテ、或ハ痴ト呼ビ、或ハ愚ト呼フ者アラハ、其言タル該官吏ノ一身ニ止マリ、更ニ其職務ニ關係セサルモノ、如クナレトモ、亦間接ニ其職務ニ對スル侮辱タルヲ免レズ、其職務ヲ行フノ當時ハ、其身則チ公權ノ代人ナレハ、之ニ對スル侮辱ハ、是レ即チ公權ヲ侮辱スルナリ、故コ之ヲ罰スト、

〔第一一一三號〕 此說ハ、恐クハ法律上ノ論ト、事實上ノ論トヲ混セシモノ、如シ、又間接ノ侮辱ヲモ罰ストイフニ至テハ、最不可ナリ、法文ニモ、官吏ノ職務ニ對シトアリ、其直チニ職務上ノ事ニ就キ、侮辱スルヲ知ルヘシ、又佛文原稿第百六十九條ニハ、公ケノ吏員ノ職務ノ執行中ニ於テ、又ハ其職務

ニ關シテ、言語又ハ形容ヲ以テ、該吏員ニ對シ、其所在ニ於テ、公然(びんぷりくまん)直接ニ(ぢれくとまん)犯シタルおふんす、わんぞゝる、うゝとらゝトゝハ、二月以上三年以下ノ重禁錮、五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ストアリテ、而シテ今此直接ニノ語ナキカ故ニ、間接ノ侮辱モ亦罰スヘキカ如シ、然レトモ間接ニ係ル事ハ、總テ法律ノ論スル所ニアラス、是レ法律ノ常例ナリ、故ニ直接ノ語ナシト雖モ、此語アルト異ナルヲナシ、若シ間接ニ侮辱スルモノヲモ罰スルトモハ、他ノ誹謗不敬罵詈等ノモノモ、亦間接ノモノヲ罰スヘシ、然レトモ某論者モ、亦如此ク廣ク間接ノモノヲ罰ストイフニハアラサルヘシ、然レハ獨侮辱ニ限り、間接ノモノヲ罰スヘキ理ナカルヘキナリ、又官署ニ於テ、官吏其職務ヲ行フニ當リ、之ニ對シテ、

誹謗罵詈ニ涉ル言詞ヲ發セハ、概シテ侮辱ナルヘシ、又侮辱ナリト推測シテ可ナルヘシ、然レモ此罪ハ、人民ノ官吏ニ對シテ犯スモノニ限ラス、官吏モ亦他ノ官吏ニ對シテ、犯スアルヘキモノナリ、官吏其同僚中ニ於テ、其職務ヲ行フ時ニ當リ、不敬無禮ノ言詞ヲ發スルコト、或ハ是レナキニシモ限ラサルヘシ、而シテ如此キ場合ニ於テハ、常ニ之ヲ侮辱ナリト推測スルコトヲ得ス、其侮辱タルト否トハ、一ニ事實ニ由ルコトニシテ、豫メ推測スヘキコトアラズ、如何シテ豫メ推測シ、豫メ斷定シテ、間接ノ侮辱マテモ、之ヲ罰スルヲ得ンヤ、

〔第一一一四號〕 法文ニ、官吏ノ目前ニ於テ、形容若クハ言語ヲ以テ、侮辱シタル者トアリ、目前ニ於テセサレハ、其罪ナキコト論ヲ待タズ、然レモ目前トハ、前後左右ヲ別チテ、其目前ヲ

イフヤ、又其目前ニ於テ、圖書文書ヲ以テ、侮辱セハ如何、曰ク、前後左右等ヲ別チテイフコトハアラス、廣ク其所在ヲ指シテイフナリ、目前ノ字ニ拘泥スヘカラス、原稿ニモ、わん、さ、ぶれざんすトアリ、わんハ於ナリ、さハ其ナリ、ぶれざんすハ、現在ナル所ナリ、即チ官吏ノ現在ナル所ニ於テノコトナリ、今其目前ニ於テトハ、邦言ニモ之のあたりノ謂ニシテ、即チ官吏ノ所在ニ於テトイフト一般ナリ、從前ノ俗言ニモ、君ノ御前チモ憚ラス、又ハ其人ノ手前チモ顧スナドイヘルコトアリ、故ニ前後左右ノ別ナシ、現ニ其居ル所ニ於テ侮辱セハ、皆之ヲ罰スヘシ、然ラハ其居所々在トハ如何、其房室ヲ異ニシ、其座席ヲ隔テ、侮辱スル者ハ、官吏ノ所在ニ於テセサルヲ以テ、罰スルノ限ニ在ラサルヤ、曰ク、形容ハ、目ノ視ル所、言語ハ耳ノ聽

シ所ナリ、其目ニ於テ形容ヲ見、其耳ニ於テ言語ヲ聞ク、
 得ハ、房室ヲ異ニシ、座席ヲ隔ルヲ問ハス、皆其所在ニ於テ
 タル者ヲ以テ論スヘキナリ、圖畫文書モ、亦其視聽聞見スル
 所ニ依テ、之ヲ定ムヘシ、圖畫ハ、形容ヲ寫シタルモノニシテ、
 文書ハ言語ヲ寫シタルモノナリ、故ニ形容ヲ寫シタル圖畫
 ナリ、故ニ皆之ヲ罰スヘシ、但シ官吏ト侮辱者ト、并ニ其現場
 ニ在ルヲ要シ、又刊行スルモノト否トヲ問ハス、官吏ノ目
 前ニ於テ、之ニ對シテ其圖畫ヲ開示シ、文書ヲ展讀スルヲ要
 ス、然ラサレハ、直接ニ侮辱シタル者トハ、イヒ難シ、故ニ文書
 圖畫ヲ、官吏ニ送リテ、之ヲ侮辱スル者ハ、罰スルノ限ニ在ラ

ス、

〔第一一五號〕

官吏ノ職務ヲ行フニ際シ、傍人アリ、突然其
 官吏ヲ毆打スルコトアラハ如何、抗命ノ罪トイハシカ、將テ侮
 辱ノ罪トイハシカ、抗命ノ罪ハ、官吏ヲシテ、其職務ヲ行ハサ
 ラシメントスルノ意ニ出テシモノナラサルヘカラス、又全
 ク如此クナラサルモ、之ニ抗拒シ、其職務ノ執行ヲ妨害スル
 ノ意ナカルヘカラス、然ルニ此ニ論スル所ハ、偏ニ其官吏ヲ
 輕侮スルノミノ意ニシテ、敢テ職務ノ執行ヲ妨害スルノ意
 ナキモノトス、例ヘハ官吏ノ傲然タル疾ミ、又ハ其勢威ノ
 盛ナルヲ妬ム等ノ意ニ出テ、或ハ之ニ瓦礫ヲ投シ、或ハ木片
 ナリ、之ヲ毆打スルノ類ナリ、之ヲ侮辱ノ罪トセンカ、毆打
 ハ言語ニアラス、又形容トモイヒ難シ、或曰ク、之ヲ毆打スレ

フノミナラス、法意モ亦固トヨリ如此クナルヘキナリ、假事
 ナ學クレハ、眞事ハイハスシテ、其言外ニ在リ、正條ナシトハ
 イフヘカラス、又此ニ論スル所ニ參照シテ、官吏ノ目前ニ於
 テ圖畫文書ヲ開示シテ、侮辱シタル者モ、亦形容ヲ以テ侮辱
 シタル者トイフヲ得ヘキコト知ルヘシ、之ヲ開示シタルハ、
 即チ侮辱ノ意ヲ身體ノ動作ニ顯シタルナリ、
 [第一一六號] 此罪ハ、被害者ノ告訴ヲ待テ論スル者ニア
 ラス、而シテ公罪ニ就テハ、其實、社會ヲ以テ其被害者ト爲ス、故
 ニ侮辱ヲ受ケタル官吏、其侮辱タルコト知ラサルキト雖モ、
 尙ホ侮辱者ヲ罰スヘシ、然レハ若シ該官吏ニ於テ、形容言語
 ハ、侮辱ニアラス、其侮辱タル所以ヲ知ラストスルキハ如何、
 該官吏ノ意見ニ拘ハラズ、法官ノ意見ヲ以テ處斷スヘキヤ、

曰ク、此論ハ、形容言語ヲ以テスルキト、圖書演說ヲ以テスル
 キトナシ、併セ考ヒテ定ムヘキモノナリ、此二項ニ通シテ論ス
 ルキハ、官吏ノ意見ニ拘ハラズ、假令ヒ官吏ニ於テ侮辱ナリ
 ト認メサルキト雖モ、法官ニ於テ侮辱ナリト認ムルキハ、之
 チ罰シテ可ナルヘシ、或曰ク、被害者ニ於テ、害ヲ受ケス、侮辱
 セラレスト申スルキハ、如何ソ他ヨリ害アリ侮辱セラレタ
 リトイフコトヲ得シ、故ニ告訴ヲ要セスト雖モ、被害者ニ於テ、
 其事ナシ、其害ナシトスルキハ、罰スルコト能ハスト、余曰ク、八
 年第一百十號布告讒謗律トハ異ナリ、讒謗律ニハ、被害者タル
 官民、自ラ告ルヲ待テ、乃チ論ストアリシカ故ニ、其告訴ヲ待
 テ公訴ヲ起シ、其棄權ニ由テ公訴ヲ廢スレトモ、今ハ法文ニ告
 訴ノ事ナケレハ、公訴ノ起廢、共ニ告訴ト關係セス、是レ法律

ノ原則ナリ、而シテ侮辱ノ罪ハ、公益ニ關スル罪ナルカ故ニ、被害者ハ、官吏ヨリモ寧ロ政府ナリ、社會ナリ、政府ノ代人タル檢察官ニ於テ、侮辱ナリ、公害アリト認ムルニ於テハ、是レ即チ眞ノ被害者ニ於テ、罪アリトスルナリ、故ニ官吏ハ、侮辱セラルト雖モ、私訴要償ノ訴ヲ爲スコト得ス、假令ヒ要償ノ訴ヲ爲シテ、償金ヲ得ルモ、其償金ハ、官吏ノ取ルヘキモノニアラス、之ヲ政府ニ納ムヘシ、何トナレハ、侮辱ハ、官吏ニ對シテ、之ヲ爲スモ、是レ官吏ノ害セラレ、ニアラスシテ、公權政權ノ害セラレ、コナレハナリ、故ニ私訴モ、亦爲スヘキニアラス、是レ他ノ告訴ヲ待テ、公訴ヲ受理スルモノト異ナリ、又詭譎ノ如ク、法律ニ於テ、公害ノ有無ヲ識別スルコト官吏ニ委任シタル場合モ、其被害者ハ、即チ政府ナリ、社會ナリト雖

モ、官吏ヨリ告ケサレハ、其罪ヲ論セサルヘキハ勿論ナリ、然レモ是レ法律ノ本旨ニハアラス、檢察官ヲ設ケラル、以上ハ、是等ノ事、皆檢察官ニ任スヘキナリ、

〔第一一七號〕 刊行ノ文書圖書、公然ノ演説トハ如何、刊行トハ、出版條例新聞條例等ニ循ヒ、官ニ届ケ、又ハ官ノ許可ヲ得テ、圖書ヲ發行スルコトイフヤ、又公然ノ演説モ、集會條例ニ循ヒ、公衆ヲ集メテ、演説ヲ爲スコトイフヤ、曰ク、該條例ニ循フト、循ハサルトチ別ツヘキニアラス、刊行ノ圖書公然ノ演説ヲ以テ、侮辱スルニ於テハ、皆之ヲ罰スヘシ、但シ此罪ハ、公益ヲ害スル罪ナルカ故ニ、世間公衆ニ告示スルモノニアラサレハ、罪ト爲ラス、近時ハ郵便はかき其他ノモノニモ、印刷スルモノ多シ、假令ヒ印刷スル文書ナルモ、之ヲ送ル人ヲ

指シテ、其人員ニ限アルモノハ、罰スルノ例ニアラス、又引札張札等ノ類ニシテ、發賣セサルモノナルヲ以テ、出版條例ニ依ラサルモノト雖モ、若シ印刷シテ、之ニ侮辱ノ事ヲ記載シ、公衆ニ布クニ於テハ、侮辱ノ罪タルヲ免レサルヘシ、佛文原稿ニハ、をわーど、ぶれすトアリ、をわーハ、方法ナリ、どハ、ノナリ、ぶれすハ、印刷ナリ、即チ印刷ノ方法ナリ、如此ク廣ク印刷ノ方法ヲ以テ、侮辱スルナイヘハ、其條例ニ依ルト依ラサルトハ、論セサルノ意ナルコト明ナリ、

〔第一一一八號〕 刊行ノ文書圖書トハ、印刷セルモノ、ミニ限ルヤ、將タ印刷セスト雖モ、筆寫シテ、之ヲ世ニ公布スルコト於テハ、亦罰スヘキヤ如何、例ヘハ官吏ヲ侮辱スル文書ヲ作為シ、之ヲ筆寫シテ、村市ノ街衢ニ公布シ、路傍ノ墻壁ニ貼付

スル等ノコトヲ爲ス者アラハ如何、曰ク、之ニハ種々ノ論議アリテ、一定セス、一説ニ曰ク、刊行ノ文書圖書トハ、必シモ刊行ノモノニ限ルコトアラヌ、刊行ノ文書圖書トアルハ、之ヲ公布スルコトハ、實際多クハ刊行スルヲ以テ、其類例ノ多キモノヲ示シタルノミ、筆寫シタルモノト雖モ、之ヲ世間ニ公布シ、官吏ヲ侮辱スルニ於テハ、亦之ヲ罰スヘシ、法律ノ罰スルト罰セサルトハ、刊行スルトセサルトニハアラス、公然之ヲ侮辱スルトセサルトハ、在リ、故ニ公然ノ演説ヲ以テ、侮辱スルモ、亦其罪アリ、筆寫セル文書圖書ハ、則チ公然ノ演説ノ重キモノナリ、演説ハ其跡ヲ止メスト雖モ、仍ホ之ヲ罰ス、況ンヤ文書ヲ公布シテ、侮辱ノ形跡ヲ後ニ止ムルモノニ於テチヤ、豈ニ徒法理ニ於テ然ルノミナランヤ、演説ヲ罰スルノ意ヲ推

セハ、則チ筆寫ノ文書ヲ罰スルノ法意タルコト亦知ルベキナリ、
 其、法文書、則チ輕キヲ舉ゲテ、而シテ重キヲ示シタルモノナリ、
 【第一一九號】又一説曰ク、刊行ハ、印刷シテ頒行スルコト
 也、筆寫シタルモノハ、刊行トハイフベカラズ、然レモ、文
 書ハ、言語ニ代フルモノナリ、故ニ刊行セサル文書ト雖モ、之
 ヲ公布スルルキハ、是レ即チ公然ノ演説ヲ爲シタルモノトイ
 フヘケレハ、之ヲ罰シテ可ナリ、然レモ、圖書ハ、言語ニ代用ス
 ルモノニアラサレハ、圖書ヲ以テ演説トハイフベカラズ、筆
 寫シタル圖書ヲ公布シテ、侮辱シタル者ハ、罰スベカラズ、今
 之ヲ罰スルルモ、文書ヲ以テ罰スルルモノニアラズ、演説ヲ以
 テ罰スルルコトナレハ、文書ニ代用スルモノヲ以テ、侮辱セサレ
 ば、罰スルル能ハスナリ、

れ

【第一一二〇號】又一説曰ク、刊行ノ文書圖書トハ、實ニ印
 刷頒行スル所ノ文書圖書ノミナイフ、筆寫シタル文書圖書
 ハ、之ヲ刊行ノ文書圖書トイフベカラズ、又文書ヲ以テ、言語
 トハイフベカラズ、刊行ト筆寫ト、文書ト演説ト、各相異ナリ、
 若シ之ヲ同視スルコト得ンコトハ、何ソ故ラニ刊行トイヒ、文
 書トイフコト是レアラソ、イハスシテ可ナリ、徒可ナルノミ
 ナラス、之チイヘハ、反テ實際ニ害アリ、立法者ハ、如此ク有害
 無益ノ語ハ、之ヲ用ヒラルヘキコアラズ、刊行ハ、即チ刊行ニ
 限リ、文書ハ、則チ文書ニ限ルノ意ヲ示サンカ爲メニ、之ヲ用
 ヒラレタルナリ、豈ニ比附援引スルコト許サンヤ、然ラハ筆
 寫セル文書圖書ヲ以テ、侮辱セル者ハ、罪ノ問フヘキモノナ
 キヤ、曰ク、然ラス、唯侮辱官吏ヲ以テ論セサルノミ、第三百五

十八條ニ據リ、誹毀ノ罪ヲ問フハ格別ナリ、難者或ハイハシ、曰ク、第三百五十八條ハ、普通人民ヲ誹毀スル罪ナリ、第四百一十一條ハ、官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪ナリ、普通人民ヲ誹毀シタルモノナレハ、第三百五十八條ニ據リ、處斷スヘキハ、勿論ナリト雖モ、官吏ヲ侮辱シタルモノハ、第三百五十八條ニハ、據ルコトヲ得スト、然レモ是レ謬說ナリ、其一ハ、官吏ニ係リ、其一ハ、人民ニ係ルト雖モ、官吏モ亦人民ナリ、官吏タルカリ、故ニ、人民ニアラストハイフヘカラス、又其一ヲ誹毀トイヒ、其一ヲ侮辱トイヘモ、其實ハ敢テ異ナルモノニアラス、長上ニ對シテハ、侮辱トイヒ、同等ニ對シテハ、誹毀トイフ、其榮譽ヲ毀損スルニ至テハ一ナリ、

〔第一一二一號〕 余思フニ、此說各其理アリ、之ヲ分テハ、三說

ナレモ、要スルニ二說ナリ、第一說トハ、大同ニシテ小異ナリ、第一說ハ、文書圖書ヲ合セテ、說ヲ立テ、筆寫セルモノト雖モ、皆罪アリトシ、第二說ハ、文書ト圖書トヲ分テ、說ヲ立テ、文書ハ罪アリトシ、圖書ハ罪ナシトセリ、第三說ハ、全ク第一說ト相反シテ、文書圖書ヲ合セテ、總テ筆寫ニ係ルモノハ、皆罪ナシトセリ、第二說ハ、細密ナルモノ、如クナレモ、反テ宜ク失フモノナルヘシ、原稿ニハ、印刷ノ方法ヲ以テ、侮辱ストアルノミニシテ、文書圖書ノ語ナシ、故ニ文書ト圖書トヲ差別スル意ニアラサルコト明ナリ、又圖書ハ、言語ニ代用スルモノニアラサレハ、演說ト同視スヘカラストイヘモ、圖書ヲ言語ニ代用スルモノニアラストモ、又文書モ亦言語ニ代用スルモノトハイラス、文書ニシテ言語ニ代用ス

ルモノナラシムコハ、圖書モ亦言語ニ代用スルモノトイフヘシ、上古文字ヲ作りシハ、圖書ニ始マレリ、圖書ハ、文書ノ祖ナリトイフテ可ナリ、今詳ニスルコトヲ得サレドモ、古傳ニ據レハ、書ハ結繩ノ政ニ代ヘラレシモノナリ、同文通考ニ曰ク、上古ニハ、繩ヲ結ヒテ治ム、後ノ世ノ聖人、コレニ易ルニ、書契ヲ以テシ、百官以テ治マリ、萬民察ナリシヨシ、易ノ繫辭ニ見ヘタリ、サレドモ其書契ヲ造ラレシ事、イヅレノ代、イカナル人ニ始マレリトハ見ヘズ、唐ノ司馬貞カ補ヒシ史記三皇本紀ニハ、庖犧氏始テ八卦ヲ畫シテ、神明ノ德ヲ通シ、萬物ノ情ヲ類シ玉ヒ、書契造リテ結繩ノ政ニ代ヘラレシヨシヲ書セリ云々ト、蓋シ卦ハ畫ナリ、畫ハ圖ナリ、卦圖ハ象像ヲ示ス所以ナリ、書契モ亦卦圖ナリ、其結繩ノ政ニ代フルニ至テハ、一ナリ、一

ハ形象ヲ主トシ、一ハ意象ヲ主トスルノミ、而シテ形象モ、亦吾カ意象ニ出ツ、故ニ圖書文書ハ、皆吾カ意ヲ寫ス所以ノ具ナリ、言語ハ、吾カ意ノ口ニ發スルナリ、圖書文書ハ、吾カ意ノ筆ニ發スルナリ、故ニ言語ニ代フルニ、圖書文書ヲ以テスヘク、圖書文書ハ、言語ノ代用ナリ、其理ニ於テハ、差別スヘキコアラズ、故ニ第二說ハ、細密ナルニ似テ、反テ細密ナラサルモノナリ、之ニハ從ヒ難シ、

〔第一一二二號〕 故ニ第一說ト第二說トニ就テ、其一ヲ採擇セサルヘカラス、而シテ余ハ第一說ヲ是ナリトス、前ニ論シタルカ如ク、文書圖書言語ハ、其趣ヲ異ニシ、其名ヲ異ニスト雖モ、其實ハ則チ一ナリ、故ニ筆寫シタル文書ヲ公布スルハ、即チ公然ノ演說ヲ爲シタルモノナリ、又第三說ニテハ、第三百

五十八條ニ據リ、誹毀ノ罪トシテ、罰ストイヘド、誹毀ノ罪ト
 ハイヌヘカラス、若シ文書ヲ言語ナリトシテ、比附援引スル
 一ナラシムコトハ、侮辱ヲ誹毀ナリトスルモ、亦是レ比附援引ス
 ルナリ、而シテ文書ヲ言語ナリトスルハ、比附ノ小ナルモノニシ
 テ、侮辱ヲ誹毀ナリトスルハ、比附ノ大ナルモノナリ、文書ヲ言
 語ナリトスルハ、侮辱ノ方法ニ就テ、イフモノニシテ、此ノ罪
 ナリテ、彼ノ罪ナリトスルニハアラス、侮辱ヲ誹毀ナリトス
 ルハ、此ヲ以テ、彼ニ比附スルナリ、豈ニ比附ノ大ナルモノニ
 アラスヤ、侮辱ト誹毀トハ、同一ノ事ニシテ、其趣ヲ異ニスル
 ノミナレハ、此ヲ以テ彼ナリトスルハ妨ナシト雖モ、法律ニ
 定メテ、罪ト爲ス所ニ於テハ、彼此大ニ異ナル所アリ、一ハ公
 罪ニシテ、一ハ私罪ナリ、一ハ官吏ノ職務ヲ侮辱スルモノニ

シテ、一ハ人民ノ榮譽ヲ誹毀スルモノナリ、一ハ告訴ヲ待タ
 ス、一ハ告訴ヲ待ツ等ノ差別アリ、之ヲ混シテ、侮辱ヲ以テ誹
 毀ナリトスルコトヲ得ンヤ、官吏タル者モ、人民タルト雖モ、其
 人民タルハ、職務外ニ於テノコトナリ、公事ヲ以テ、私事トスル
 能ハス、私事ヲ以テ公事トスルコトヲ得ス、若シ侮辱ヲ誹毀ナ
 リトイフコトヲ得ンコトハ、誹毀モ亦侮辱ナリトイフコトヲ得ン、
 然レハ職務外ニ於テ、私事ニ係リ誹毀セシムコト、其人官吏ダラ
 ハ、官吏ヲ侮辱シタル者トイフヘキカ、決シテ如此クスルコ
 能ハサルヘシ、又法文ニ演説トイヘルハ、言語ヲ以テスルモ
 ノニ限ルカ、未ダ其言語ヲ以テスルモノニ限ル所以ヲ見サ
 ルナリ、演説ハ、即チ其説ヲ演スルナリ、説ハ論ナリ、演ハ術ニ
 同シ、數クナリ、其説ヲ演シ、其論ヲ數クニハ、必シモ口舌ヲ用

ヒス、文書圖書等ヲ以テスルモ、亦演説ナルヘシ、但シ佛文原稿ニハ、ぢすくゝするトアリ、ぢすくゝするハ、言語ヲ以テ、其思想ヲ説述スルナリ、文書圖書ヲ展示スルノミニテハ、ぢすくゝするトハ、イフヘカラス、然レモ是レ所謂ル輕ヲ擧テ、重ヲ示シタルモノナリ、尙ホ茲ニ注意スヘキコアリ、演説ハ、言語ト異ナリ、又談論等トモ異ナリ、言語談論ハ、思想ノ聲ニ顯ル、ノミニテ、敷衍スル所ナシ、演説ハ、抑揚褒貶等ノコアリテ、其論説スル所ヲ、敷衍スルナリ、敷衍シ廣述スル所ナキニ於テハ、演説トハ、イフヘカラス、故ニ論談中一二ノ侮辱ニ涉ル言詞アルモ、之ヲ敷衍スル所ナキニ於テハ、罪トシ罰スヘカラスナルナリ、

〔第一一二四號〕 例ヘハ、公然ノ演説等ニ於テ、某裁判官ハ、賄

賂ヲ收受セリトイハ、之ヲ職務ニ對スル侮辱ナリトイフヘキヤ、又例ヘハ、某裁判官ハ、心實正シカラス、其品行修マラス等トイハ、如何、其職務ニ對スルト對セサルトハ、何ヲ以テ區別スヘキヤ、已ニ其官名ヲ直指スルニ於テハ、皆公權ヲ侮辱スルモノトイフテ可ナルヤ、又侮辱罪中ニハ、誹毀罪ヲ包含スルヤ否ヤ、余曰ク、其職務ニ對スルト對セサルトハ、官名ヲ指示スルト否トニハ、關セサルヘシ、其職務ヲ以テ爲スヘキ事件ト、其職務ヲ以テ爲スヘカラス事件トヲ以テ、區別スヘシ、之ヲ要スルニ、越權弄權中ニ入ルヘキ事件ニ係ルキハ、侮辱ト爲シ、越權弄權中ニ入ラサル事件ニ係ルキハ、其一身上ノ私事ナルカ故ニ、誹毀ト爲スヘシ、賄賂ノ如キハ、其職權ニ係ルコトニシテ、所謂ル弄權中ノ一事ナリ、故ニ職務ニ

對スル侮辱ノ罪アリ、其心實ノ正シカラス、其品行ノ修ラサル等ノコトハ、職權中ノモノニアラサレハ、誹毀ニシテ侮辱ニハアラサルナリ、或曰ク、賄賂ヲ收受スル等ノコトヲ以テスルハ、唯公權ヲ侮辱スルノミナラス、併セテ其人ノ一身ヲ誹毀スルナリ、侮辱中ニハ、誹毀ヲ包含ス、故ニ筆寫シタル文書圖書ヲ以テ侮辱スル者ハ、第三百五十八條ニ據リ、誹毀ノ罪アリトスルモ妨ナシト、余曰ク、侮辱誹毀ノ文字ヨリ論スレハ、侮辱モ誹毀ナリ、誹毀モ亦侮辱ナリトイフヲ得ヘケレド、法律ニ定メタル所ニ由テ、論スル所ハ、如此クイフヘカラス、侮辱ハ官權ニ對スルモノニシテ、誹毀ハ一身ニ對スルモノナリ、混スルコトヲ得ス、而シテ其官權ニ對スルト、其一身ニ對スルコトハ、其事件ニ由リ、之ヲ區別スヘキナリ、

〔第二二三五號〕演說ハ、論說ヲ敷衍スルナリ、然レド、論說ヲ敷衍シテ、侮辱スレハ、輒チ罪ト爲ルコアラズ、之ヲ罪トシ罰セシムルハ、其演說ハ、必ス公然ノモノタラサルヘカラス、公然タラサレハ、侮辱スルモ、罪ト爲ルコトナシ、然レハ公然トハ如何ナルコトイフヤ、曰ク、公然ノ意ハ、之ヲ解スルコト容易ナラス、又世間ニモ、未ダ精確ニ之ヲ解シタルモノヲ見ス、而シテ今之ヲ解セシムルハ、其字義ヲ詳ニシテ、法律中處々散見スル所ノモノヲ比照シ、以テ之レカ説ヲ爲サルヘカラス、第四百四十一條、第二百五十八條、第二百五十九條、第二百六十三條、第三百五十八條、第四百二十三條等ニ、公然トアリ、字書ニ、公ハ無私也トアリ、而シテ私ハ、對公而言謂之私トアリ、故ニ公私ハ、相對スル語ニシテ、公ハ公平無私ナリ、私ハ其反ナリ、周官ニ

云ク、以公滅私ト、其註ニ云ク、以天下之公理、滅一己之私情ト、是レ其例ナリ、然レモ今此意ニ從テハ、解シ難シ、又字書ニ、公ハ官所チイフトモアリ、詩ニ退食自公トイヘルカ如キ是レナリ、又詩ニ雨我公田、遂及我私トアルカ如キモ、其例ナルヘシ、是レ官府チイフナリ、然レモ此意ヲ以テモ、解シ難シ、近世用フル公ノ字ハ、多クハ社會人民ニ係ルヲチイフ、而シテ刑法中用フルモノハ、皆社會公衆ニ係ルヲチイフナリ、古書ニ用フル所トハ自ラ異ナリテ、今用フル所ハ、其意ノ一轉シタルモノナリ、故ニ公然トイヘハ、世間ニ對シテノ意ナリ、公務（二七七條二一五條）公選（二三三條）公布（二七三條三五八條）ノ、公字ノモ、亦同意ナリ、其他公益、公訴、公權、公債、公證、公園等トイフモ、皆同シ、佛文原稿ニハ、或ハ公ピヨリトアリ、或ハ公ピヨリトアリ、

まんトアリ、公ピヨリトアリ、其意ハ一ナリ、皆人民ノ義ニ出ツ、公然演説シ、公然誹毀ストイヘハ、人民ニ對シ、其聞見スル所ニ於テ、演説シ、誹毀スルチイフナリ、此原文ノ意ヲ以テ解スルキハ、善ク其事情ニ適スベシ、而シテ近世ハ、我國ノミナラス、支那ニ於テモ、如此キ意ヲ以テ、公ノ字ヲ用フルコト多シ、支那ニテモ古文ニイフ所ト、近文俗語ニ用フル所トハ異ナリ、故ニ公然ト熟語ニシテ用ヒタルコトハ、恐クハ漢以前ノ古書ニハナカルヘキナリ、

〔第一一二六號〕 其字義ハ、茲ニ論セシカ如ク、社會人民ニ對スルニ謂ナリ、然レモ其事實ニ就テ、論スルキハ、尙ホ分明ナラサルモリアリ、嘗テ明治十五年三月六日報知新聞第二千七百十七號ニ、參事院ノ下問ニ就キ、ボアソナード氏カ述ヘ

タル意見書ヲ記シ、且ツ其顛末ヲ載セタリ、今其略ヲ示ス、警
 視廳ノ伺ニ云ク、刑法第三百五十八條一項ニ、公然ノ演説云
 々ト、右公然ノ文字ハ、假令ヒ一社員ノミノ集會ニテモ、之ヲ
 適用スルヲ得ヘキヤ如何ト、參事院法制部ニテハ、議論ニ派
 ニ分レテ、決セズ、依テ同部ヨリボアソナード氏ニ下問セラ
 レタリ、同氏ノ説明、左ノ如シ、曰ク、政談會社、又ハ其他ノ會社
 ニ於テ、誹毀ニ涉ル演説ヲ爲ス者ハ、假令ヒ其社員外ノ者、出
 席セサルモト雖モ、第三百五十八條一項ヲ適用スヘシ、刑法
 ニ於テ、犯罪ノ一元素ト爲ス所ノ公然トイフコトハ、其實ヲ見
 聞スル者、多人數ナルモ、皆公然トイフヘキナリ、尤モ罪犯
 ノ一家族、若クハ朋友ノ懇親會ハ、別段ナリ、二三ノ親友ヲ會
 シテ、懇話スル所ノ席ニ於テ、誹毀ニ涉ルモ、未タ公然ノ誹毀

トイフヘカラスト雖モ、其會席ニ集ル者、多人數ニシテ、格別
 深交ナキモノニシテ、例ヘハ、延邊館ノ會場ノ如キニ至テハ、
 公然ノ誹毀トイフヘキナリ、殊ニ席上演説、祝詞等ノ如キ、高
 聲ヲ發スルモ、勿論ナリ、尤モ其時ノ狀情ヲ詳ニシテ、鑑別
 スルヲ要ス、然レモ政談會ニ於テハ、假令ヒ私會ト稱スルモ、
 刑法上ニ於テ、公然ト爲スヘキヲ疑ナシト、
 【第一一二七號】此說ハ、類例ヲ示シタルモノニ過キサレバ、
 未タ其要領ハ知ルヘカヲサルナリ、佛語バ、
 對スルノ意ヲ示スモノナリ、然レモ天下公衆ニ對ス
 ルコトハ、アラズ、忌避スル所ナクシテ、世人ノ聞見ヲ憚カ
 ラサルモノハ、則チバ、
 佛國民法第二千二百二十九條ニ、公然ノ占有トイヒ、又我

民法草案第九十六條ニモ、公然ノ占有トイヘルカ如キ是レナリ、是レ陰私ノ反ナリ、而シテ佛語ニ於テ然ルノミナラス、我公然ノ字義モ亦然リ、清律ニ曰ク、公取竊取皆爲盜、又其註ニ曰ク、公取謂行盜之人、公然而取其財、如強盜搶奪、又其小註ニ曰ク、公取者、欺事主之不敢、無所避忌、公然而取之、如強盜搶奪之類是也ト、故ニ公然トハ、忌憚スル所ナク、隱避スル所ナキノ謂ナリ、其場所ノ如何ニハ、拘ハラズ、故ニ公園ノ如ク、道路ノ如ク、世間公衆ノ聞見スル所ニ於テスト雖モ、忌避スル所アルニ於テハ、公然トイフヘカラス、又一己ノ私宅ニ於テスルモ、衆人ノ聞見スル處ニ於テ、忌避スル所ナキニ於テハ、公然トイフヘシ、故ニ公然ノ演說トイヘハ、世人ノ聞見チ忌避スルコトナキ演說チイヒ、又公然猥褻ノ所行チ爲ストイ

3

フモ、亦之ニ同ク、忌避スル所ナク、猥褻ノ事チ行フチイフナリ、故ニ道傍ノ陰所ニ忌避シテ、之チ行ヒ、又ハ夜中人ノ聞見セサルニ依テ、之チ行フ等ハ、假令ヒ他人ノ爲メニ發見セラレモ、公然猥褻ノ所爲チ行ヒタル者トイフヘカラス、公然ナルト公然ナラサルトハ、其場所ニ由ラスシテ、犯人ノ意思ニ由テ、之チ定ムヘシ、而シテ其意思ノ有無ハ、一ニ裁判官ノ判定スル所ニアリ、然レモ此公然トイフコトモ、心ト事ト相合シテ成ルモノナレハ、其場所ハ、公然ノ場所ニシテ、公然ナラシムルノ意思アルモ、公然ナラシムルノ事實ナキニ於テハ、公然トイフヘカラス、故ニ大洋ノ如キハ、世界公共ノ場所ナリト雖モ、其舟中ニ在テ、演說チ爲シ、猥褻チ行フモ、世人ノ聞見スルコトナキニ於テハ、公然トイフヘカラス、其他公

字ハ、天下公共スル所ノ意ニ解スヘシ、公共ノ意ニ解スレハ、佛語ノ意ニモ適當シ、又公ノ字ノ古義ニモ適當スヘシ、字書ニ、公ハ通也トモ、又猶共也トモ見ユ、禮記ニ大道之行天下爲公トアリテ、其註ニ公猶共也トアリ、之ヲ要スルニ、今用フル公ノ字ニ四義アリ、一ハ公平無私ナリ、一ハ官所ナリ、一ハ忌避スル所ナキナリ、又一ハ社會公衆ノ謂ナリ、而シテ此意ハ、或ハ洋語ノ翻譯ヨリ來リシナルヘシ、

〔第一一二八號〕 第三百五十八條誹毀ノ罪ニハ、雜劇偶像ヲ作爲シトアリ、官吏ノ職務ニ對シ、雜劇偶像ヲ作爲シテ、之ヲ侮辱スルモ、如何、曰ク雜劇ヲ以テ侮辱シタルモノハ、即チ演説ヲ以テ侮辱シタルモノニシテ、而シテ偶像ヲ作爲シテ、侮辱シタルモノモ、亦之ニ同シ、雜劇偶像ハ、圖書文書ト同ク、吾

カ意ヲ表スル所以ニシテ、而シテ其最モ明白詳密ナルモノナリ、已ニ論シタルカ如ク、筆寫シタル圖書文書ヲ以テ、侮辱シタル者モ、亦之ヲ罰ス、之ヲ罰スル所以チ會得セハ、雜劇偶像ヲ以テ、侮辱シタル者ヲ罰スル所以モ、亦之ヲ會得スキナリ、

〔第一一二九號〕 又第三百五十八條誹毀ノ罪ニ就テハ、事實ノ有無ヲ問ハスシテ、之ヲ罰ス、今侮辱官吏ノ條ニハ、此事實ノ有無ヲ問ハサルノ語ナシ、此語ナキカ故ニ、事實ノ有無ヲ審案シテ、其罪ノ有無ヲ區別スヘキヤ如何、曰ク、事實ノ有無ヲ問ハサルハ、猶ホ誹毀ノ罪ニ於ケルカ如シ、然レモ最初刑法草案ニテハ、其事實アレハ、則チ罪ナシトセリ、草案第百七十一條(今ノ第百四十一條)ニ曰ク、文書演説其他ノ方法ヲ以テ、官吏ノ職務上ニ於テ、不正ノ所爲アリト、誹毀シタル者、其事實

ヲ證明スルヲ能ハサル時ハ、三月以上三年以下ノ重禁錮、十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス、但其職務上ニ關セサル事件ニ係ル者ハ、第三百九十八條(今ノ第三百五十八條)ノ例ニ從フト、然レモ此條ハ、改正セラレテ、其法文ハ今ノ如ク爲レリ、而シテ其改正ノ事由ハ、元老院會議筆記ニ詳ナリ、此筆記ノ論ハ、法律ノ精神ヲ顯ハスノミナラス、又大ニ法理ニモ關係アルモノナレハ、今其大要ヲ略述セン、某議官第四百四十一條ニ修正ヲ加ヘントシテ曰ク、司法省草案第六十九條第七十條ニ從ヒ、第四百四十一條ヲ修正シテ、左ノ如クセント欲ス、曰ク、官吏ノ職務ニ對シ、其目前ニ於テ、形容若クハ言語ヲ以テ、侮辱シタル者ハ、二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ、五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、其目前ニ非スト雖モ、刊行ノ文書

圖書、又ハ公然ノ演說ヲ以テ、侮辱シタル者ハ、一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ、三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、○文書演說其他ノ方法ヲ以テ、官吏ノ職務上ニ於テ、不正ノ所爲アリト、譏毀シタル者、其事實ヲ證明スルヲ能ハサル時ハ、三月以上三年以下ノ重禁錮、十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス、但其職務上ニ關セサル事件ニ係ル者ハ、第三百九十八條ノ例ニ從フト、本案ニテハ、其目前タルモ其目前ヲササルモ、皆同一ニシテ、區別ナシ、司法省草案ハ、其目前ト其非目前トヲ區別シテ、權衡宜キヲ得タリ、又第四百四十二條ヲ追加スルノ理由ハ、總テ官吏ノ職務上ニ就テハ、其事實ヲ證明スルノ精神ナリ、然ルニ現行讒謗律ニハ、其事實ノ有無ヲ問ハストアリ、夫レ官吏ハ全國大小ノ政治ニ關係スルモノナリ、

然レハ其私事ニ係ルモ、衆人ト同視スルモ、苟モ其職務上ノ事ニ於テ、事實ニ適當スルコトナレハ、之ヲ摘發論議スルモ、其罪ヲ問ハスト爲スハ、是レ確乎タル道理ノ在ルアルヲ以テナリ、若シ概シテ有無ヲ問ハストセハ、恐クハ人民ノ口ヲ鉗制スルニ至ラン、又英佛ノ如キモ、皆事ノ有無ニ因テ論スト聞ク、議者或ハ曰ハシ、警察官ハ、人民ニ代テ告發スヘシ、其權ヲ人民ニ與フルニ及ハスト、豈ニ夫レ然ランヤ、官吏ノ果シテ不正ナルヲ認ムルニ於テハ、人民ト雖モ之ヲ論辯スヘカラサランヤ、若シ之ヲ抑壓セハ、恐クハ人民ヲシテ信服セシムル能ハサルヘシ、又假令ヒ如此ク事實ノ有無ヲ分ツモ、漫ニ論難スル者ハアラサルヘシ、若シ是レアラハ、嚴罰スヘキノミ、又有實ナラハ、其罪ヲ問ハスシテ可ナリ、因テ第四百四

十一條並ニ第四百四十二條ヲ追加セント欲スルナリト、内閣委員ノ答辯ニ曰ク、某議官カ司法省草案第七十條ヲ追加セントスルハ、甚ダ不可ナリ、若シ之ヲ追加セハ、社會ノ平安ヲ保全スルコト能ハス、何トナレハ、一般人民ヲシテ、官吏ノ職務上ノ行爲、若シ其實アリトセハ、何等ノ事ヲイフモ可ナリトスルノ感ヲ起サシムルヲ以テナリ、抑モ目下人民ノ情態ハ、只管官吏ノ行爲ヲ新聞紙等ニ載スルヲ好ミ、之ヲ誹議スルヲ喜フノ風アリ、故ニ若シ論者ノ如クセハ、貴顯官吏ノ行爲ヲ譏謗シタル者アレハ、一々之ヲ裁判ニ付シ、其有無ヲ決セサルヲ得サルヘシ、如此クナラハ、實ニ不可言ノ弊害ヲ生ゼシ、人民ニ於テ、官吏ノ行爲ニ果シテ惡事アリトセハ、之ヲ告發スヘシ、固トヨリ譏謗スルコト須ヒス、又外國ニテモ、事

實ノ有無ヲ分ツトイヘ、是レ僅ニ比耳義佛蘭西ノミ、英吉利ノ如キハ、官民共ニ同一ナリ、若シ修正ノ如クセハ、官吏ト人民ト相異ナルニ至ル、思フニ二國ノ法律ノ如キハ、或ハ惡法トイフモ、不可ナカルヘシト、而シテ其決議ニ於テ、某議官ノ説ハ、遂ニ採用セラレサルコト爲レリ、

〔第一一三〇號〕 難者曰ク、一見セル所ニテハ、元老院會議筆記ニテハ、事實ノ有無ヲ問ハス、侮辱スレハ、輒チ罪アリトスルモノ、如シ、然レモ法文ニハ、官吏ノ職務ニ對シ、侮辱シタル者トアルノミナレハ、一概ニ事實ノ有無ヲ問ハストスルコトヲ得ス、況ンヤ第三百五十八條ニハ、事實ノ有無ヲ問ハサルノ明文アリテ、而シテ第四百一十一條ニハ、其明文ナキニ於テチヤ、其明文ナクシテ、則チ第四百一十一條ニ於テハ、事實ノ有無ニ

從テ、有罪無罪ノ別ヲ爲サ、ルコトヲ得サルナリ、又元老院筆記ニテモ、未タ容易ニ事實ノ有無ヲ問ハストハ爲シ難シ、元老院ノ議決スル所ハ、某議官ノ修正說全體ニ就キ、否決シタルモノナレハ、事實ノ有無ヲ問フト問ハサルトノ一點ニ就テハ、未タ分明ニ議決シタルモノトイフヘカラス、故ニ元老院ノ筆記ハ、此一點ニ就テハ、引證シテ法律ノ精神ヲ定ムヘキモノニアラス、此筆記ニ依テノヨリハ、寧ロ法律ノ明文ニ依リ、第四百一十一條ト第三百五十八條トヲ比照シテ、論定スヘシ、而シテ之ヲ比照スルキハ、前ニ論シタルカ如ク、第三百五十八條ニハ、事實ノ有無ヲ問ハサルノ明文アリテ、而シテ第四百一十一條ニハ、其明文ナキヲ以テ、事實アルモノニ就テハ、罪ナシトセサルヘカラス、侮辱モ誹毀モ、其理ハ即チ一ナリ、而

ノ其理ニ依テ、之ヲ論スレハ、惡事醜行ヲ舉示シタルノミヨ
 テハ、侮辱ト爲ラス、又誹毀トモ爲ルコトナシ、無キ有トシ、小チ
 大ニシ、輕チ重ト爲ス等、事實ニ違フ所ナキニ於テハ、侮辱誹
 毀トイフヘカラス、此理ニ拘ハラズ、侮辱ト爲シ、誹毀ト爲サ
 シヨハ、第三百五十八條ノ如ク、明文ナカルヘカラス、又若シ
 常ニ事實ノ有無ニ拘ハラズ、誹毀ト爲ルヘキ理ナラシヨハ、
 何ソ殊ニ第三百五十八條ニ、明文ヲ掲クルコトヲ須ヒシ、明文
 ナ掲ケスシテ可ナリ、且ツ之ヲ掲ケスシテ可ナルノミヨア
 ラス、之ヲ掲クルハ、反テ事ニ害アリ、法律ハ、如此キ有害ノ事
 ハ、故ラコ之ヲ爲スヘキ理ナカルヘシト、余思フニ、是レ亦一
 議論ナリ、然レモ法律ノ精神ハ、決シテ如此クナルヨハアラ
 サルヘシ、但第四百四十一條ニ、事實ノ有無ヲ問ハサルノ明文

ナキハ、憾ムヘキコトナリ、

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

〔第一一三一號〕此罪ハ、舊律ニテハ、捕亡律中ニ在リテ、獄囚
 脱監、及反獄逃走、徒流人逃、(改定律例懲役人逃)主守不覺失囚、
 與囚金刃、劫囚、藏匿罪人等ノ罪ニ該ルモノナリ、最初草案ニ
 テハ、已決未決ニ論ナク、囚徒カ逃走セルノミノ所爲ハ、之ヲ
 罰セザリシナリ、然レモ今ハ之ト異ナリテ、已決未決ノ囚徒
 ノ逃走スルキハ、其逃走ノ所爲ノミヲ以テ、罪ト爲シ、并ニ一
 月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス、若シ獄舍獄具ヲ毀壞シ、又
 ハ暴行脅迫ヲ爲シテ、逃走シタル者ハ、并ニ三月以上三年以
 下ノ重禁錮ニ處ス、(一四二條一四四條)第一ノ罪ハ、舊律ノ脱
 監越獄徒流人逃走ニ當リ、第二ハ反獄ニ該ル、脱監ハ守卒ノ

囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

覺ラサルニ乗シ、密ニ自ラ門ヨリ逃出ルモノニシテ、越獄ハ
 墻ヲ踰テ逃走シ、其門ニ由ラサルモノナイフ、又反獄トハ、強
 ナ特ニ衆ヲ恃ミ、兇ヲ逞シ襲撃シ、公然ト門ヲ奪ヒ逃走スルモ
 ノナイフ、徒流人逃走ハ獄外ニ在テ逃走スルナイフ、或曰ク、
 看守者ノ懈怠ニシテ、獄舎ノ門戸ノ放開スル等ニ由テ、囚徒
 ノ逃走スルハ、人情ノ當然ニ出ルコトニシテ、之ヲ罰スルハ、甚
 タ酷ナリ、門戸ノ放開スルニ由テ、逃走スルハ、恰モ餓者ノ食
 ナ見テ食ヒ、渴者ノ水ヲ見テ飲ムト一般ナリ、夫ノ籠鳥ヲ見
 スヤ、人ノ爲メニ愛養セラル、モ、尙ホ且ツ天ヲ望テ悲鳴ス、
 況ンヤ囚人ニ於テナヤ、如何ソ、之ヲ罰スルコトヲ得ン、古昔羅
 馬ニ於テハ、之ヲ罰シタリト雖モ、佛國刑法ハ、改メテ、獄舎ヲ
 毀壞シ、暴行ヲ爲シテ、逃走スルニアラサレハ、罰セサルコト

セリ、我草案ニ於テモ、亦如此クセラレタリ、是レ實ニ人情事
 理ノ當然ナリト、余思フニ此説是ナリ、然レモ今之ヲ罰スル
 ハ、從來ノ慣例ニシテ、而シテ脱監シ、又ハ逃走スルルルハ、靜謐ヲ
 害シ、公益ヲ害スルコト、亦是レアルヲ以テナルヘシ、
 【第一一三二號】囚徒トハ、如何ナル者チイフヤ、又已決未決
 ノ終始ハ、何レノ時ヲ以テ定ムヘキヤ、曰ク、囚徒トハ、拘繫セ
 ラレタル人チイフ、囚ノ字ハ、其本義、人ノ圍中ニ在ルコトナレ
 也、此本義ニハ拘ハラヌ、又舊律ニ用ヒタル所ニテモ、獄内ニ
 在ル者チイヘ也、舊律ノ用例ニモ從ヒ難シ、何トナレハ、今ノ
 刑法ハ、徒流人ノ逃走ヲモ、併セテ囚徒逃走ノ罪ノ中ニ入ル
 レハナリ、故ニ今囚徒トイヘハ、拘繫セラレテ、獄内ニ在ル者
 ノミナラス、拘繫セラレタル者ナレハ、獄外ニ在ルト雖モ、亦

囚徒ナリ、而シテ拘繫セラレトハ、官權ヲ以テ束縛セラレ、ト
 ナイフ、必シモ有形ノ所爲ヲ以テ束縛セラレ、縲絏ノ中ニ在
 ル者ニ限ラス、故ニ外役ノ徒ニシテ、縛セラレ、トナキ者モ、
 亦囚徒ナリ、故ニ又外役中ヨリ逃走スル者モ、亦罰スヘシ、蓋
 シ第四百十二條第一項ヲ設ケラレタルハ、外役ノ徒ノ逃走
 スル者、即チ舊律ノ徒流人ノ逃走スル者ヲモ、罰スルカ爲メ
 ナリ、外役中ヨリ逃走スル者、往々是レアリ、而シテ此徒ハ、獄具
 等ヲ毀壞スルコトナクシテ、逃走ス、若シ第四百十二條第一項
 ノ規則ナクシハ、之ヲ罰スルニ由ナカルヘシ、

〔第一一三三號〕 身體ノ拘束ヲ受クル者ハ、即チ是レ囚徒ナ
 ルカ故ニ、其未決既決ヲ論セス、逃走スレハ、輒チ之ヲ罰スト
 雖モ、身體ノ拘束ヲ受ケサル者ハ、囚徒トイフコトヲ得サレハ、

逃走スト雖モ、逃走ノ罪アリトスルコトヲ得ス、故ニ未決ト雖
 モ、或ハ釋放ヲ得、或ハ責附セラレタル者ハ、逃走スルモ其罪
 ナク、又既決ト雖モ、罰金科料ニ處セラレタル者ハ、其罪ナシ
 或曰ク、罰金ヲ禁錮ニ換ヘ、又ハ科料ヲ拘留ニ換ヘタル者、其
 禁錮拘留中ニ在テ、逃走セハ如何、其逃走ヲ罪トシ論スヘヤ、
 將タ論スヘカラサルヤ、說者曰ク、罰金ヲ禁錮ニ換ヘ、又ハ科
 料ヲ拘留ニ換ヘタル者モ、亦囚徒ナリ、其逃走スルキハ、是レ
 則チ囚徒ノ逃走スルナリ、而シテ官命ニ服從セス、官權ヲ蔑如
 シテ、擅恣ニ逃走スルコト於テハ、公益モ亦大ニ害セラレ、豈ニ
 其罪ヲ問ハサルノ理アラシヤ、況ンヤ法文ニ於テモ、廣ク囚
 徒トアリテ、其別ナキニ於テチヤト、

〔第一一三四號〕 ホースタンエリ、佛國刑法第二百四十五

條ニ註シ、曰ク、でつに(囚徒ト譯ス)トハ總テ獄舎ニ監禁セラ
 レタル人ノ謂ニシテ、ぶれうよ(輕罪ノ未決囚)あつぎせ(重罪ノ未
 決囚)及ヒ重罪輕罪ノこんだむね(既決囚)ヲ總稱ス、然レモ、民
 事ノ負債ニ就キ監禁セラレタル者モ、亦囚徒トイフヘキヤ
 否ヤノ疑問アリ、未ダ分明ナラス、古昔學者ノ說ニテハ其區
 別ヲ爲サス、民事刑事ノ囚徒ヲ皆囚徒トイヒ、並ニ逃走ノ罪
 アリトセリ、而シテ此說ハ、佛國ノ古法ニモ、用ヒラレタリ、然レ
 モ今ノ刑法ニテハ、決シテ如此クナラサルヘシ、第二百三十
 八條第二百三十九條第二百四十條ト、第二百四十五條トチ
 比照セハ、重罪輕罪ノ未決囚ト、其既決囚トノ外ハ、囚徒トセ
 サルノ意自ラ見ユヘシ、逃走ノ罪ハ、官命ニ服從セス、多少之
 ニ抗拒スルコアルモ、未ダ成立スヘキモノニアラス、必ス社

會ノ公害ヲ生スルヲ待テ罪トス、民事負債ノ囚徒ハ、逃走ス
 ト雖モ、僅ニ其權利者ノ私益ヲ害スルノミニシテ、決シテ社
 會ノ公益ハ、之ヲ害スルコトナシ、今刑法第二百四十五條ハ、此
 意ヲ適用シタルモノナリト、ボアタルハ、此外ニ外國政府ニ
 引渡スヘキ命令ヲ以テ逮捕セラレ、外國ノ裁判所ニ於テ處
 分セラルヘキ囚徒ノ逃走モ、亦罰スルノ例ニ在ラストセリ」
 [第一一三五號] 余思フニ、我國ノ刑法モ、亦佛國刑法ノ如ク
 解シテ可ナルヘシ、我刑法第四百十二條第一項ハ、草案ニナ
 キモノナルヲ以テ、未ダ詳ニスルコトヲ得サレモ、其第二項以
 下ノ諸條ハ、草案ニモアリシ所ナリ、而シテ佛文原稿第七十
 二條第一項ニハ、有期ノ刑ノ言渡ニ由テ、拘禁セラレタル總
 テノ人トアリ、又其第三項ニハ、犯人カ無期ノ刑ヲ言渡サレ

タル者ナルキトアリ、而シテ又第七十八條ニモ、重罪ノ刑ヲ言渡サレタル者ニ係ルキハ云々、輕罪ノ禁錮ヲ言渡サレタル者、又ハ重罪輕罪ノ未決囚ニ係ルキハ云々トアリ、此數條ニ依レハ、我原稿ハ、則チ近世佛國ニ行ハル、說ニ從テ、設ケラレタルモノナルヲ疑ナシ、而シテ是等ノ趣旨ハ、今ノ法律ニテモ、變更セラレタルニアラサルヘシ、又罰金ヲ禁錮ニ換フルノ意モ、嘗テ論セシカ如ク、佛國ニ所謂ル民事ノ禁錮ニ出テタルモノナレハ、是レ即チ前說ノ民事負債ノ囚徒ナリ、故ニ其逃走ハ、罰スヘキモノニアラストス、但シ違警罪拘留ノ囚徒ハ、其罪輕罪ノ罰金ニ該ル者ヨリ輕シト雖モ、既決ノ囚徒ナルヲ以テ、逃走スレハ、輒チ其罪ヲ問フヘシ、原稿第七十二條第一項ニ、有期ノ刑ノ言渡ニ由テ、拘禁セラレタル總テ

ノ人トアル中ニハ、拘留ノ囚徒モ亦包含スヘク、今ノ法文ニモ、廣ク已決ノ囚徒トアレハ、又之ヲ包含スヘキナリ、
 〔第一一三六號〕 未決已決ノ囚徒トハ如何、曰ク、未決ノ囚徒トハ、勾留狀ヲ以テ、被告人ヲ逮捕シ、若クハ現行犯罪ニ由テ、之ヲ逮捕シテ、其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致シ、又ハ治罪法第二百六條ニ從ヒ、豫審判事ニ送致シタル以後ノ被告人チイフ、檢事警察官ノ手ニ在ル者ハ、囚徒トイフヘカラス、何トナレハ、檢事警察官ハ、豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スト雖モ、皆一時ノ便宜ニ出テ、假ニ爲スモノニシテ、而シテ未ダ公訴モ起ラサル前ナレハナリ、未決ノ字義ハ、廣シト雖モ、未ダ裁判官ノ審判ニ付セサルモノハ、未決トイフヘカラス、檢事警察官ハ、其罪ノ有無ヲ判決スルノ權ナシ、判決スルノ權ア

逃走ノ手ニ在テ

ル者ノ手ニ在テ、未タ判決セサルヲ未決トイフ、其權ナキ者
 ノ手ニ在ル、如何ソ之ヲ未決トイハシ、之ヲ要スルニ、未決ノ
 囚徒トハ、裁判所ノ處分ニ付シタルヨリ、其裁判ノ確定ス
 ルニ至ル迄テ、囚徒ニシテ、而シテ已決ノ囚徒トハ、裁判ノ確
 定セシヨリ、其刑ノ消滅スルニ至ル迄ノ囚徒トイフ、又已決
 ノ犯人タリト雖モ、免幽閉假出獄ヲ得タル者ハ、囚徒タルニ
 アラサルヲ以テ、逃走スルモ罰スヘキニアラス、
 (第一一三七號) 不法不正ニ監禁セラレタル者、逃走シタル
 事ハ如何、曰ク、此事件ハ、佛國ニテモ論議アルトニシテ、古昔
 ハ、不法ニ監禁セラレタル者ハ、逃走スルモ、其罪ナシトセリ、
 然レモ今ノ法文ニハ、其區別見エス、故ニ拘禁セラレ、所以
 ノ正否ヲ論セス、總テ拘禁セラレタル者ハ、逃走スレハ、則チ

其罪ヲ免ルヘカラサルニ似タリ、ホーヌタジエリ一曰ク、今
 ノ法文ニハ、其區別見エスト雖モ、自ラ其區別アルヘキトナ
 リ、實ニ擅恣不法ノ監禁ヲ受ケテ、之ヲ免レノカ爲メ、逃走ス
 ル者ハ、如何ソ刑法ニ於テ、之ヲ罰スルコトヲ得ン、其逃走ハ、社
 會ノ公益ヲ害セサルハ勿論、反テ厭忌スヘキ不法ノ處分ヲ、
 社會ノ爲メニ、止メシメタルモノニシテ、若シ逃走セズシテ、
 拘禁セラレレハ、當該官吏ノ不法監禁ノ罪ヲシテ、永續セシ
 ムルナリ、然レモ法律ノ監禁ヲ許サ、ル場合ニ於テ、官吏ノ
 監禁シタル者ト、或ハ法式ニ違ヒ、或ハ推測ヲ誤テ、其監禁シ
 タル者トハ、差別スヘシ、此第二ノ物合ニ於テ、監禁セラレタル
 者、逃走スル事ハ、其逃走ノ罪ハ、之ヲ免ルヘカラス、其基本ニ
 於テハ、不正ノ監禁ナリト雖モ、其表面ニ於テハ、正當ノ監禁

ナルヲ以テ、人民ハ法律ニ從ヒ、官命ニ服從セサルヘカラス
 ルナリト、此說ハ、我國ニ於テモ、準據スヘキモノナルヘシ、官
 吏贖職ノ罪ヲ犯シテ、人ヲ監禁スルルキハ、其監禁ハ、決シテ受
 シヘキニアラサレハ、逃レテ其監禁ヲ免ル、ハ、當然ナリト
 雖モ、官吏ノ權内ニ在テ、監禁スルルキハ、僅ニ其程式ニ違フ所
 アルモ、其監禁ハ、之ヲ受ケサルヲ得ス、已ニ之ヲ受ケサル
 ヲ得サルニ於テハ、逃走スルルキハ、又其罪ヲ免ルヘカラス
 ルナリ、

〔第一一三八號〕 不法ニ監禁セラレタル者、逃走スルノミナ
 レハ、其罪ナシト雖モ、獄舍、獄具ヲ毀壞シ、又ハ暴行脅迫ヲ爲
 シタルルキハ如何、其毀壞暴行ノ所爲ハ、之ヲ罰セサルヤ、或曰
 シ、此所爲ハ、之ヲ罰スヘシ、即チ獄舍、獄具ヲ毀壞スルハ、第百

四十二條第二項ニ明文アリテ、別ニ罪ヲ問ヘハナリト、余思
 フニ然ラサルヘシ、法文ニイフ所ハ、囚徒ノ獄舍、獄具ヲ毀壞
 シテ、逃走シタル者ニシテ、而シテ其囚徒ハ、則チ正シク監禁セラ
 レタル者ナリ、不法ニ監禁セラレタル者ハ、所謂ル囚徒ニア
 ラス、囚徒ニアラサレハ、逃走罪ノ成立スル所以ナシ、獄舍、獄
 具ヲ毀壞スルハ、逃走罪ノ加重ノ情狀ニ外ナラス、加重ノ情
 狀ハ、其本位ノ罪ニ附加スルモノナリ、其本位ノ罪ナキニ於
 テハ、獨加重ノ情狀ノミ存スヘキニアラサルナリ、或曰ク獄
 舍ハ即チ家屋、建造物ニシテ、而シテ獄具ハ即チ器物ナラスヤ、
 故ニ逃走ノ罪ハ、問ハサルモ、家屋器物ヲ毀壞スル罪ハ、第四
 百十七條、第四百二十一條ニ依テ、之ヲ問フヘキニアラスヤ、
 余曰ク、毀壞ノ罪モ、亦問フヘカラス、何トナレハ、毀壞ニハ、

ヲ犯スノ意ナクハナリ、毀壞スルノ所爲アリ、意思アリト雖、人ノ財物ヲ損敗スルカ爲メニアラスシテ、不法ノ監禁ヲ免ル、カ爲メニ、毀壞スルカ故ニ、罪ヲ犯スノ意アリトスルコトヲ得サルナリ、

〔第一一三九號〕未決ノ囚徒逃走スト雖、其被告事件タル終ニ無罪免訴ノ言渡ヲ受ケ、固トヨリ閉囚スヘカラサル者ニ係ルキハ、如何、一説ニ曰ク、被告事件ニ就キ、無罪免訴ノ言渡ヲ爲スハ、逃走ノ所爲ハ、罪ト爲ラサルヲ以テ、之ヲ罰スルコトヲ得ス、最初草案第七十四條ニハ、若シ原犯無罪ニ歸スル時ハ、止テ逃走ノ刑ヲ科ストアリテ、逃走ノ所爲ハ、尙ホ之ヲ罪トシ罰セラレタリト雖モ、今ハ之ヲ刪除セラレタリ、而シテ之ヲ刪除セラレタルハ、是レ之ヲ罰セサルカ爲メナリ、

又道理ニ因テ考フルモ、逃走罪ノ成立ヲシテ、被告事件ノ罪ト爲ルト爲サルトニ關セシムルハ、當然ノコトナリ、何トナレハ被告事件、無罪ニ歸スルキハ、被告人ヲ勾留セルハ、全ク錯誤ニ出テタルコトニシテ、被告人ハ固ト勾留セラレヘキニアラス、故ニ其逃走スルモ、逃走罪ニアラス、之ヲ勾留セルハ、其實却テ不法ノ監禁トモイフヘキ所爲ナレハナリ、且ツ治罪法第二百十七條ニモ、保證金ヲ没入シタル後、免訴ノ言渡アルキハ、其没入シタル金額ヲ還付スルノ規則アレハ、此等ニ由リ法意ヲ推スモ、亦以テ其本ニ於テ罰スヘカラサルモノハ、其末ニ就テ罰スヘカラサルヲ知ルヘシ、

〔第一一四〇號〕第二説ニ曰ク、前説ハ、刑法草案ト治罪法トニ據リ、立法者ノ精神ヲ深究シ得テ、又道理ニ適スルモノハ、

如クナレトモ、未タ之ニ循フヘカラサルナリ、蓋シ官ニハ、犯罪ノ被告人ヲ糾治スルノ權アリ、故ニ其之ヲ糾治スルノ間、之ヲ勾禁スルノ權ナキ能ハス、已ニ其權アリテ、之ヲ勾禁スルニ於テハ、被告人ハ、之ニ從順セサルヘカラス、若シ之ニ從順セシテ、逃走スルニ於テハ、必ス之ヲ罰シテ許スコトナカルヘシ、然ラサレハ、糾治シ勾禁スルノ權アリテ、之ヲ行フコトヲ得ス、且ツ逃走ノ罪ハ、逃走ノ時已ニ成立スルモノニシテ、被告事件ノ罪ト爲ルト爲ラサルトニ依テ、成否ノ定マルモノニアラス、故ニ被告事件ノ無罪ニ歸スルキト雖モ、逃走ノ罪ハ、尙ホ之ヲ問フヘキナリ、余思フニ、此說其當ヲ得タルモノナルヘシ、而シテ又此說ハ、世論ノ多ク是認スル所ナリ、但シ第四百四十二條ニ、原犯ノ罪ヲ判決スル時トアルハ、總ナラス、原犯

ノ罪トイヘハ、無罪ノ時ハ、未決囚逃走ノ所爲ハ、之ヲ罪トセサルカ如ク聞ユヘシ、佛文原稿第七十四條ニハ、ぶろみる、ぶれわんぞんトアリ、ぶろみるハ、最初ナリ、ぶれわんぞんハ、被告事件トモ譯スヘキモノナリ、即チ最初ノ被告事件ヲ判決スル時チイフナリ、總テ刑法中ニハ、治罪法ニテ、被告人又ハ被告事件ト譯セラレタル所チ、犯人又ハ犯罪ト譯セラレタリ、故ニ之ニ拘泥スヘカラサルナリ、
 [第一一四一號] 已決ノ囚徒、逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ、再犯チ以テ論セス、其刑ヲ加重スルコトナシ、再犯トシテ其刑ヲ加重セサルハ、已決罪ノ囚禁ハ、即チ逃走罪ノ原因ニシテ、逃走罪ハ、即チ已決罪ノ結果ナレハナリ、已決ノ囚禁ナキニ於テハ、逃走罪ノ成立スヘキ所以ナシ、已決ノ囚禁ハ、逃走罪ヲ構成

スルニ關シヘカラサル一要件ナリ、若シ逃走罪ヲ以テ再犯トシ、其刑ヲ加重セハ、逃走罪ヲ犯ス者ハ、一トシテ再犯ナラサルハナキニ至リ、而シテ加重シタル刑ニ、尙ホ加重スルニ至ルヘシ、逃走罪ヲ罰スルハ、他ノ再犯ニ就キ通常加重シテ論スルト一般ナリ、是レ直チニ逃走罪ヲ以テ再犯ト爲サ、ル所以ナリ、故ニ此場合ニ於テハ、原犯後犯ノ二刑ヲ併科シ、第九十五條ノ例ニ從ヒ、其重刑ヲ先キニシ、其輕刑ヲ後ニシテ、之ヲ執行スルノミ、然レハ無期徒刑ノ囚徒、逃走シ、又逃走セズト雖、ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ、若シハ暴行脅迫ヲ爲シ、其他重罪輕罪ヲ犯シタルハ、監獄則第百九條ニ從ヒ、行政ノ處分ヲ以テ、三月以上五年以下、兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ、仍ホ鈇丸ヲ以テ屬シタル鉄索ヲ、其鈇ニ貫キ、腰間ニ繚帶セシム、且

ツ監房ニ在ルモ、晝間ハ仍ホ之ヲ施ス、是レ逃走暴行等ノ制裁ナリ、但シ流刑ノ囚徒ニ係ルハ、通常ノ規則ニ從ヒ、其刑ヲ併科シ、定役アルモノヲ先ツ執行スルノミ(一四三條)
 [第一一四二號] 逃走ヲ以テ、直チニ再犯トスルヲナシト雖モ、其刑期限内、再ヒ逃走シタル者ハ、再犯ヲ以テ論ス、如此ク再犯ヲ以テ論スルハ、再ヒ逃走シテ、先後同一ノ罪ヲ犯シ、更ニ戒懼スル所ナキヲ以テナリ、又再度ノ逃走ハ、初度ノ逃走ト相須テ離ルヘカラサルモノニモアラサレハナリ、然レハハ法文ニ所謂ル、其刑期限内トハ、原犯ノ刑期限内ヲ指スヤ、將タ逃走罪ノ刑期限内ヲ指スヤ明ナラス、且ツ世上論者ノ説モ、未タ一定セサルニ似タリ、甲説ニ曰ク、原罪ノ刑期限内ノミヲ指スト爲スモ、逃走罪ノ刑期限内ヲモ併セ指スト爲ス

モ、別ニ異ナル所ナシ、然レモ其ノ字ハ、原罪ト逃走罪トヲ指
 スモノト解スルヲ妥當ナリトス、蓋シ第四百十三條ヲ設クル
 所以ハ、已決ノ囚徒逃走スル罪ハ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ
 アラサレハ、犯ス能ハサルヲ以テ、其刑ハ、立法者ニ於テ再犯
 タル性質ヲ認メテ、量定シタルモノナレハ、再ヒ罪ヲ犯シ、其
 再犯ノ刑期限内ニ逃走スルハ、再犯ノ刑ニ照シテハ、再犯
 トスルヲ得スト雖モ、之ヲ初犯ノ刑ニ照シテハ、再犯トス
 ルヲ得ヘシ、又刑期限内逃走シテ捕獲セラレ、後餘罪發覺シ
 其餘罪ノ刑期限内ニ逃走シタルハ、之ヲ前發ノ刑若シハ
 後發ノ刑ニ照シテ、再犯トスルヲ得スト雖モ、初犯ノ逃走
 罪ノ刑ニ照シテハ、再犯トスルヲ得ヘキナリト、

〔第一一四三號〕 乙説ニ曰ク、其刑期限内ノ、其ノ字ハ、本刑ヲ

指スモノナリ、故ニ例ヘハ竊盜罪ニ就キ、重禁錮三年ニ處セ
 ラレタル者、其三年内ニ逃走シ、更ニ重禁錮五月ニ處セラレ、
 竊盜ノ禁錮三年ノ限滿チタル翌日ヨリ、逃走ノ禁錮五月ヲ
 執行シ、其五月内ニ於テ、再ヒ逃走シタルハ、如キ場合ニ於
 テハ、再犯ヲ以テ論スヘカラス、竊盜ノ三年ト逃走ノ五月ト、
 通計三年五月ナレモ、其刑期ハ、即チ本刑タル竊盜ノ三年ヲ
 指スモノナレハ、此本刑三年内ニ、再ヒ逃走スルニアラサレ
 ハ、再犯タラス、逃走ノ五月ハ、別罪ノ刑期ナレハ、本刑限内ト
 イフヘカラサルナリト、又其論者第五百五十六條ニ註シ曰ク、
 復權ヲ得タル後、又ハ停止公權及ヒ監視ノ期限ヲ經過シタ
 ル後、更ニ他ノ罪ヲ犯シ、再ヒ剝奪公權、停止公權、及ヒ監視ニ
 付セラレタルハ、私ニ其權ヲ行ヒ、又ハ規則ニ違背スルモ、

再犯ヲ以テ論スルヲ得スト、此説ニテハ、逃走再犯ノ場合
モ、亦同ク其本刑期限内、再ヒ逃走スルニアラサレハ、再犯ヲ
以テ論セサルノ意ナルヘシ、

〔第一一四四號〕 余思フニ、甲説ハ、結局其當ヲ得タルモノナ
レト、其刑期限内ノ語ヲ解スルハ、未タ可ナラス、説者曰ク、其
ノ字ハ、原罪ト逃走罪トヲ併セ指スト、又曰ク、原罪ノミヲ指
ストスルモ、原罪ト逃走罪トヲ併セ指ストスルモ、別ニ差異
ナシト、是レ其當ヲ得タル説ニアラス、若シ其差異ナクシテ、
何ソ人ノ之ヲ疑ヒ、之ヲ論スル者アラソ、又原罪ト逃走罪ト
ヲ併セ指ストイフモ非ナリ、其前ニ原罪ノ語ナシ、又第五百
十六條ヲ解スルニ至テモ、不都合ヲ生スヘシ、或曰ク、假ニ其
刑期限内ノ五字ヲ除テ解スヘシト、原稿ニモ此五字ナケレ

ハ、之ヲ除クモ可ナリ、然レモ現ニ法文ニ明示スルモノヲ除
テ、解スルトイフモ穩ナラス、余ハ此五字ハ、除クヲ要セスト
ス、又除カント欲スルモ、解釋上ニ於テ能ハサルヲナリ、然ラ
ハ之ヲ解スル如何、曰ク、其ノ字ハ、已決ノ囚徒ヲ受ケテ、逃走
シタル者ヲ指スナリ、即チ其語ヲ改メテ解スレハ、左ノ如ク
ナルヘシ、曰ク、已決ノ囚徒ノ、刑期限内、再ヒ逃走シタル者ハ、
再犯ヲ以テ論スト、故ニ又左ノ如クイフモ可ナリ、曰ク、刑期
限内再ヒ其逃走シタル者ハ云々ト、其ノ字ハ、刑期ニ係ルニ
アラス、之ヲ刑期ニ掛ケテ讀ムカ故ニ、解スヘカラサルニ至
ルナリ、又第五百十六條モ、之ニ同シ、其ノ字ハ、前二條ノ犯人
ヲ指ス、即チ公權ヲ剝奪セラレ、又ハ之ヲ停止セラレタル者、
及ヒ監視ニ付セラレタル者、刑期限内再ヒ私ニ其權ヲ行ヒ、

又ハ再ヒ其規則ニ違背スルキハ、再犯ヲ以テ論スルナイフ
ナリ、前二條ノ罪ノ刑期限内ナイフニハアラス、此如クナル
カ故ニ、刑期限内ノ語ノ及フ所甚ク廣ク、原罪逃走罪ノ刑期
ヲ總稱ス、故ニ逃走二回ニ及フキハ、皆再犯ヲ以テ論スヘシ、
剝奪公權、停止公權、監視ノ場合モ、亦之ニ同シ、私ニ公權ヲ行
ヒ、監視規則ニ違背スルコト、二回ニ至ルキハ、亦常ニ再犯ヲ以
テ論スヘキナリ、

〔第一一四五號〕未決ノ囚徒ニハ、第四百四十三條ハ適用スヘ
カラサルヤ、曰ク、之ヲ適用スルコトアルヘシ、但シ未決ノ囚徒ノ
逃走ハ、三回ニ及ハサレハ、再犯ヲ以テ論スルコトナシ、例ヘハ未
決ノ囚徒逃走シ、而シテ其被告事件ニ就キ、無罪免訴ノ言渡ヲ
受ケ、犯罪ニ就キ、第四百四十二條ニ從ヒ、若干月ノ重禁錮ニ

處セラレ、其逃走罪ノ重禁錮中ニ於テ、再ヒ逃走シ、又ハ數罪
俱發一ノ重キニ從ヒ、被告事件ニ就キ、若干ノ禁錮ニ處セラレ、
其刑期限内ニ於テ、再ヒ逃走スルモ、再犯ヲ以テ論スルコトナ
シ、何トナレハ、最初ノ逃走ハ、并ニ已決ノ刑期限内ニ在ラサレ
ハナリ、未決ノ囚徒ニ係ルキモ、原犯若クハ逃走罪ノ刑期限
内、再ヒ逃走スルニアラサレハ、再犯ヲ以テ論セサルカ故ニ、
未決ノ囚徒ハ、三回逃走セサレハ、再犯ト爲ルコトナシ、
〔第一一四六號〕凡ソ未決已決ヲ論セス、囚徒三人以上通謀
シテ逃走シタルキハ、各本刑ニ照シ一等ヲ加フ、如此ク一等
ヲ加フルハ、豫謀スル所アリテ、道德上ノ惡大ニ、且ツ其罪犯
シ易ク防キ難クシテ、社會上ノ害モ亦從テ大ナレハナリ、而
シテ又如此ク加等セシコトハ、第一、囚徒三人以上タル事ヲ要ス、

囚徒ハ已決未決ヲ問ハサレハ、或ハ已決囚ト已決囚ト、三人以上タルコアルヘシ、或ハ未決囚ト未決囚ト、三人以上タルコアルヘシ、又或ハ已決囚ト未決囚トニシテ、三人以上タルコアルヘシ、總テ三人以上タルニ於テハ、其刑ヲ加等ス、然レモ、逃走シテ罪アル者ニアラサレハ、三人ノ數ニ加フルヲ得サルヘシ、懲治人又ハ罰金ヲ禁錮ニ換ヘラレタル者ノ如キハ、其數ニ入ラサルヘシ、故ニ懲治人、三人以上通謀シテ逃走シタルモ、勿論、囚徒、二人ニシテ、懲治人一人ト、通謀シタル場合ノ如キ、囚徒ハ、單ニ逃走ノ罪ヲ問ハル、ノミヨシテ、通謀ヲ以テ加等セラレ、コナカルヘシ、懲治人ノ如キハ、逃走スルモ、其罪ナキ者ナレハ、犯人ノ數ニ入ルヘキ理アラサルナリ、又教唆者從犯ノ如キモ、加ヘテ多數ニ入ル、コトヲ得ス、

ノ内外ヲ論セス、逃走者ト通謀シテ、之ヲ教唆シ幫助シテ、逃走セシムル者アルモ、逃走者中ニ入ラサル者ハ、多數ニ入ルヘカラス、故ニ三人ニシテ通謀シ、而シテ又三人ニシテ逃走スルモ、於テ、始テ其刑ヲ加等ス、但シ法文ニ所謂ル、三人以上トアルハ、三人並ニ其以上ノ人ナイフ、四人ヨリ加等スルノ謂ニアラス(一四五條)

〔第一一四七號〕 第二、通謀スルコトヲ要ス、故ニ通謀セサルニ於テハ、逃走者十數人ノ多キニ至ルモ、加等スルコトナシ、且ツ甲乙二人ハ、通謀シ、他ノ數人ハ、通謀セズシテ、甲乙ノ逃走スルニ因テ逃走スルモ、亦加等スルコトナシ、三人以上ノ者、悉ク通謀スルモ、於テ、始テ加等ス、

〔第一一四八號〕 第三、逃走スルコトヲ要ス、故ニ三人ニテ通謀スル

モ、其一人ハ逃走シテ、他ノ二人ハ逃走セサルモ、加等スル
 ナシ、三人悉ク逃走シテ、始テ加等ス、然ラハ三人通謀シテ、
 其一人ハ全ク逃走シ、他ノ二人ハ逃走ニ着手シ、其未遂犯中
 ニ於テ、捕ニ就カハ如何、未遂犯人ヲ已遂犯人ト看テ罰スヘ
 キヤ、將タ已遂犯人ヲ未遂犯人ト看テ罰スヘキヤ、又ハ已遂犯人
 ハ、已遂ノ罪ニ處シ、未遂犯人ハ、未遂ノ罪ニ處スヘキヤ、曰ク、
 已遂犯人ハ、未遂犯人トスヘキニアラス、况ンヤ未遂犯人ヲ、
 已遂犯人トスヘケンヤ、逃走シタル人ハ、之ヲ已遂犯人トシ、
 着手シテ未タ逃走セサル者ハ、未遂犯人トシテ、處分スヘキ
 ナリ、然ラハ一人ニシテ逃走スルモ、尙ホ三人ニテ逃走セル
 者トシテ、加等シ、又二人ノ逃走セサル者モ、三人逃走シタル
 罪ノ未遂犯罪トスヘキヤ、曰ク、二人ノ逃走セサル者ハ、加等

罪ノ未遂犯罪ニシテ、而シテ一人ノ逃走者モ、亦加等罪ノ已遂
 犯人ナリトス、今此意ヲ明ナラシメシニハ、三人同ク未遂犯
 罪タル場合ニ就テ考フヘシ、此場合ニ於テ、尋常ノ逃走罪ノ
 未遂犯罪トスヘキカ、將タ加等ノ逃走罪ノ未遂犯罪トスヘ
 キカ、其加等ノ未遂犯罪タルヘキハ、蓋シ言ヲ待タサル
 ナリ、是レ謀殺強盜等ノ場合ニ於テ、其未遂犯罪ヲ以テ、故
 殺竊盜ノ未遂犯罪トセサルト一般ナリ、已ニ加等ノ未遂犯
 罪タルニ於テハ、二人ノ逃走セサル者ハ、即チ加等ノ逃走罪
 ノ未遂犯人タルヲ明ナリ、而シテ一人ノ逃走セル者ハ、固トヨ
 リ加等ノ已遂犯人ヲ以テ論スヘシ、他二人ト通謀シテ、其者
 已ニ未遂犯人トシテ罰セラル、ハ、其實一人ニテ逃走
 セシニハ、アサレモ、法律上三人逃走シタル者トイフヲ

得レハナリ、法文ニ所謂ル逃走シタル時トハ、逃走罪ヲ犯シタル時トイフト一般ナリ、未遂犯以上法律ノ罰スル所ノ所爲アルニ於テハ、其罪ヲ犯シタリトイフヘキナリ、故ニ又未ダ逃走セスト雖モ逃走シタリトイフヲ得、

〔第一一四九号〕 逃走罪構成ノ要件ニ就キ、尙ホ一言スヘキモノアリ、所謂ル逃走トハ如何ナルヲイフヤ、獄内ニ在テハ、獄ノ内外ヲ以テ區別シ、其園内ニ於テ捕ニ就クハ、未遂ヲ以テ論シ、其園外ニ出テ、捕ニ就クハ、已遂ヲ以テ論スヘシト雖モ、外役中ニ於テ逃走スルハ、何ヲ以テ其未遂已遂ヲ區別スヘキヤ、是レ分明ナラサル所ナリ、思フニ此場合ニ於テハ、其現場ニ在テ、捕ニ就クト就カサルトヲ以テ區別スヘシ、其現場ニ於テ終ニ捕ニ就カサル者ハ、已遂犯人ニシ

テ、而シテ或ハ遠ク走ルモ、其現場ニ於テ終ニ捕ニ就ク者ハ、未遂犯人ナリ、恰モ是レ現行犯罪非現行犯罪ノ區別ト一般ナリ、現行犯罪ヲ以テ視ルヘキモノハ、未遂犯罪ニシテ、非現行犯罪ヲ以テ視ルヘキモノハ、已決遂犯ナリ、
〔第一一五〇号〕 以上論セシ所バ、已決未決ノ囚徒自ラ逃走スルノ罪ナリ、今ヨリ餘人カ、未決已決ノ囚徒ヲシテ、逃走セシムル罪ヲ論ゼン、第一、囚徒ヲ逃走セシムル爲メ、兇器其他ノ器具ヲ給與シ、又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ、三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、囚人タルト否トナ問ハス、囚徒ヲ逃走セシムルノ目的ヲ以テ、逃走ヲ幫助シ、其豫備ノ所爲ヲ行フハ、其幫助豫備ノ所爲ヲ以テ、本罪ト爲シ、之ヲ罰ス、而シテ其効力顯ハ

レ、逃走ヲ致スルハ、本罪ニ一等ヲ加テ、此ニ罰スル所ハ、従犯
 ノ變例ナリ、通常ハ、従犯ハ正犯ノ罪ニ從テ減等シテ處分ス
 事雖モ、今ハ之ヲ以テ一正犯ト爲ス、且ツ通常ハ、正犯ノ罪ヲ
 犯スヲ以テ、従犯ノ罪ヲ定ムト雖モ、此ニハ未タ正犯ノ逃走
 セサルニ、先ツ其従犯ヲ罰シ、正犯ノ逃走スルキハ、其罪ヲ加
 等ス、是レ變例中ノ變例ナルモノナリ、如此ク變例ヲ設ケタ
 ル所以ハ、立案者ノ註解ニ明ナリ、其略ニ曰ク、囚徒ニ逃走ス
 手段ヲ授クル所爲ハ、其性質ヨリ之ヲ觀レハ、他人ノ輕罪ヲ
 助クル豫備ノ所爲ニ過キス、之ヲ豫備ノ所爲トスルキハ、罰
 スルカラサルニ似タリ、然レモ法律ニ於テハ、凡ソ道德ニ背
 キ社會ニ害アルニキ性質ノ所爲ハ、犯罪トシテ、之ヲ罰スル
 事ヲ得、故ニ其結果ニ關セズ、其所爲ノミヲ考ヘ、其所爲ニ於

テ罪スヘキ惡意アリ、且ツ社會ノ危害ヲ生スヘキ事ハ、之ヲ
 別罪トシテ罰スルモ妨ナキナリ、故ニ今法律ノ之ヲ罰スルハ、
 逃走罪ノ豫備ノ所爲ノ爲メニアラス、又其従犯ノ爲メニモ
 アラス、若シ豫備従犯トセハ、其刑ハ逃走罪ヨリモ輕カルヘ
 キニ、却テ附加刑アリテ、之ヨリモ重シ、是レ之ヲ豫備従犯ト
 セスシテ、別ニ一罪ト爲シタルノ證ナリ、而シテ豫備従犯トセ
 サルハ、左ノ事由アルカ故ナリ、一ニ曰ク、概シテ囚徒ハ、他ヨ
 リ之ニ逃走ノ手段ヲ授ケサレハ、逃走スルコト能ハサル者ナ
 リ、二ニ曰ク、囚徒ノ逃走スル者ハ、自由ヲ欲シテ殆ソト堪ユ
 ヘカラサル天然ノ人情ニ由ルト雖モ、自ラ束縛セラル、所
 ナツシテ、囚徒ニ逃走ノ手段ヲ授クル者ハ、徒ニ社會ニ大害
 ヲ加フルノ意ニ出ル者ナリト、是レ之ヲ別罪ト爲シタル所

以ナリ、(一四六條)

〔第一一五一號〕 或曰ク、逃走ヲ教唆シタル者ハ如何、總則ニ從ヘハ、教唆者ハ、則チ逃走者ト同ク論セラル可キ者ナリ、然ルニ第四百十六條ニ依レハ、其性質從犯タルヘキ逃走ノ幫助者ハ、却テ教唆者ヨリ其罪重シ、又幫助者ヲ以テ正犯ト爲スニ於テハ、此正犯ニ就テモ、亦教唆者從犯アルヘシ、而シテ此教唆者ハ、從犯ノ教唆者ニ當リ、又此從犯ハ、從犯ノ從犯ニ該ルヘキ者ナリ、然ルニ幫助者ノ教唆者ハ、其正犯タル幫助者ト同ク論セラルヘキヲ以テ、逃走者ニ比シテ、其罪重シ、幫助者ノ從犯ニシテ、僅ニ逃走者ノ罪ト相匹スルニ至ル、而シテ多少ハ尚ホ逃走者ヨリ其罪重カルヘキナリ、何トナレハ附加ノ罰金アリテ、而シテ逃走ヲ致シタル片ハ、一等ヲ加ヘラルレハナリ、是レ恐ク

ハ權衡ヲ得タルコトニアラサルヘシト、
〔第一一五二號〕 余曰ク、逃走罪ノ教唆者ハ、逃走者ト同罪タルニアラス、法文ニ所謂ル逃走ノ方法ヲ指示シタル者トハ、逃走者ノ教唆者從犯ヲ總稱スルナリ、第四百十六條ハ、一變則チ示スモノニシテ、總則ニ依ルヘキモノニアラス、而シテ此變則アルハ、一ハ囚徒ニシテ、一ハ獄外ニ在ル人ナレハ、通常教唆者正犯タル場合ト異ナルヲ以テナリ、即チ第一一五〇號ニ論セシカ如ク、囚徒ハ概シテ逃走セシムコトヲ欲スル者ナリ、之ヲ教唆シ幫助スルニ於テハ、孰カ逃走セサル者アラソ、而シテ又之ヲ教唆シ幫助スルハ、只囚徒ヲシテ逃走セシムルコトヲナス、教唆者幫助者ハ、直ニ官權ヲ蔑如シ、法令ヲ紊亂スル者ナリ、是レ之ヲ以テ別ニ一正犯ト爲シテ、而シテ殊ニ其

罪ヲ重シタル所以ナリ、已ニ從犯ヲ以テ一正犯ト爲ス、豈ニ
教唆者ヲ其中ニ加ヘサルノ理アラシヤ、又如此ク別ニ之ヲ
正犯ト爲スニ決テハ、其教唆者從犯ハ、則チ又別ニ總則ニ從
ヒ、或ハ正犯ト同ク論シ、或ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シテ、處斷
スヘキナリ、

〔第一一五三號〕 重罪已決囚ヲ除クノ外、總テ已決未決ノ囚
徒ヲ劫奪シタル者、又ハ暴行脅迫ヲ以テ、囚徒ノ逃走ヲ助ケ
タル者ハ、一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ、五圓以上五十
圓以下ノ罰金ニ處ス、是レ亦逃走者ノ教唆者、若クハ從犯ニ
シテ、殊ニ其情ノ重キ者ナリ、劫奪シタル者トハ、逃走ノ意思
ナキ囚徒ヲ、暴行脅迫ヲ以テ、奪去ル事トシ、暴行脅迫ヲ以テ、
囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者トハ、逃走ノ意思アル囚徒ノ將ニ

逃走セントスル際ニ、暴行脅迫ヲ以テ、其逃走ヲ幫助スル
事トフ、而シテ其重罪已決囚ニ係ルルハ、劫奪者幫助者ヲ、輕懲
役ニ處ス、是レ其公益ヲ害スル殊ニ大ナルヲ以テナリ、(一四
七條)

〔第一一五四號〕 茲ニ一論題アリ、法文ニ所謂ル囚徒ノ逃走
ヲ助ケタルトハ、如何ナル意ナルヤ、例ヘハ外役先キニ於テ、
甲囚逃走セントスルニ際シ、乙者看守人ヲ毆打シ、甲囚ヲ助
ケテ逃走セシムト雖モ、甲囚ハ即時其現場ニ於テ、他ノ爲メ
ニ逮捕セラレシメ、乙者ハ、甲囚ヲ幫助シ、看守人ヲ毆打セシ
メ以テ、囚徒ノ逃走ヲ助ケタル已遂犯罪ヲ以テ論スヘキ者
ナルヤ、未遂犯罪ヲ以テ論スヘキ者ナルヤノ問題はレナリ、一
説ニ曰ク、法文ニ逃走ヲ助ケタル者トアリテ、助ケテ逃走セ

シメタル者トハアラス、此法文ニ據テ考フルニ、囚徒ノ逃走セシト否トニ拘ハラズ、逃走ヲ幫助スルノ所爲ノミヲ以テ、罪トスルモノナリ、故ニ幫助ノ結果ヲ生スルト生セサルトニ論ナリ、逃走ノ方法原由アルニ於テハ、即チ已遂犯罪トスヘキナリ、且ツ第四百四十六條ニ參照スルモ、亦如此クナルヘキヲ知ルナリ、即チ第四百四十六條ハ、暴行脅迫ヲ爲サスシテ、逃走者ヲ幫助スルモノニシテ、而シテ、第四百四十七條ハ、暴行脅迫ヲ以テ、之ヲ幫助スルモノナリ、此二箇條ノ別ハ、暴行脅迫ノ有無ニ在ルノミ、其幫助ノ所爲ヲ罰スルニ至テハ、二條共ニ異ナル所ナシト、

〔第一一五五號〕 余思フニ然ラサルヘシ、逃走ノ結果ヲ生セサレハ、已遂犯罪トイフコトヲ得サルヘシ、囚徒ヲ劫奪スルモ、

其逃走ヲ助ケルモ、其事タル一ナリ、劫奪ト幫助トノ別ハ、逃走者ニ、逃走ノ意思アルト否トニ在ルノミ、劫奪ノ場合ニ於テハ、囚徒ヲ奪去ラサレハ、既遂犯罪トイフコトヲ得ス、此意ヲ推シテ考フレハ、即チ助ケタルキモ、亦囚徒ヲ逃走セシムルニアラサレハ、已遂犯罪トイフヘカラサルコトヲ知ルナリ、又佛文原稿ニ據テ考フルモ、第四百四十六條ト第四百四十七條トハ、異ナル所アリ、第四百四十六條(原稿第四百七十六條)ニハ、
 示スルノ所爲ノミヲ以テ、罪ト爲シ、囚徒ノ逃走スルトセサルトニハ、關セスト雖モ、第四百四十七條(原稿第四百七十七條)ニハ、只此所爲ノミヲ以テノ語ヲキカ故ニ、囚徒ノ逃走スルヲ

待テ、罪トズルノ意ナルヲ明ナリ、又今ハ第四百四十六條ニ、此語ナシト雖モ、其第二段ニ逃走ヲ致シタルキハ、加等ストアレハ、其第一段ハ、則チ給與指示ノ所爲ノミヲ以テ、罰スルノ意ナルヲ亦明ナリ、然ルニ第四百四十七條ニハ、此區別ナシ、此區別ナキヲ以テ、第四百四十七條ニ於テハ、逃走ノ結果ヲ生スルニアラサレハ、罪トスヘカラサルヲ知ルナリ、

〔第一一五六號〕 又第四百四十六條ト第四百四十七條トノ罪ハ、獄外ノ人ノ犯スノミニアラス、囚徒ニシテ亦犯スヲアルヘシ、例ヘハ甲囚カ乙囚ニ、器具ヲ給與シ、方法ヲ指示スルヲアルヘク、又甲囚カ暴行脅迫ヲ以テ、乙囚ノ逃走ヲ助シルヲアルヘク、又甲囚カ逃走スルニ際シテ、乙囚ヲ劫奪シテ去ルヲアルヘシ、如此キ場合ニ於テ、甲囚ハ第四百四十六條第四百四

十七條ノ區別ニ從テ、處斷セラレヘキナリ、但シ甲囚逃走ノ際ニ於テ、乙囚ヲ劫奪スルキハ、自己逃走ノ罪ト、乙囚劫奪ノ罪ト、數罪俱發スルヲ以テ、其重キニ從ヒ處斷ス、或曰ク、劫奪セラレシ乙囚ハ如何、逃走ノ罪ヲ以テ論セラレヘキヤ、曰ク、乙囚ノ意思如何ヲ考ヘテ處分スヘシ、乙囚ニ逃走ノ意思アルキハ、逃走ノ罪ヲ問フヘシ、例ヘハ乙囚ト劫奪者ト通謀セシ場合ノ如キ是レナリ、若シ乙囚ニ逃走ノ意思ナキニ於テハ、罪ノ問フヘキナシ、乙囚ノ獄外ニ在テ歸來ラサルハ、劫奪ノ結果ナリ、又逃走罪ハ、即時犯罪ニシテ、而シテ獄外ニ出ツレハ、即チ成ルモノナリ、其獄外ニ出テシハ、乙囚ノ意思ニアラス、又其所爲ニアラサルナリ、其意思ナク、其所爲ナキニ於テハ、罪ト爲ルヲナシ、若シ之ヲ繼續犯罪ト爲シ、獄外ニ在テ

歸來ヲサルヲ以テ、罪トセハ、乙囚ヲ罰スヘシト雖モ、法律ハ逃走ヲ罪トスルノミニシテ、其歸來ヲサルノ所爲ハ、之ヲ罪トセサルナリ、

〔第一一五七號〕又重罪囚ニ係ルヲ以テ、加等シテ輕懲役ニ處スル場合ニ於テハ、劫奪者幫助者ハ、其重罪囚タルヲ知テ、而シテ劫奪シ幫助セサルヘカラス、然ラサレハ加等シテ輕懲役ニ處スルヲ得ス、是レ總則第七十七條ノ適用ニシテ、罪本ト重シト雖モ、犯スル之ヲ知ラサルヲ以テナリ、又加等ノ情狀ヲ知ルヲ要スルハ、此場合ノミニアラス、第一百五十條第二項ノ場合ニ於テモ、同様ナリ、看守者護送者、其囚徒ノ重罪已決囚ナルヲ知ラサルハ、亦此第二項ニ從ヒ加等スヘキニアラス、此罪ハ一無爲犯罪タルヲ以テ、其結果ノミ

ニ就テ處分シ、而シテ其理由ノ知不知ヲ別タサルモノ、如クト雖モ、決シテ然ルニアラス、看守者護送者ハ、未決囚輕罪囚ニ係ルト雖モ、其深ク注意スヘキハ論ヲ待ス、然レモ其重罪囚ニ係ルハ、最モ深ク注意セサルヘカラス、其最モ深ク注意スヘキニ注意ノ深カラサルヲ以テ、法律ハ之ヲ加等シテ罰スルナリ、故ニ注意ノ最モ深カルヘキヲ責メシニハ、之ニ其重罪囚タルヲ知ラシメサルヘカラス、之ヲ知ラシメサルヲ以テ、看守者護送者ハ、其重罪囚タルヲ知ラシメテ、終ニ深ク注意ヲ致サズ、爲メニ其逃走ヲ覺ラサルニ至ルナリ、如何シ其實ヲ知ラサル者ヲ責ムルニ、一層ノ注意ヲ加ヘサルヲ以テスルヲ得ンヤ、

〔第一一五八號〕以上論セシ所ハ、常人ニ係ルモノナリ、看守

者護送者ニシテ、囚徒ヲ逃走セシメタルハ、第四百十七條ノ例ニ照シテ處分ス、所謂ル囚徒ヲ逃セシムルトハ、囚徒ニ通謀シ、若クハ故意ヲ以テ逃走セシムル場合チイフ、而シテ其場合ハ、第四百十八條ニ規定スル所ナリ、此第四百十八條ハ、草案第百八十條ニ基クモノナレド、其法文簡短ニシテ、而シテ草案ト異ナリ、又草案ハ佛文原稿ト異ナルヲ以テ、明瞭ナラサルモノアリ、第一、第四百十六條ニハ、器具ヲ給與シ、方法ヲ指示シタルニ止マル場合ト、逃走ヲ致シタル場合トヲ區別セリ、而シテ第四百十八條ニハ、單ニ逃走セシメタルトアルノミ、此ニ逃走セシメタルトアルハ、即チ逃走ヲ致シタル場合チイフナルヘシ、果シテ然ラハ、未ダ逃走ヲ致サスシテ、給與指示ニ止マルハ如何、第四百十八條ノ未遂犯罪トシテ罰

スヘキヤ、將タ此個條ハ、身分ニ因ル加等ニシテ、其加等ハ、逃走ノ結果ヲ生シタルハ、限リ適用スルモノナルヤ、第二、逃走セシムルトハ、囚徒ノ意ニ任セテ逃走サスルチイフヤ、即チ囚徒ノ逃走スルヲ知リ、故意ニ之ヲ防止セズシテ逃走セシムルチイフヤ、教唆シ幫助スルニアラス、又懈怠ニ由リ覺知セサルニモアラサル場合ハ如何、

【第一一五九號】 此疑義ハ、二個ニ別カルレド、相關連スルモノニシテ、其一ヲ決スレハ、他ノ一ハ、自ラ決スヘシ、一説ニ曰ク、逃走セシメタルトハ、囚徒ノ逃走スルニ任セテ、之ヲ防制セサルチイフ、或ハ、二義アリ、使令シテせむるアリ、放任シテせむるアリ、第百五條ノ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者トイフカ如キハ、使令シテ犯サシムルモノニシ

テ、第四百四十八條ノ逃走セシメタルトイフカ如キハ、放任
 シテ逃走セシメタルモノナリ、而シテ如此ク放任シテ囚徒ノ
 逃走スルヲ防止セサルノ意ハ、原稿第百八十條ニ依テ明ナ
 リ、原稿ニハ、看守者護送者、囚徒トこんにわんすニテアリシ
 キハ、其刑ヲ左ノ如ク定ムトアリテ、而シテ拘留ノ囚徒、輕罪又
 ハ未決ノ囚徒、重罪ノ有期又ハ無期ノ囚徒ニ就キ、看守者護
 送者ノ刑ニ輕重ノ別ヲ爲セリ、此こんにわんすノ語ニ依レ
 ハ、無爲犯罪ナリ、こんにわんすハ、其事ヲ知テ之ヲ秘隠スル
 トニテ、俗言ノ觀のがまニスルトナリ、佛語ノ字書ニ、こんに
 わんすハ、防止スヘク、又ハ防止スルヲ得ル所ノ惡事ヲ寛容
 シテ秘隠スルトナリトアリ、然レモ今ノ法文ニハ、こんにわ
 んすノ意ヲ示ス語アルニアラス、又草案ノ如ク、通謀故意ノ

文字アルニモアラス、其法意ノ在ル所ヲ知ルヘカラサルカ
 如クナレモ、草案ノ通謀故意ハ、即チ原稿ノこんにわんすヲ
 譯セシモノナルヘク、又今之ヲ刪除セラレシモ、別ニ其主意
 アルニハアラサルヘシ、原稿草案ト同一ノ趣旨ニ出テ、只
 其語ヲ刪除セラレシモノナリ、是レ法文中多ク見ル所ナリ、
 故ニ原稿ノ意ニ從ヒ、無爲犯罪ト看做シテ可ナリ、已ニ無爲
 犯罪ト看做スルハ、其未遂犯罪ハ、罰スヘカラス、但シ無爲犯
 罪ヲ罰スル以上ハ、其有爲犯罪ニ係ルキ之ヲ罰スルハ、論ヲ
 待タサルナリ、其輕キモノヲ罰スルノ明文アレハ、其重キモ
 ノハ、明文ヲ待タスシテ罰スヘシ、
 [第一一六〇號] 余思フニ、此說ハ、原稿ノ意ハ、概畧說キ得テ
 明瞭ナリ、但其輕キヲ擧ク重キヲ示ストイヘルハ、其場合ニ

由リテハ、此意ヲ以テモ解スヘケレド、原稿ニ依ルモ、本論ノ
 場合ニ、之ヲ擧ケテ説キ爲スハ、非ナリ、其非ナル所以ハ、後ニ
 之ヲ論ゼン、今ヤ本論ニ就テ説明ゼンニ、前ニモ一言セシ如
 シ、第四百四十八條ハ、通謀故意ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタル
 者チイフ、然ルニ草案ニ通謀故意ノ文字アリシヲ、故ラニ刪
 除セラレシハ、第四百四十七條ノ場合ヲモ包含セシムルカ爲メ、
 ナルヘシ、故ニ看守者護送者、囚徒ヲ逃走セシムル爲メ、暴行
 脅迫ヲ爲シタルキハ、第四百四十八條ノ未遂犯罪トシテ論スヘ
 シ、難者曰ク、之ヲ未遂犯罪トセハ、第四百四十七條ニ比シテ、刑ノ
 權衡ヲ得サルナリ、第四百四十七條ノ暴行脅迫ヲ以テ、逃走ヲ
 助ケタル常人ト看守者ト、區別ナケレハナリ、看守者ハ官守
 アル者ナレハ、其罪重カラサルヘカラス、法律ニ於テ第四百四

十八條ヲ設ケタルモ、全ク其身分ニ依リ、其刑ヲ加重ゼンカ
 爲メナラスヤト、余曰ク、然リ、然レモ逃走ヲ助ケタルトアル
 ハ、逃走ノ結果ヲ生セシキチイフノ主意タルコトハ、已ニ第一
 一五五號ニ論セシカ如シ、尙ホ原稿第七十七條ニ依リテ
 モ、逃走セシキチイフコトハ明ナリ、但シ今ノ第四百四十七條ノ
 法文ハ穩當ナラサルニ似タリ、思フニ法文ハ、助ケテ逃走セ
 シメタル者ノ意ニ解スヘシ、助ケタルハ、原文ニハオトナリト
 レルコトアリ、取去ルコトチイフ、即チ囚徒ヲ奪去リシコトナリ、
 故ニ第四百四十七條ノ已遂犯罪ハ、助ケテ逃走セシメタルモノ
 ニシテ、而シテ第四百四十八條ノ未遂犯罪ハ、即チ是レ逃走ヲ助
 ケタルモノナリ、如此クナレハ、第四百四十七條ニ比シテ權衡
 ヲ失スルコトナカルヘシ、

第一一六一號 難者又曰ク、如此クナレハ刑ノ權衡ヲ失シタルニハアラサルヘケレト、故ラニ立案者カ第四百四十八條ヲ設ケタル主意ハ、全ク之ヲ失ヒシモノナリ、何トナレハ暴行脅迫ヲ以テ、囚徒ヲ逃走セシメタル場合ニ於テ、常人ト看守者ト異ナルヲナケレハナリ、常人モ暴行脅迫ヲ行ヒ幫助セシノミニ止マレハ、第四百四十七條ノ未遂犯罪ニシテ、看守者モ暴行脅迫ニ止マレハ、亦同條ノ未遂犯罪タルニ過キサルナリ、立案者ノ故ラニ第四百四十八條ヲ設ケラレシハ、懈怠ニ依リ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサルモノヨリ一層重キモノ、即チ逃走スルヲ覺知シテ、而シテ從容セシモノヲ罰スルカ爲メナリト、余曰ク、然リ、立案者ノ最初之ヲ設ケラレシハ、覺知シテ防制セス、從容シテ逃走セシメタルヲ罰スルカ爲メニシ

テ、看守者ノ暴行脅迫ヲ行ヒ、又ハ獄舎ヲ毀壞シテ逃走セシメタル者ヲ罰スルガ爲メニハ、別ニ其條ヲ設ケラレタリ、草案第四百八十一條ニテ更ニ一等ヲ加ヘテ處斷ス、草案ハ、最も精密ニシテ、刑ノ權衡モ亦皆其當ヲ得テ、舊律ノ故縱シタルモノト同様ナリ、然レトモ今ノ法文ニテハ、草案ノ如ク解スルヲ得ス、草案第四百八十條ハ、逃走スルヲ知テ防止セサルモノナレハ、惡意アリト雖モ、我ヨリ事ヲ爲スニアラサレハ、無爲犯罪ナリ、第四百四十六條第四百四十七條ハ、我ヨリ進ミテ事ヲ起スモノニシテ、有爲犯罪ナリ、然ルチ草案ノ如ク、第四百四十八條ヲ無爲犯罪ナリトスルキハ、看守者カ第四百四十八條ノ罪ヲ犯シタル場合、就中其未遂犯罪ノ場合ニ於テハ、如何スヘキ、無爲犯罪ニハ、未遂犯罪ノアルヘキ理ナケレハ、終ニ其未

遂犯罪ハ、之ヲ罰スルヲ得サルナリ、是レ權衡ヲ失スルノ大ナルモノニアラスヤ、或ハ輕キヲ擧ケテ重キヲ示スモノナレハ、其輕キ無爲犯罪ヲ罰スルノ法文アレハ、其重キ有爲犯罪ヲ罰スルハ、勿論ナリト論スル者アレハ、是レ同性質ノ罪、即チ有爲犯罪ト有爲犯罪、又ハ無爲犯罪ト無爲犯罪トノ如キ場合ニ在ルコトニシテ、性質ノ異ナル犯罪ヲ混淆シテ論スヘキニアラス、若シ此區別ヲ爲サスシテ、妄ニ其重キヲ罰セハ、第二條正條ニ據ルノ主意ハ、全ク水泡ニ屬スヘキナリ、但常人ト看守者ト其刑ヲ同クスルハ、是レ今日ノ法律上ニテハ、已ムヲ得サル所ナリ、

〔第一一六二號〕 余ハ、第四百四十八條ヲ有爲犯罪ナリトスルカ故ニ、暴行脅迫ヲ行ヒ、其他器具ヲ給與スル等ノ場合ニ於

テ、其未遂犯罪ヲ罰スルハ勿論ナリ、然レモ器具ヲ給與シ、方法ヲ指示シタルノミノ所爲ニテハ、第四百四十八條ノ未遂犯罪トイフヲ得ス、此所爲ハ、逃走ノ豫備ノ所爲ニシテ、犯罪着手ニアラサレハナリ、囚徒カ、其器具ヲ用ヒ、其方法ヲ行フテ、然ル後ニ初メテ看守者ヲ罰スルニ、未遂犯罪ノ例ヲ以テスヘシ、然レモ器具ヲ給與シ方法ヲ指示シタル場合ニ於テ、全ク其罪ナキニアラス、第四百四十六條ニ從ヒ常人ト同ク論スヘシ、故ニ難者ノ言ノ如ク、故テニ第四百八十條ヲ設ケシモ、其益ナキカ如シ、第四百四十六條第四百四十七條ノ場合ニ於テハ、常人ト看守者ト更ニ異ナル所ナケレハナリ、立案者カ、第四百四十八條即チ原稿第四百八十條ヲ設ケラレシハ、尋常ノ未遂犯罪、從犯、教唆者等ノ例ハ、看守者ニハ、之ヲ適用セサルカ爲

メナリ、看守者ハ、逃走者ト通謀スルト否トニ關セズ、其情ヲ知テ覺擧セズ、其防止スベキヲ防止セサルニ由リ、看守者タリ護送者タル職掌ニ背クトイフヲ以テ、之ヲ罰セシナリ、但シ今モ尋常ノ教唆者トハ異ナリ、又第四百四十六條第四百四十七條トモ異ナル所アリ、看守者ハ、逃走者ト同ク論スルニアラス、故ニ正犯タル逃走者ト教唆者タル看守者トハ、其刑ヲ異ニス、又常人ハ、給與指示暴行脅迫ナキモ、第四百四十六條第四百四十七條ニ依リ罰セラル、コナキモ、看守者ハ囚徒ヲ逃走セシムルニ於テハ、常ニ第四百四十七條ノ例ニ照シテ、處斷セラル、是レ其異ナル所以ナリ、

〔第一一六三號〕 或曰ク、原稿ノこんにわんすノ場合ハ如何、原稿ハ之ヲ罰スルヲ主意トセシニ、今ハ全ク之ヲ罰セサル。

ヘキヤ、余曰ク、之ヲ罰セサルコアラスト雖モ、原稿トハ大ニ異ナリ、此囚徒ノ逃走ヲ縱容セシ場合ハ、第五百十條ニ依リ之ヲ罰スヘシ、而シテ此時ニ當リテハ、所謂ル輕キヲ擧ケ重キヲ示スノ解釋法ヲ適用スヘシ、解怠ニ因リ逃走ヲ覺知セサルモ、尙ホ之ヲ罰ス、况ンヤ之ヲ覺知シテ、故意防止セサルコ於テナヤ、是レ共ニ無爲犯罪ニ係レハ、右ノ解釋法ニ依テ解釋シテ妨ナキナリ、以上論セシ所ヲ要スルニ左ノ如シ、

第一 常人ト看守者護送者トヲ別タス、器具ヲ給與シ方法ヲ指示シタル者ハ、第四百四十六條第一項ニ依リ處斷シ、看守者護送者ニハ、未遂犯罪ノ例ヲ用ヒス、又共犯ノ例ヲ用フルコトナシ、

第二 常人ト看守者護送者トヲ別タス、暴行脅迫ヲ以テ、逃

走セシメタル者ハ、第一百四十七條ニ依テ處斷シ、共犯ノ例ヲ用ヒス、

第三ニ看守者護送者、囚徒ニ通謀シ、若シハ故意ヲ以テ逃走セシメタル者ハ、第一百四十七條ノ例ニ照シテ處斷シ、未遂犯罪ノ例ヲ用ヒス、又共犯ノ例ヲ用フルコトナシ、但シ何レノ場合ニ於テモ、共犯ノ例ヲ用ヒストハ、逃走者ノ從犯ト爲シ、教唆者ト爲サ、ルチイフ、給與者、指示者、劫奪者、暴行者、及ヒ看守者ニ共犯ナシトイフニアラス、尙ホ看守者ニ就キ一言ス、身分ニ係ル罪ナレハ、常人ニテハ、看守者ノ共犯ト爲ルコトナシ、然レモ其場合ニ由リ、第三百二十九條第二項ニ依リ、其罪ヲ問フハ格別ナリ、

〔第一一六四號〕囚徒逃走ノ罪、並ニ之ニ關スル罪ニ就テハ、其公益ニ關スル少ナラサルヲ以テ、輕罪ニ係ルモノト雖モ、尙ホ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處分ス、但シ其輕罪中ニ於テ、第四百四十五條加等ノ場合ニ於テ、通謀ノミノモノハ罰セズ、何トナレハ通謀ハ、即チ豫謀ニシテ、別ニ之ヲ罰スルノ明文ナキヲ以テナリ、又第四百四十六條ニ於テ、看守者護送者ニハ、未遂犯罪ノ例ヲ適用セズ、但シ此ニ注意スヘキコトアリ、第四百四十六條ハ、常人ヲ罰スル規則ニシテ、看守者ヲ罰スル規則ニアラス、看守者ニハ別ニ第四百四十八條ノ規則アリ、而シテ給與指示ハ、豫備ノ所爲ニシテ、第四百四十八條ノ未遂犯罪トハ、爲テサルモノナリ、故ニ看守人タルモ、給與指示ヲ罰スルニハ、之ヲ常人トシテ罰セサルヘカラス、常人トシテ罰スルニハ、給與セシトシテ、器具ヲ提供シ、又ハ指示セシトシテ、其方

法ヲ陳述スル所ニテ、發覺セバ、之ヲ其未遂犯罪ナリトシテ、處分スルキナリ、然レモ第四百十八條ノ場合ニ於テモ、逃走者ノ逃走セントシテ、其逃走ヲ遂ケサル前ニ發覺セバ、看守者ハ未遂犯人トシテ罰スルコトヲ得ス、此條ノ罪ハ、結果ニ依テ成立スルモノニシテ、而シテ其罪ト爲ル所以ハ、看守者ノ職掌ニ背クニ在リテ、其實ハ無爲犯罪タレハナリ、又此囚徒逃走ノ罪ハ、囚徒タル身分ニ依ルモノナレハ、其共犯ト爲ルベカラサルカ故ニ、看守者ハ、全ク罰セラル、コトナシ、是レ恐クハ關典ナルヘシ、原稿ノ意ハ、前ニ示シタルカ如ク、囚徒ト云んにわんすニテアリシキ、即チ其情ヲ知テ故意ニ秘隠シタルトアルノミニテ、逃走セシメタルトハアラサルカ故ニ、原稿ニテハ、逃走ノ成否ニ拘ハラズ、其事ヲ知テ發覺セサレ

ハ、常ニ已遂犯罪トシテ、罰セラル、是レ原稿ト大ニ異ナル所ナリ、

〔第一一六五號〕 尙ホ法理ニ依リ、未遂犯罪ヲ論スルニ、逃走ノミニ未遂犯罪ヲ罰スルハ、甚ク酷ナリ、又實際ニ於テ、未遂犯罪タル事實ヲ認定スルコトモ容易ナラサルナリ、草案ニテハ、獄具獄舎ヲ毀壞シテ逃走シタルヨリ以上ノ者ヲ罰セシカ故ニ、已ニ獄具獄舎ヲ毀壞セントスルニ於テハ、未遂犯罪タル證據顯然ニシテ、之ヲ罰スルハ相當ナルヘケレモ、單ニ逃走ノミニ罰スル處ニテ、其未遂犯罪ヲモ罰スルキハ、外ニ向フテ疾走スル者ハ、皆逃走ノ未遂犯罪タルカ如クニシテ、其果シテ逃走ノ意ニ出テシヤ否ヤ、容易ニ知ルコトヲ得ス、又假令ヒ逃走ノ意ニ出テシコト分明ナルモ、未タ社會上ノ公害

アリトスルニハ、足ラサルヘキナリ、况シヤ自由ヲ得ントスルハ、人ノ常情ニシテ、而シテ逃走ヲ致スハ、多少官ノ看守ニ虚隙ノ乗スヘキアルニ於テチヤ、

〔第一一六六號〕 虎兇出於押、龜玉毀於楨中、典守者不得辭其過、看守者護送者、最モ意ヲ致シ慎ヲ加ヘサルヘカラス、然ルニ其懈怠ニ因リ、囚徒ノ逃走スルヲ覺知セスシテ可ナラシヤ、是レ第五百十條ニ於テ、看守者護送者ノ懈怠ヲ罰スル所以ナリ、而シテ法律ハ囚徒ニ由テ、典守者ノ刑ニ輕重ノ別ヲ爲セリ、即チ違警罪輕罪ノ已決未決ノ囚徒、並ニ重罪未決囚ニ係ルキハ、懈怠ヲ責ムルニ、二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ以テシ、重罪已決囚ニ係ルキハ、三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ以テス、此懈怠ノ罪ハ、所謂ル無意犯罪ナリ、故ニ其事實アレ

ハ、即チ罪アリ、檢察官ハ、其事實アリシコトヲ證明スレハ、意思ノ有無ハ證明スルニ及ハス、逃走アレハ即チ懈怠ナリトイフヲ得、故ニ被告人ニ於テ懈怠ナキノ證據ヲ舉ケサレハ、其罪ヲ免ル能ハサルナリ、
〔第一一六七號〕 此罪ハ、無意犯罪ナリト雖モ、其罪ヲ構成スルニハ、二個ノ條件ヲ要スルヤ、將タ一個ノ條件ニテ足ルヘキヤ、分明ナラサルニ似タリ、法文ニ曰ク、其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺テサル者ト、懈怠ト覺知セサル事トノ二條件ヲ具備シテ、始メテ罪トナルヘキヤ、又ハ覺知セサルハ即チ其懈怠ニ由ルコトニシテ、覺知セサルノ一事アレハ、其罪成立スルヤ、例ヘハ囚徒ヲ縛スルコト緊嚴チラス、又ハ獄戸ヲ鎖スルコト緩慢ニシテ、因テ囚徒ノ逃走ヲ致シ、而シテ尙ホ飲酒若クハ

睡眠シテ逃走ヲ覺知セサル如キ場合ハ、是レ逃走モ懈怠ニ
 原由シ、覺知セサルモ亦懈怠ニ原由シテ、二事共ニ皆懈怠ナ
 リ、又囚ヲ縛シ戸ヲ鎖スルコト緊嚴ニシテ緩慢ナラス、更ニ懈
 怠ナルコトナシト雖モ、偶々逃走スルヲ覺知セスシテ、睡眠セ
 シ場合ノ如キハ、覺知セサルノ一事ノミ懈怠ナリ、今案スル
 ニ、佛文原稿第七十八條ニハ、懈怠ニ因リ逃走ヲ致シタル
 トアリテ、覺ラサルノ語ナシ、故ニ原稿ニテハ、逃走ノ原由懈
 怠ニ在ルルハ、則チ看守者其罪ヲ免ル、コトヲ得ス、假令ヒ知
 テ捕獲スルモ、懈怠ニ由リ一回逃走ヲ致セハ、其罪成立ス、典
 守者ノ逃走ヲ知ルト知ラサルトニ、關係セサリシナリ、然ル
 ニ今ノ法文ニハ、覺ラサルトアルヲ以テ、其懈怠ノ逃走ニ在
 ルヤ、將タ覺知セサルニ在ルヤヲ疑フニ至リシナリ、而シテ今

ノ法文ハ、舊律主守不覺失囚ノ條ニ、凡主守罪囚ノ逃走スル
 ナ覺ラサル者ハ、笞四十トアルニ據リ、原稿ヲ改メシモノナ
 ナルヘシ、此舊律ニ據リシモノナレハ、懈怠ハ即チ覺ラサル
 ノ原由ニシテ、逃走ハ懈怠ニ原由スルト否トヲ問ハサルヘ
 シ、故ニ逃走ト覺知セサル事ト、共ニ懈怠ニ出ツレハ、之ヲ罰
 スルハ言ヲ待タス、假令ヒ懈怠ニ原由シテ逃走セサルモ、逃
 走スル事ヲ覺ラサレハ、守主其責ヲ辭スルコトヲ得ストス、原
 稿トハ其主意正ニ相反セリ、
 〔第一一六八號〕 守主ノ罪ノ成否ハ、逃走ヲ覺ルト覺ラサ
 ルトニ在リ、故ニ懈怠ニ因テ逃走ヲ致スト雖モ、守主之ヲ覺
 リテ防制シタルルキハ、終ニ囚徒ヲ失フモ、守主其罪ヲ免ル、
 コトヲ得、法文ニ、懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時トアル

ハ、囚徒ノ逃走ヲ懈怠ニ因リ覺ラサル時ト讀ムヘク、懈怠ニ因リノ語ハ、覺ラサルニ係ルモノニシテ、逃走ノ字ニ係ルコトアラズ、逃走ト名詞ニ用ヒシキト、逃走スルト動詞ニ用ヒシキト、差別セサルヘカラス、然ルニ實際處分スル所ハ、之ニ反シ原稿ノ如ク、懈怠ニ因リ逃走ヲ致セハ、假令ヒ直チニ覺知シテ、之ヲ追跡捕獲セントシ、力及ハスシテ終ニ捕獲スルヲ得サリシキト雖モ之ヲ罰スト聞ケリ、果シテ如此クナルヤ否ヤナ詳ニセスト雖モ、之ヲ罰スルニ於テハ、法律ニ反スルノ處分ナリトイハサルヲ得ズ、舊律ノ時ニ逃走ヲ覺ラサル者ハ、笞二十ニシテ、覺リテ捕獲スル者ハ、減等セリ、如此ク別アル舊律ニ據リ、逃走ヲ覺ラサル者ヲ罰スルノ法文ヲ設ケ、而シテ覺ルト覺ラサルトナ別タス罰スルハ、實ニ失當ノナ

リ、又實際ノ處分ハ、他ニモ法文ニ違フ所アリ、即チ捕獲スルヲ得サリシキハ、之ヲ罰ストイフヲ以テ觀レハ、終ニ捕獲スルヲ得タルキハ、罰セサルナルヘシ、法文ハ覺ラストアルノミナレハ、逃走ヲ覺ラサレハ、後ニ至リ逃走ヲ知テ終ニ捕獲スルモ、其罪ハ免レサルナリ、但シ今ノ法文ニ依ルニ、懈怠ノ原由ト、逃走ヲ覺ラサルノ結果ト、備ハリシキニアラサレハ罪ト爲ラス、故ニ懈怠ナルコトアルモ、逃走ヲ覺ルガ、又ハ逃走ヲ覺ラサルコトアルモ、懈怠ナラサルニ於テハ、罰スヘカラスルナリ、

〔第一一六九號〕 以上論セシ所ハ、囚徒逃走ノ罪ニ係ル規則ナリ、今ヤ罪人ヲ藏匿スル罪ニ係ルモノヲ論スヘシ、昔日ハ何レノ國ニテモ、人ノ罪ヲ犯スヲ知テ、告ケサレハ、之ヲ罰セ

シナリ、近ク徳川氏ノ時ニモ告ケサレハ之ヲ罰シ、又之ヲ告
 シレハ、之ヲ賞スルノ例ナリキ(科條類典定書ニ見ユ)加之維
 新以後モ、或ハ之ヲ賞シ或ハ之ヲ罰スルノ例アリ、然レモ治
 罪法頒布ニ及ヒ、告訴告發ハ人民ノ權利ト爲シテ、其義務ト
 爲サス、且ツ告訴告發ヲ爲シテ後、其願下ヲ爲スヲモ許ル
 セリ、又治罪法中ニモ、第九十六條第百六條第二項ノ場合ノ
 如キハ、告訴告發スルヲ以テ義務ナリトスレモ、其義務ヲ盡
 シサ、ルモ、刑法上ノ責罰アルニアラス、

〔第一一七〇號〕 今法律ニ於テ藏匿隱避ノ罪ヲ問フハ、官ノ
 捜査ヲ妨害スルヲ以テナリ、告訴告發ハ、捜査ノ原由ナリ、司
 法警察官ハ、告訴告發其他ノ原由ニ因リ、犯罪アルヲ思料
 認知シテ、捜査ヲ爲ス、此捜査ヲ妨害スレハ、是レ即チ官權ヲ

蔑如シ、社會ノ公益ヲ妨害スル者ナルヲ以テ、之ヲ罰ス、然リ
 ト雖モ、告訴告發ヲ爲サ、ルハ、或ハ捜査ニ便利ヲ與ヘスト
 ハイフヘキモ、決シテ公益ヲ妨害スルモノトハイフヘカラス、
 是レ告訴告發ヲ爲サ、ル者ヲ罰セサル所以ナリ、法文ニ
 曰ク、犯罪人又ハ逃走ノ囚徒、及ヒ監視ニ付セラレタル者ナ
 ルヲ知テ、之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ト、藏匿シ隱
 避セシムルハ、皆捜査ヲ妨害スルノ所爲ナリ、只告訴告發ヲ
 爲サ、ルノ謂ニアラス、(二五一條)

〔第一一七一號〕 法文ニ犯罪人トアリ、所謂ル犯罪人トハ、如
 何ナル者ヲ指スヤ、世論未ダ一定セサルニ似タリ、甲説ニ曰
 シ、凡ソ人ノ有罪タルヤ否ヤハ、裁判確定ノ後ニアラサレハ
 知ルヘカラス、又豫メ有罪視スルハ、治罪法ノ主義ニモ反ス

ルヲナリ、且ツ法文ニ犯罪人トアリ、又囚徒トアリ、又重罪ノ刑ニ處セラレタル者トアリ、此區別ニ注意シテ解釋スヘシ、故ニ重罪已決囚ハ、即チ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ、違警罪已決ノ囚徒、輕罪禁錮以上ノ已決未決ノ囚徒、及ヒ重罪未決ノ囚徒ハ、即チ所謂ル囚徒ニシテ、而シテ罰金科料ノ言渡ヲ受ケタル者、及ヒ總テ關席裁判ヲ受ケテ拘禁セラレサル者ハ、皆所謂ル犯罪人ナリ、未決勾留ヲ受ケス、又裁判言渡ヲ受ケサル者ナレハ、實際ニ於テモ、其犯罪人タルヤ否ヤヲ認知スルヲ得ス、况ンヤ法律上無罪人視スヘキ者タルニ於テナヤ、如何ソ如此キ人ヲ目シテ、犯罪人ナリトイフヲ得ンヤ、

〔第一一七二號〕 乙說ニ曰ク、犯罪人トハ、告訴告發ヲ受ケタ

ル者、及ヒ司法警察官ノ自ラ犯罪人タルヲ認知セシ者ヲイフ、第五百五十一條ハ、犯罪後ノ幫助者ヲ罰センカ爲メニ設ケタルモノナリ、此幫助者ハ、社會ノ公害ヲ爲ス者ナリ、然レニ其事未ダ官ニ發覺セサル者ナレハ、官ノ搜查スル所ニアラス、官ノ搜查スル所ニアラサレハ、之ヲ藏匿シ隱避セシムルモ、社會ノ公害タルニアラス、社會ノ公害ヲラサルモノハ、法律ノ罰スル所ニアラサルナリ、且ツ草案ニ據ルモ、舊律ニ從フモ、犯罪人ハ其事ノ官ニ發覺シタル者ヲイフ、舊律藏匿罪人ノ條ニ曰ク、凡他人罪ヲ犯シ、事發シテ、官司、人ヲ差ハシ、追喚スルヲ知り、家ニ藏匿シテ捕告ヲ行ハス、及ヒ逃走スル道路ヲ指引シ、衣糧ヲ資給シテ、送テ他所ニ隱避セシムル者ハ、各罪人ノ罪ニ一等ヲ減ス云々ト、又草案第百八十五條ニ

曰ク、已決未決ノ囚徒、又ハ監視ニ付セラレタル者、及ヒ發覺シタル犯人ノ逃走ヲ知テ、故ラニ之ヲ藏匿若クハ隱避セシメタル者云々ト、此二條ニ依レハ、何レニ從フモ、皆發覺シタル犯罪人ナイフナリ、今法文ニ發覺シタルノ語ナシト雖モ、其精神ハ即チ發覺シタル犯罪人ナイフナリ、
 (第一一七三號) 丙說ニ曰ク、甲說ノ如ク、裁判確定シタル人ノミチ犯罪人トイハ、奇怪ノ結果ヲ生スヘシ、例ヘハ一人アリ、他ヲ殺傷センニ、其者、未タ確定裁判ヲ受ケサルヲ以テ、隨意自由ニ、之ヲ藏匿シ隱避セシムルヲ得ルニ至ルヘシ、豈ニ如此キ理アラソヤ、而シテ刑法中未タ嘗テ犯罪人ト稱スル者ハ、確定裁判ヲ受ケタル者ニ限ルトイヘル明文アルヲ見ス、凡ソ法律ニ於テ罰スヘキ罪ヲ犯シタル者ハ、皆犯罪人ト

辻

稱スヘシ、治罪法ニ於テ、裁判確定セサル前ハ、無罪人視ストイヘルハ、苛酷ノ處置アルヘカラサルハ勿論、鄭重ニ取扱ハサルヘカラサルヲイフノミ、又乙說ニテハ、舊律ト草案トヲ引證スレト、法文ニ發覺シタルノ文字ヲ、故ラニ刪除セラレシハ、即チ未發覺ト已發覺トヲ別タサルカ爲メナリ、舊律草案共ニ發覺シタルノ文字ヲケレハ、反テ乙說ノ如クニ論スルヲ得ヘケレト、先キニアリシ文字ヲ故ラニ削ラレシトハ、決シテ已發覺ノミナリトイフヲ得ス、且ツ第五百五十一條ノ罪ハ、犯罪後ニ於テ犯人ヲ幫助スルニ由テ、成ルモノナリトイヒシニアラスヤ、犯罪後ノ幫助者トシテ罰セハ、何ソ未發覺ト已發覺トヲ區別スルヲ、是レアラソ、故ニ犯罪人トハ、裁判所ニ於テ被告人トシテ公訴ヲ受クヘキ者ナイフナ

〔第一一七四號〕 今案ナルニ犯罪人ノ語ハ、立法上ヨリ論スレハ、頗ル穩當ナラサルヲ覺フ、法律上犯罪人ト稱スルハ、有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ限ルヘキコトナレハナリ、然レモ今法意ヲ考フルニ、第五百五十一條ニ犯罪人トイヘルハ、有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ限ラス、又已發未發ヲ別タス、總テ罪ヲ犯セシ者ナイフニモアラサルナリ、犯罪人ハ、即チ乙説ノ如ク已發ノ犯罪人ニシテ、未ダ拘禁セラレサル者ノ謂ナリ、思フニ犯罪人トアルハ、他ニ簡短ナル適當ノ語ナカリシカ故ナルヘシ、原稿第百八十五條ヲ直譯センニ、該條ニ曰ク、逃走ノ囚徒又ハ監視ヲ道カレタル者ナルヲ知テ、故ラニ隱匿ノ場所ヲ與ヘ、又ハ隱匿ヲ容易ナラシメタルニ由リ、罰スヘキ

者ハ、拘留若クハ禁錮ヲ言渡サレタル者、又ハ被告人等(ぶれう)にも、けるこんく)ニ係ルキハ、十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、○重罪ノ刑ヲ言渡サレタル者ニ係ルキハ、一等ヲ加フ、○逮捕セントスル公訴ノ目的ト爲リタル者ニ係ルキハ、未決囚ニ係ルキト同一ノ刑ニ處ス、

〔第一一七五號〕 如此ク原稿ニハ被告人等トアリ、又逮捕セントスル公訴ノ目的ト爲リタル者トアレハ、分明ニ已發ノ者チイヒ、未發ノ者チイハサルナリ、又罰金ニ當ル者ニシテ、治罪法ニ於テ逮捕ヲ許サ、ル者チ、隱匿セシ事モ、亦罰スルノ例ニアラザル明ナリ、然ルニ草案ニハ、單ニ發覺シタル犯罪人ト記シ、而シテ今ハ發覺ノ文字ヲ刪リテ、犯罪人ト記

サレタリ、或曰ク、如此ク變更セラレシヨリ、終ニ今日ノ如キ
議論ヲ生スルニ至リシナリ、若シ自ラ筆ヲ執ラハ、左ノ如ク
記スヘシ、曰ク、逃走ノ囚徒又ハ監視ヲ遁レタル者、及ヒ官司
ノ追喚スル者ナルヲ知テ、之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタ
ル者ハ云々、如此クナレハ、簡明ニシテ異議ノ生スルコトナカ
ルヘシト、

〔第一一七六號〕 余思フニ、此説簡明ニシテ、而シテ法意ヲ得ル
ニ似タリ、前ニモ一言セシ如ク、今法文ニ犯罪人トアルハ、其
元適當ノ譯語ナキニ由リシナルヘケレト、亦犯罪人トイヒ
テ其意ヲ盡クスヲ得ヘキカ故ナリ、或ハ被告人トイフヘシ
トイヘト、被告人トイヘハ、檢察官カ原告ト爲リ、起訴セシ後
ノ人ニアラサレハ、適當セス、故ニ其起訴前ノ人ヲモイハシ

カ爲メニ、犯罪人ノ語ヲ用ヒラレシナリ、然レトモ未發覺ノ者
トイフニアラス、何トナレハ未發覺ノ者ハ、社會ノ搜查スル
所ニアラス、其搜查スル所ニアラサレハ、之ヲ隱避セシメ藏
匿スルモ、直チニ官權ヲ蔑如シ、公益ヲ害スルニアラサレハ
ナリ、或ハ他日搜查ノ勞ヲ増サシムルノ恐アルノミ、尙ホ第
三章ニ靜謐ヲ害スル罪トアルニ依リ、此意ヲ會得スヘシ、未
タ其罪ノ社會ニ發覺セサル者ニ係ルトハ、之ヲ藏匿シ隱避
セシムルモ、靜謐ヲ害ズルコトナカルヘキナリ、又治罪法ニ於
テ、逮捕スルヲ許サル者ハ、此ニテハ犯罪人トイフヲ得ス、
何トナレハ、其者ハ自身出廷スルニ及ハス、又刑モ其身體ニ
對シテ、執行スルニアラサレハナリ、本人逃走シテ罪アル者
ノ外ハ、犯罪人トイヒ難シ、故ニ告訴發發現行犯ニ由リ逮

捕セシカ爲メ、官司ノ追喚スル者ノ意ニ解セサルヘカラス、
 如此クナレハ、原稿ノ意ニモ適シ、又舊律ノ意ニモ適スヘク、
 又治罪法ノ主義ニ質シテモ、之ニ適スヘキナリ、又草案ニア
 リシ發覺ノ語ヲ故ラニ、刪ラレタレハ、發覺セシ者トノミイ
 フヘカラスト論スル者アレハ、未發覺ノ者ハ、社會ニ於テ犯
 罪人ト稱スヘキ理ナケレハ、法律ニ於テモ之ヲ目シテ犯罪
 人トイフヘカラス、却テ未發覺ノ者ヲ指シテイハントスル
 事ハ、未發覺ノ語ヲ加ヘサルヘカラス、單ニ犯罪人トイヘハ、
 常ニ發覺セル者ヲ指スハ、當然ノコトナリ、故ニ細ニ事理ヲ推
 究スレハ、必スシモ或説ノ如ク、法文ヲ改メテ、官司ノ追喚ス
 ル者トスルヲ要セス、今ノ法文ニテモ、十分ニ其意ヲ盡スヘ
 キナリ、畢竟世間ニ異議ヲ生セシハ、法文ノ不明ナルニ由ラ

スシテ、反テ論者ノ不明ナルニ由ラスヤ、但シ立法上ヨリ論
 スレハ、官司ノ追喚スル者ト爲スノ渾然主角ナキニ若クナ
 キナリ、

〔第一一七七號〕

或曰ク、事既ニ官ニ發覺シテ、官司ニ追喚セ
 ラル、者ヲ藏匿シ若クハ隠避セシムルモ、其犯罪人ナリト
 稱スル者、果シテ犯罪人タルヤ否ヤヲ審定シ、眞ニ犯罪人タ
 ルハニアラサレハ、其藏匿シ隠避セシメタル者ヲ罰スヘカ
 ラス、何トナレハ、當初社會ハ犯罪人ナリト思料セシモ、其實
 犯罪人ニアラサレハ、是レ即チ無罪人ナリ、無罪人ヲ藏匿シ
 隠避セシムルハ、法律ノ罰スル所ニアラサレハナリ、然レモ
 是レ只解釋上ノコトニ、立法論ヲ爲スニ當テハ、之ニ異ナリ、
 藏匿シ隠避セシメタル罪ハ、官權ニ對スル罪ナリ、官ハ犯罪

入ナリト思料スレハ、之ヲ糾治スルノ權アリ、官ノ此權ヲ行フニ當テハ、人民ハ之ニ從ハサルヘカラス、然ルニ此官權ヲ行フヲ妨害スルカ故ニ、假令ヒ裁判ノ上無罪ニ歸スルモ、妨害人ノ罪ハ之ヲ問フヘシ、然ラサレハ徒條理ニ違フノミナラス、實際ニ於テモ亦甚タ不都合ナルヘシ、例ヘハ犯罪人ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメ、之レカ爲メニ、其犯罪人ハ期滿免除ヲ得タルカ如キ場合ニ於テハ、藏匿者ハ其目的ヲ達シ、其公害タル最大ナル場合ニ於テ、反テ其刑ヲ免ル、ニ至ルヘシ、豈如此理アラゾヤト、

〔第一一七八號〕 余思フニ然ラサルヘシ、社會カ認メテ犯罪人ト稱シ、其搜查ヲ爲スニ當テ、之ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタルニ於テハ、假令ヒ結局無罪ニ歸スルト雖モ、妨害者ハ

其罪ヲ免ル、コ能ハス、眞ノ犯罪人タルト否トハ、論スルヲ要セス、犯罪人ナリトシ、逃走ノ囚徒ナリトシテ、搜查スルニ當リ、此搜查ヲ妨害スルヲ以テ、罪ト爲スナリ、犯罪人ハ前ニ論セシカ如ク、已發覺ノ人ニシテ、搜查中ノ者タリ、搜查中ナルヲ以テ、藏匿シ又隱避セシムルコトアリ、已ニ藏匿シ隱避セシムルトアルニ由リ、其搜查中ノ者タルヲ知ルヘシ、其事發覺セス、搜查ナキニ於テハ、藏匿シ隱避セシムルノ原由ナシ、如此リナルヲ以テ、法文ニ所謂ル犯罪人トハ、犯罪ノ嫌疑ヲ受ケシ、搜查中ノ人ヲイフナリ、已ニ之ヲ解シテ搜查中ノ人トセハ、其結局有罪タルト無罪タルトハ、論スルニ及ハサルナリ、夫ノ逃走ノ囚徒ノ如キモ亦然リ、其實無罪ニシテ、拘禁セラルヘキ者ニアラスト雖モ、囚徒タル以上ハ、逃走スレハ

其罪ナキヲ得ス、又之ヲ隠避セシメタル者モ、其罪ヲ免ルヘ
カラサルナリ、且ツ或人ノ期滿免除ヲ得タルキトイフカ如
キハ、最モ非ナリ、此場合ハ其有罪タル論ヲ待タズ、有罪人
ル以上ハ、或ハ期滿免除、或ハ死亡、或ハ刑ノ廢止等ニ由リ、公
訴消滅スト雖モ、其消滅前ニ在テ、藏匿シ隠避セシメタル者
ノ罰セララルヘキハ、言ヲ要セサルナリ、

〔第一一七九號〕 又法文ニ監視ニ附セラレタル者トアリテ
其語意廣シト雖モ、是レ只附加刑ノ監視ノミチイフ、故ニ主
刑ノ終ニ於テ執行スル監視、主刑ノ期滿免除ヲ得タル場合
若クハ主刑ヲ免シテ、監視ニ付シタル場合ニ於テ、其刑人ヲ
藏匿シ隠避セシメタル者ヲ罰スルノミ、但シ輕罪ニ附加シ、
重罪ニ附加スル監視ヲ區別セズ、第一百五十一條第二項ニ重

罪ノ刑ニ處セラレタル者トアルハ、重罪ノ主刑ニ處セラレ
タル者チイフ、故ニ行政上ノ處分ニ係ル特別監視ニ付セラ
レタル者、公權ヲ剝奪セラレタル者、懲治場ニ留置セラレタ
ル者、罰金ヲ禁錮ニ換ヘラレタル者ノ如キハ、之ヲ藏匿シ隠
避セシムルモ、法律ノ罰スル所ニアラス、

〔第一一八〇號〕 未決ノ囚徒ニ係ルキハ、其罪未タ定ラサルヲ
以テ、終ニ重罪タルノ宣告ヲ受クルニ至ルモ、之ヲ藏匿シ隠
避セシメタル者ハ、常ニ第一百五十一條第一項ニ據テ、處斷セ
ラル、ト雖モ、重罪已決囚ニ係ルキハ、其第二項ニ據リ、一
等ヲ加ヘテ處斷セララル、或曰ク、重罪已決ノ犯人ニ係ルキハ、免
幽閉假出獄ヲ得タル者ト雖モ、之ヲ藏匿シ隠避セシムルニ於
テハ、亦罰セララルヘキヤ、余曰ク、免幽閉假出獄ヲ得タル者ハ、

逃走スト雖モ、逃走ノ罪ナシ、逃走ノ罪ナケレハ、藏匿者モ亦隨テ藏匿ノ罪ナカルヘキナリ、又出獄中ニ於テ、治産禁ヲ犯シ、停止公權ヲ行ヒ、若クハ保釋ヲ得タル者ノ逃走スル等ヲ知テ、之ヲ藏匿セシ者モ、亦罰セラル、トナシ、

〔第一一八一號〕 舊律ニハ、官司人ヲ差ハシ、追喚スルヲ知リ、家ニ藏匿シテ捕告ヲ行ハス、及ヒ逃走スル道路ヲ指引シ、衣糧ヲ資給シ、送テ他所ニ隱避セシムル者ト、官司ノ追捕ヲ偵知シテ、共事情ヲ漏泄シ、罪人ヲシテ隱避セシムル者ト、差別セリ、然レモ今ハ此差別アルニアラス、又盜賊窩主ノ例アリテ、一種ノ藏匿罪ト爲セリ、這モ亦今ハ第一百五十一條其他教唆者從犯ノ例ニ當ル者ノ外ハ、罰スルヲナシ、故ニ情ヲ知テ犯人ヲ容止シ、盜賊ヲ停歇スルモ、其罪ナシ、容止停歇ハ、捕

告ヲ行ハサルニ過キス、所動ニシテ無爲ニ係ルモノナリ、藏匿シ隱避セシムルハ、能動ニシテ有爲ニ係ルモノナリ、

〔第一一八二號〕 以上ハ、罪人ヲ藏匿シタル場合ヲ論セシナリ、今ヤ罪證ヲ隱蔽シタル場合ヲ論スヘシ、此場合ハ、第一百五十二條ノ規定スル所ニシテ、前ト同ク搜查ヲ妨害スルヲ以テ、之レヲ其罪ト爲スナリ、法文ニ曰ク、他人ノ罪ヲ免レシメソコトヲ圖リ、其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ、隱蔽シタル者ト、故ニ隱蔽ノ目的、他人ノ罪ヲ免レシムルニ在ルキニアラサレハ、罪トスルヲ得ス、此目的タル即チ搜查ヲ妨害セシトスルモノナリ、故ニ例ヘハ、殺害セラレタル者ノ死屍、吾カ所有地ニ沿フ水流中ニ在ルヲ見テ、之ヲ流失セシメタルキハ、是レ罪證ト爲ルヘキ必要ノ死屍ヲ隱蔽シタル者ナリ、然レモ其之

ヲ流失セシメタル旨趣、他人ノ謀故殺等ノ證據ヲ湮滅セシ
 メ、犯人ヲ曲庇スルニアラヌシテ、只吾カ所有地近傍ニ死屍
 アリ、爲メニ檢視其他ノ取調ヲ受クル等ノ煩ヲ厭フカ爲メ
 ニ、流失セシメタルキハ其所爲タル、捜査ノ妨害ヲササルニ
 アラヌト雖、法律ノ罰スル所ニハアラサルナリ、何トナレ
 ハ、他人ヲシテ其罪ヲ免レシメント圖リシニアラサレハナ
 リ、

〔第一一八三號〕 又第三百九十九條以下、贓物ニ關スル罪ト
 混スヘカラス、第五百二十二條ニ、廣ク他人ノ罪トアリ、又廣ク
 其罪證トアレハ、如何ナル罪ニ係ルモ、其證憑ヲ隱蔽スレハ
 皆本條ニ依リ之ヲ罰スヘキカ如シト雖モ、第三百九十九條
 以下ノ罪ニ該ルモノハ、第三百九十九條以下ニ依テ、之ヲ罰

シ、第五百五十二條ニ依テ、罰スヘキニアラヌ、然レハ其區別ヲ
 爲ス如何、曰ク草案第百八十六條ニハ、謀殺故殺其他ノ罪證
 ト爲ルヘキ死屍ヲ隱蔽シ、他人ノ罪ヲ免レシメント圖ル者
 云々トアリテ、死屍ヲ隱蔽スル者ヲ、第百八十六條、即チ今ノ
 第五百五十二條ニテ罪シ、贓物ニ關スル者ハ、第四百四十四條
 即チ今ノ第三百九十九條以下ニテ罰シ、其罪證ニ係ル所爲
 ハ、總テ之ヲ罰スルコトナシ、故ニ贓物ニ關スル罪ハ、目的ノ如
 何ニ拘ハラヌ、第三百九十九條以下ニテ罰スルノ趣旨タリ
 シコト明ナリト雖モ、今ハ第五百五十二條ノ法文ノ及フ所廣キ
 カ故ニ、草案ノ趣旨ヲ以テハ解シ難シ、案スルニ第三百九十
 九條以下贓物ニ關スル罪トハ、目的ノ如何ニ依リ區別スル
 キカ如シ、即チ贓物ニ係ルキト雖モ、他人ノ罪ヲ免レシムル

ヲ目的トスルハ、罪證隠蔽ノ罪トシ、利益ヲ得ルヲ目的トスルキハ、贓物ニ關スル罪トスヘキカ如シ、故ニ贓物ニ關スル罪モ、草案ノキトハ、其趣旨ヲ異ニス、草案ニテハ、利益ヲ得ルヲ目的トスルト、罪證ヲ隠蔽スルヲ目的トスルトヲ問ハス、財産ニ對スル犯罪ニ依リ、得タル物件ニ係ルキハ、第三百九十九條以下ニテ罰セシト雖モ、今ハ之ヲ區別シテ、利益ノ爲メニスル者ニ限リ、贓物ニ關スル罪トスヘキナリ、

〔第一一八四號〕 他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リトハ、其人ノ誰タルヲ知リテ、之ヲシテ罪ヲ免レシメンコトヲ圖ルヲイフヤ、將タ其人ノ誰タルヲ知ラサルモ、其罪ヲ免レシメント欲スルキハ、則チ罰スヘキヤ、又罪トハ重罪輕罪違警罪ノ別ナキヤ、曰ク、他人トハ、其指ス所廣クシテ、其人ノ誰タルヲ知

ぬ

ルト知ラサルトニハ關セサルヘシ、何トナレハ、公益ヲ害シ靜謐ヲ害スル罪ニシテ、搜查ヲ妨ケ、官權ヲ蔑加スルニ由リ、罰スルモノナレハナリ、例ヘハ一人アリ、山野ヲ過クルニ、偶々銃創ヲ負フテ路傍ニ死スル者アルヲ觀、之ヲ銃殺セシ者ノ誰タルヲ知ラスト雖モ、其人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ欲シテ、其死屍ヲ隠蔽セシ場合ノ如キモ、亦之ヲ罰スヘシ、故ニ又其罪ノ發覺セシト否トチモ別タサルヘシ、前ノ例ニ於テ、銃殺ノ罪ハ、未タ發覺セズ、偶然己レ獨之ヲ知リテ隠蔽スルモ、尙ホ隠蔽ノ罪ヲ免レズ、况ンヤ發覺ノ後ニ於テチヤ、何トナレハ、其搜查ヲ妨害スルニ至テハ、一ナレハナリ、加之豫審ニ於テ證憑不十分ナルヲ以テ、免訴ノ言渡ヲ爲シタル後ニ於テ、隠蔽シタルキモ、亦罰セラルヘシ、何トナレハ新ナル證憑

アレハ、檢察官ハ尙ホ起訴スルカ故ニ、隠蔽スレハ捜査ノ妨害タリ、而シテ又犯人ヲシテ其罪ヲ免レシムルニ足レハナリ、故ニ犯人ノ確定シテ、罪ヲ免レサル前ニ、之ヲ免レシメンコトヲ圖リ、罪證ヲ隠蔽スルキハ、輒チ隠蔽ノ罪アリ、然レモ公訴シテ消滅セシ場ノ如キ、未ダ其裁判ハ、是レナキモ、犯人ハ已ニ其罪ヲ免レタルカ故ニ、罪證ヲ隠蔽スルモ、其用ヲ爲サ、ルキハ、隠蔽ノ罪ナシ、是レ所謂ル不能犯罪ナリ、

〔第一一八五號〕 又他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リテ、罪證ヲ隠蔽スルモ、其罪タル罰スヘカヲサレモノ、若クハ其事タル罪ト爲ラサルキハ、他人ニ於テ免ルヘキノ責ナケレハ、前ニ論モシ所ト一般ニ、不能犯罪タルカ故ニ、隠蔽ノ罪ナシ、例ハ、刑法第七十五條、第七十六條、第七十七條、第七十八條、第

七十九條、第三百十四條、第三百十五條等ノ場合ニ係ル物件ヲ隠蔽スル如キ是レナリ、况ンヤ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケシノミニシテ、全ク無罪ナル人ノ嫌疑ニ係ル物件ヲ隠蔽セシキニ於テナヤ、然レモ罪證ヲ隠蔽セシカ爲メニ證憑十分ナルヲ得スシテ、免訴無罪ノ旨渡ヲ爲スニ至リシ場合ハ、上文ノ例ニ在ラス、他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ、罪證ヲ隠蔽スレハ、假令ヒ其圖ルカ如ク、他ヲシテ其罪ヲ免レシムルコトヲ得サルキト雖モ、尙ホ之ヲ罰ス、况ンヤ其目的ヲ達シ得テ、徒捜査ヲ妨害スルニ止マラス、遂ニ本犯ヲシテ其罪ヲ免レシメシニ於テナヤ、

〔第一一八六號〕 或曰ク罪證ト爲ルヘキ物件トハ如何、或ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件アリ、或ハ犯罪ニ因テ得タル物件

アリ、或ハ罪體中ノ物件アリ、又或ハ犯所ニ遺失シタル物件ノ如キ、犯罪ノ用ニ供シタルニアラス、犯罪ニ由テ得タルニアラズ、又罪體中ニ入ルニモアラサル物件アリ、例ヘハ殺人罪ニ就テイハンニ、人ヲ殺シタル刀刃ノ類ハ、犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ、被害者ノ死屍ハ、罪體中ノモノナリ、其犯所ニテ發見シタル懷中物、煙草入、手拭ノ類ハ、遺失シタル物件ニシテ、亦大ニ犯人ノ誰タルヲ認知スルニ緊要ナル具ナリ、又盜贓ノ如キハ、犯罪ニ由テ得タル物件ナリ、尙ホ且ツ細ニ考フレハ、他ニモ罪證タルヘキ物件アリ、毒殺ニ就キ、其用ニ供セヌシテ、自家ニ貯ヘタル毒藥、又ハ此毒藥ヲ買取シタル文證、又ハ之ヲ製シタル器具ノ如キ、皆罪ヲ犯ス豫備中ノモノナレトモ、亦以テ罪證ト爲スヘキモノナリ、又人ヲ殺シタ

ル刀刃上ノ血痕、若クハ庭上ニ留タル足跡ノ如キモ、罪證タルヘシ、總テ此罪證ヲ隠蔽シ湮滅セシムレハ、皆之ヲ罪トシ罰スヘキヤ、

〔第一一八七號〕 前ニモ一言セシ如ク、原稿ニテハ、人ノ死屍ヲ隠蔽セシ者ヲ罰スルノミニシテ、廣ク罪證ヲ隠蔽セシ者ヲ罰スルニアラス、死屍ハ罪體中ノモノニシテ、人命ニ係ル罪ニ限リテ存スルノミ、其他ハ贓物ニ關スル罪トシテ罰シ、罪證隠蔽ノ罪ハ、曾テナカリシ所ナリ、故ニ原稿ノ意ヲ推シテハ、解スルヲ得ス、又舊律ニモ、罪證隠蔽ノ罪ハ、見エサルモノナリ、故ニ舊律ニ就テモ、此罪ヲ解スヘキ參考ノモノナシ、且ツ此罪ハ、他ノ偽證ノ罪等ニモ、自ラ關係アルモノナレトモ、偽證罪ニ參照シテモ、大ニ其權衡ヲ異ニシ、立法上ヨリ論ス

レハ、罪證隠蔽ノ罪ハ、實ニ解スヘカラサルモノ多シ、第二百十八條偽證罪ニハ、被告人ヲ曲庇スルトト陷害スルトト別テ、又重罪輕罪違警罪ノ三罪ニ就キ、偽證ノ刑ニ輕重ノ別アリ、而シテ違警罪ヲ曲庇スル者ハ、僅ニ違警罪ノ刑ニ處セラル、ニ止マリ、而シテ違警罪ノ罪證ヲ隠蔽スレハ、常ニ輕罪ノ刑ニ處セラレ、豈ニ其權衡ヲ得タリトイフヲ得ンヤ、

〔第一一八八號〕 余案スルニ、法文ノミニ就テ考フレハ、其及フ所極メテ廣ク、際限ナキカ如シ、然レモ苟モ犯罪ニ關係アル者ハ、皆所謂ル罪證ニハアラサルヘシ、何トナレハ犯所ニ遺失シタル物件、犯罪豫審中ノ物件ノ如キハ、事實參考ノ物件ニ過キス、本人ノ自認若クハ他人ノ證言ナキニ於テハ、之ヲ以テ罪ヲ斷スヘカラズ、例ヘハ甲ノ家ニ於テ、衣服若干品

ヲ盜取セラレ、而シテ衣服ノ在リシ近傍ニ乙ノ手拭アルヲ發見セシニ、其手拭ハ、事實參考ノ物件ニ過キス、其物件ノミニテ他ニ事實ノ見ルニキモノヲテレハ、有罪タルヲ推測スヘカラズ、此場合ニ於テ手拭ヲ隠蔽スル者アルモ、罪證隠蔽ノ罪ナシ、若シ此手拭ヲ發見セシトニ就キ、訊問ヲ要スレハ、其發見者隠蔽者ヲ召喚シ、證人トシテ訊問スヘシ、證人トシテ訊問セラレ、虛偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ、即チ偽證ノ罪ヲ以テ處斷スヘシ、之ニ反シテ盜賊ノ衣服ヲ隠蔽シタル者ハ、罪證隠蔽ノ罪アリ、被害者ノ衣服ヲ盜取セラレタル者アレハ、其衣服ハ、即チ盜賊タルヲ疑フニ盜罪ニ盜賊ヲキモノナク、盜賊アレハ、必ス盜罪アリ、決シテ相離ルヘカラサルモノナリ、夫ノ手拭ノ如キハ、然ラズ、手拭アルニ由テ盜罪アリトイ

フヘカラス、又殺害セラレタル者ノ死屍ノ如キモ、殺人罪ト
 離ルヘカラスサルモノナリ、豈ニ死屍ナキノ殺人罪アランヤ、
 余思フニ、罪證トハ、直チニ犯罪ノ有無ヲ證スルモノニシテ、
 加害者ノ誰タルヲ證スルモノニアラス、故ニ之ヲ要スルニ、
 罪體中ニ入り、若クハ犯罪加等ノ情狀中ニ在ル物件(例ヘハ
 盜罪ヲ犯スニ用ヒタル兇器ノ類)ニアラサレハ、罪證トシテ
 之ヲ隱蔽セシ者ヲ罰スヘカラスナリ、
 [第一一八九號] 法文ニ、他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リト
 アルノヨニシテ、他人ヲ罪ニ陷レンコトヲ圖リ、罪證ヲ虛構シ
 タル者ヲ罰スルノ明文ナシ、今案スルニ罪證隱蔽ノ罪ハ、証
 告ノ罪ト相表裏スルモノトシテ、之ヲ觀ハ、其罪ノ成立スル
 所以ヲ解スルヲ得ヘキナラン、實ハ、証告罪ハ、私罪ニシテ、罪

證隱蔽ノ罪ハ、公罪タルカ故ニ、之ヲ表裏スルモノトハイフ
 へカラス、然レモ罪證ヲ虛構シ、他人ヲ罪ニ陷レンコトヲ圖リ
 タル者ハ、証告ノ罪ニ入ルヘシ、此場合ニ於テ罪證ヲ虛構セ
 シニハ、必ス罪體中ノモノヲ擧ケテ、證據トセサルヘカラス、
 之ヲ虛構スレハ、証告罪ニシテ、之ヲ隱蔽スレハ、罪證隱蔽ノ
 罪ナリ、是レ之ヲ相表裏スルモノナリトイヒシ所以ナリ、其
 ニシテ私罪ニ入ルハ、被害者ノ私害ヲ主トシテ之ヲ罰シ、其
 ニシテ公罪ナリトモシハ、社會ヲ攪乱シ妨害スルヲ主トシタル
 三由ル、故ニ偽證ノ罪ノ如キハ、公罪中ニ在リ、而シテ偽證ノ罪
 ハ刑事ノヨチラハ、民事商事行政裁判ニ係ルモノモ亦是レ
 ナリ、罪證隱蔽ノ罪、及ヒ証告ノ罪ハ、刑事ナリトモ限ル、是レ隱
 蔽ノ罪ハ、官ヲ搜查ヲ妨害スルヲ以テ成リ、証告ノ罪ハ、人ヲ

罪ニ陷ル、ヲ以テ成ルモノナレハナリ、其罪ニ陷ル、ヲ以テ成ルカ故ニ、誣告ノ罪ヲ構成スルニハ、必ス罪體タルヘキモノヲ虚構シテ、之ヲ申告セサルヘカラス、民事商事等ニモ、法律ニ於テ罪トハセサレヒ、誣告スルコトナキニハアラス、此場合ニハ、必ス本案ノ事件ヲ虚構セサルヲ得ス、而シテ之ヲ罪トセサルハ、一ニ定マリタル一人ニ對シ、一事ニ就キ其私益ヲ害スルノミニシテ、管テ社會全體ニ其害ヲ及ホサ、レハナリ、偽證ノ罪ハ、直チニ官權ヲ害シ、直チニ公益ヲ害スルヲ以テ、刑法ニ於テ之ヲ罰ス、刑法ニテ隠蔽ノ罪ヲ罰シ、且ツ之ヲ公罪中ニ入レシハ、公法ヲ犯セシ者ト、誣告シテ而シテ捜査ヲモ妨害スルヲ以テナリ、但シ立法上ヨリ論スレハ、隠蔽ノ罪ヲ罰スル第百五十二條ハ、恐シハ廣キニ失シ、其權衡ヲ得

シモノニハアラサルヘキナリ、
 [第一一九〇號] 藏匿隠蔽及ヒ隠蔽ノ三罪ハ、其原犯ノ親屬ニ係ルキハ、之ヲ論セス、而シテ之ヲ論セサルハ、舊律ノ親屬相爲容隠ノ條ト同意ナリ、即チ人情ニ本キ天理ニ原キ、風俗ヲ厚フスル所以ナリ、佛國刑法第二百四十八條ノ意モ、亦之レニ外ナラス、而シテ舊律ハ支那律ニ據リシモノニシテ、支那律ハ、思フニ、孟子ニ基キシモノナルヘシ、孟子ニ云ク、排應問曰、舜爲天子、皋陶爲士、瞽瞍殺人、則如之何、孟子曰、執之而已、然則舜不禁與、曰、夫舜惡得而禁之、夫有所受之也、然則舜如之何、曰、舜視棄天下猶棄敝屣也、竊負而逃、遵海濱而處、終身訢然而忘天下ト、是レ人情ノ正ヲ得タルモノニシテ、而シテ後世親屬相容隠スルヲ許スノ法ト爲リシ所以ナルヘシ、但シ舊律ニ

テハ、奴婢雇人家長ノ爲メニ容隠スル者モ、亦其罪ヲ論セサルナリ、然レモ今ハ此事ナシ、而シテ人民平等ノ主義ニ考フルモ、又明治四年八月晦日大藏省第百十八号布告ニテ家來同様ノ取扱ヲ爲ストテ禁シ、及ヒ明治五年十月二日第百九十五号布告藝娼妓等ヲ解放スルノ主意ニ由ルモ、是レアルヲ得サルナリ、(一五三條)

〔第一一九一號〕 親屬ニ係ルモ、其罪ヲ論セス、然レモ之ヲ論セサルハ、總則第七十五條以下ノ不諭罪ト異ナリ、管テ論セシ如ク總則ノ不諭罪ハ、罪ノ論スヘキモノナキ、眞ノ無罪ナイフ、親屬ニ係ル不諭罪ハ、罪アレモ之ヲ論セサルナイフ、是レ有罪ニシテ、刑ノミチ免スルモノナリ、其所爲ノ罪ト爲ラサルニアラス、其人ノ情ヲ原ネテ、刑ヲ科セサルナリ、若シ

之ヲ眞ノ無罪人トセハ、親屬ハ之ヲ行フ爲メ、人ヲ殺スモ第百九十六條ヲ適用スルコトナカルヘシ、然レモ第百五十一條第百五十二條ノ輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ、又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ、人ヲ殺シタルモ、親屬タリト雖モ、第百九十六條ニ依リ、處斷セラル、是レ其罪ナキニアラス、シテ、其罪アリト雖モ、只其刑ヲ免スルノミチナルカ故ニ、他ノ事件ニ就テハ、有罪視セラル、コトヲ免カレス、

〔第一一九二號〕 親屬タリト誤信シテ、之ヲ隱避セシメ、又ハ其罪證ヲ隱蔽セシメ、其者親屬タラシモ、如何、或曰ク、只其刑ヲ科セサルノミチナラス、是レ第七十七條ニ所謂ル罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラスシテ、犯シタル者ナレハ、眞ニ無罪タル者ナリト、論者曰ク、然ラス、第七十七條ヲ適用シテ、無罪ナリ

トイフハ、第七十七條ノ意ヲ解セサル説ナリ、第七十七條ヲ適用シテ、無罪ナリトイフ場合ハ、犯罪ヲ構成スル事件ヲ誤認シタルキニ在リ、例ヘハ、有夫ノ婦ヲ處女寡婦ト誤認シテ相交リ、又ハ二十歳未滿ノ幼者タルニ、其以上ノ丁年者ト誤認シテ誘拐セシ如キ場合ヲイフ、此場合ニ於テハ、其所爲ノミニテハ、法律ノ罪トセサル所ナリ、即チ男女相交リ、又ハ人ヲ誘拐スルノ所爲ハ、或ハ不正トイアルヘケレトモ、亦或ハ正當トイアルヘキモノニシテ、法律上ヨリ觀レハ、人ノ自由隨意ニ爲ストチ得ル所ナリ、故ニ其事ニハ罪ナシシテ、人ニ由テ罪ヲ爲ス、又例ヘハ、盜罪ノ場合ニ於テ、人ノ所有物ヲ吾カ所有物ト誤認シテ、之ヲ竊取スルノミナラス、強取セシ場合ノ如シ、之ヲ取去スルノ所爲ハ、罪ニアラス、其罪ト爲ル所ハ、他

入ノ所有物タル所ニ在リ、如此キ場合ニ於テハ、眞ニ有夫ナリ、幼者ナリ、又人ノ所有物タルヲ知ラスシテ、交通シ、誘拐シ取去シタル者ハ、即チ罪ト爲ルヘキ事實ヲ、知ラサルヲ以テ、無罪タルヘシ、然レモ藏匿隠蔽等ノ場合ハ、之レニ異ナリ、犯人ヲ藏匿シ、罪證ヲ隠蔽スルハ、法律ノ罰スル所ナリ、之ヲ知テ犯シタル者ハ、親屬タリト、誤認セシトイフヲ以テ、其罪ヲ免ルヘキニアラス、親屬ハ犯罪ヲ構成スル元素ニアラス、又親屬ニ係ルモ、其罪ナキニアラス、僅ニ其刑ヲ免ル、ノミ、親屬タレハ、藏匿隠蔽スルヲ許ストイフノ法意ニアラス、只其刑セサル所ヨリ觀レハ、之ヲ許スカ如キノミ、藏匿隠蔽ハ、法律上ニ於テ惡事ナリトスル所ナリ、之レニ反シテ、男女相交ルハ、天地ノ道、人倫ノ初ニシテ、固トヨリ善事ナリ、誘拐取去